

山室遺跡（第2次）発掘調査報告

2013（平成25）年

三重県埋蔵文化財センター



E区下層全景(北から)



中世墓出土蔵骨器、鉢転用蓋

例 言

- 1 本書は、三重県津市牧町・新家町に所在する山室遺跡・八田垣内遺跡・地藏堂遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の調査は、平成22年度経営体育成基盤整備事業（桃園西部地区）・平成23年度高度水利機能確保基盤整備事業（桃園西部地区）に伴い、三重県教育委員会が三重県農林水産部（旧農水商工部）から依頼を受けて実施した。
- 3 発掘調査の経費は、その一部を国庫補助金を得て三重県教育委員会が負担し、他は三重県農林水産部から経費の執行委任を受けた。
- 4 調査の体制等は次の通りである。
調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
主幹 中井良和 技師 高松雅文
調査期間 平成23年5月17日～平成23年9月16日
調査面積 1,188㎡
- 5 調査にあたっては地元自治会、桃園西部土地改良区をはじめ、三重県農林水産部、津農林水産商工環境事務所、津市教育委員会の協力を得た。
- 6 当報告書の作成業務は三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が担当した。執筆は高松、中井、櫻井拓馬があたり、文責は目次に記した。遺物の撮影は調査研究2課田中久生が行った。全体の編集は櫻井があたった。
- 7 当地は平面直角座標系第Ⅵ系に属しており、本書での方は座標北を使用している。なお、座標値は世界測地系2000に基づいて表示している。
- 8 土層及び遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖（21版）』による。
- 9 本書では、以下のように遺構の略記号表記をしている。なお、いわゆる竪穴住居については、竪穴建物と呼称することとした。
SD：溝 SH：竪穴建物 SK：土坑 SZ：性格不明遺構 NR：旧河道
Pit：柱穴・小穴
- 10 本書で使用する用語は、以下に統一している。
つば：壺 わん：碗 つき：杯 なべ：鍋
- 11 出土砥石の記述にあたり、砥石目の粒度を数値化し、本文中および遺物観察表に記した。詳細はP40を参照されたい。
- 12 挿図と写真図版の遺物番号は相互に対応している。なお、遺物の写真図版は縮尺不同である。
- 13 出土人骨の自然科学分析は、パリア・サーヴェイ株式会社が受託のうえ実施した。
- 14 当発掘調査の記録および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。ご活用願いたい。

目 次

巻頭図版

例言

目次

I	前言	(高松)	1
	1. 調査に至る経過		1
	2. 文化財保護法等にかかる諸手続き		1
	3. 調査経過		1
II	位置と環境	(高松・中井)	3
	1. 地理的環境		3
	2. 歴史的環境		3
III	遺構	(高松)	8
	1. 範囲確認調査		8
	2. E区の調査		10
	3. F区の調査		25
	4. G区の調査		35
IV	遺物	(櫻井)	40
	1. 出土遺物の概要		40
	2. 範囲確認調査の遺物		41
	3. E区の遺物		41
	4. F区の遺物		42
	5. G区の遺物		43
V	山室遺跡出土人骨の鑑定	(パリオ・サーヴェイ株式会社)	64
VI	まとめ	(高松・櫻井)	69
	1. 遺構のまとめ	(高松)	69
	2. 遺物のまとめ	(櫻井)	71
	3. 山室遺跡をめぐる諸問題	(高松)	72

遺構一覧表 75

遺物観察表 77

巻末図版

図版目次

第1図	遺跡位置図	5	第21図	G区平面図	37
第2図	遺跡地形図	5	第22図	G区土層断面図	38
第3図	調査区位置図	6	第23図	S H125・S D110等平面図・断面図	39
第4図	範囲確認調査坑43	9	第24図	出土遺物実測図1	45
第5図	E区平面図	14	第25図	出土遺物実測図2	46
第6図	E区土層断面図	15	第26図	出土遺物実測図3	47
第7図	E区S H86・S H95・S H96平面図・断面図	16	第27図	出土遺物実測図4	48
第8図	E区S H90平面図・断面図	17	第28図	出土遺物実測図5	49
第9図	E区S H93・S H97・S K85平面図・断面図	18	第29図	出土遺物実測図6	50
第10図	E区S K21・S K22・S K23・S K26等平面図・断面図	19	第30図	出土遺物実測図7	51
第11図	E区S K21・S K22・S K23・S K26等遺物出土状況(上層)西半	20	第31図	出土遺物実測図8	52
第12図	E区S K21・S K22・S K23・S K26等遺物出土状況(上層)東半	21	第32図	出土遺物実測図9	53
第13図	E区S K21・S K22・S K23・S K26等遺物出土状況(下層)西半	22	第33図	出土遺物実測図10	54
第14図	E区S K21・S K22・S K23・S K26等遺物出土状況(下層)東半	23	第34図	出土遺物実測図11	55
第15図	E区S K24とS Z35平面図・断面図	24	第35図	出土遺物実測図12	56
第16図	F区平面図	29	第36図	出土遺物実測図13	57
第17図	F区土層断面図	30	第37図	出土遺物実測図14	58
第18図	S H44・S H45平面図・断面図	32	第38図	出土遺物実測図15	59
第19図	S H48~51・S H54等平面図・断面図	33	第39図	出土遺物実測図16	60
第20図	S K52・S K67平面図・断面図	34	第40図	出土遺物実測図17	61
			第41図	出土遺物実測図18	62
			第42図	出土遺物実測図19	63
			第43図	人体骨格各部の名称	64
			第44図	出土人骨	66
			第45図	山室遺跡周辺における渡来系遺物・氏族の分布	74

表目次

第1表	人骨同定結果	67	第3表	遺構一覧表	75
第2表	渡来系遺物・古代氏族の一覧	74	第4表	遺物観察表	77

写真図版一覧

・巻頭図版

- E区下層全景(北から)
- 中世幕出土蔵骨器、鉢転用蓋

・写真図版1 (E区)

- E区上層全景(北から)
- S K21~23・26出土状況(南東から)

- 写真図版2 (E区)
 - S K 21~23・26上層出土状況1 (南西から)
 - S K 21~23・26上層出土状況2 (南西から)
 - S K 21~23・26上層版出土状況 (北から)
 - S K 21~23・26下層出土状況1 (南西から)
 - S K 21~23・26下層出土状況2 (東から)
 - S K 21~23・26下層出土状況3 (北から)
 - S K 21~23・26下層紡錘車出土状況 (南から)
 - S Z 35 (東から)
- 写真図版3 (E区下層)
 - E区下層全景 (北から)
 - S H 86 (南東から)
- 写真図版4 (E区下層)
 - S H 86 出土状況 (南西から)
 - S H 90 (北西から)
 - S H 90 カマド (西から)
 - S H 96 カマド (北西から)
 - S H 95 と S H 96 (東から)
 - S H 93 と S K 85 (西から)
 - S K 85 (北から)
 - S K 85 出土状況 (西から)
- 写真図版5 (F区)
 - F区全景 (南東から)
 - S K 60 付近 (北東から)
 - S D 56 ~ 58・65 付近 (北東から)
 - S H 50 付近 (北東から)
 - S D 42・43 付近 (北東から)
- 写真図版6 (F区)
 - S H 44・S H 45 (北から)
 - S H 44・S H 45 (南から)
- 写真図版7 (F区)
 - S H 44 出土状況 (南西から)
 - S H 44 Bb 22 Pit 2 出土状況 (南西から)
 - S H 45 出土状況 (南東から)
 - S H 45 出土状況 (北から)
 - S K 52・S K 67 (南東から)
 - S K 67 出土状況 (東から)
 - S K 52 出土状況 (南東から)
 - S K 52 出土状況 (東から)
- 写真図版8 (G区)
 - G区全景 (北から)
 - 雨のG区 (東から)
 - S H 125 (南から)
- 写真図版9 (出土遺物①)
 - 遺物 14・15・25・26・30・32・34
- 写真図版10 (出土遺物②)
 - 遺物 36・41・45・46・60・66・67・79・87・89
- 写真図版11 (出土遺物③)
 - 遺物 92・97・113・121・122・123・145・152・255
- 写真図版12 (出土遺物④)
 - 遺物 159・160・163・165・170・171・177
- 写真図版13 (出土遺物⑤)
 - 遺物 184・185・191・195・197・198・199・206
- 写真図版14 (出土遺物⑥)
 - 遺物 176・202・207・210・228・243・245・254
- 写真図版15 (出土遺物⑦)
 - 遺物 268・270・272・274・275・277・279・280
- 写真図版16 (出土遺物⑧)
 - 遺物 276・282・283・284・287・293・294
- 写真図版17 (出土遺物⑨)
 - 遺物 295・296・299・301・305・306
- 写真図版18 (出土遺物⑩)
 - 遺物 308・309・310・318・320・325・S H 45
出土鉄滓
- 写真図版19 (出土遺物⑪)
 - 遺物 346・369・419・464・495・497・499
- 写真図版20 (出土遺物⑫)
 - 遺物 511・516・523・526・530・535・537
- 写真図版21 (出土遺物⑬)
 - 遺物 552・554・553・557・575・584・585・606
- 写真図版22 (出土遺物⑭)
 - 土鍾、鉄製品

I 前 言

1. 調査に至る経過

山室遺跡が発掘調査に至った契機は、平成23年度高度水利機能確保基盤整備事業（桃園西部地区）による。この事業は「戦略的な農業を目指し、大規模営農に取り組むことで競争力を高めるとともに、産地の形成や多品目適量生産を実現させるためには、農産物の高品質化や多品目の育成に向けた水管理の省力化・高度化が必要なことから、水管理の自動化など高度な水利機能を有する高性能な生産基盤を整備する」ものである。

事業地には山室遺跡・八田垣内遺跡・地藏堂遺跡の存在が知られていたため、遺跡の保存について県

農林水産部（旧農水商工部）と協議を開始した。まず事業地内遺跡範囲101.100㎡を主対象として確認調査を実施することになり、当センターが平成22年10月18日～11月10日の期間で実施し、確認調査坑の一部からピット等の遺構を確認した。これを受けて当センターは山室遺跡で800㎡の範囲に保護措置が必要と判断し、県農林水産部へ回答した。両者で協議が重ねられたが、どうしても保存困難な部分について発掘調査を実施し、記録保存することになった。

2. 文化財保護法等に関する諸手続き

文化財保護法（昭和25年法律第214号）および三重県文化財保護条例（昭和32年条例第72号）にかかわる諸手続きは、以下のとおりである。

○三重県埋蔵文化財保護条例第48条第1項

・平成22年8月24日付 津農環第1349号
三重県知事から三重県教育委員会教育長あて
「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」

○三重県埋蔵文化財保護条例第48条第2項

・平成22年9月3日付 教委第12-4063号
三重県教育委員会教育長から三重県知事あて
「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について（通知）」

○文化財保護法第99条第1項

・平成23年5月30日付 教理第65号

三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長あて

「埋蔵文化財発掘調査の報告について」

○文化財保護法第100条第2項

・平成23年2月22日付 教委第12-4412号（山室遺跡）、同日付 教委第12-4413号（八田垣内遺跡）、同日付 教委第12-4414号（地藏堂遺跡）

三重県教育委員会教育長から津南警察署長あて

「埋蔵文化財の発見について（通知）」

・平成23年9月27日付 教委第12-4402号

三重県教育委員会教育長から津南警察署長あて

「埋蔵文化財の発見について（通知）」

3. 調査経過

（1）平成22年度の範囲確認調査

範囲確認調査は平成22年10月18日～11月10日にかけて実施した。この結果、土師器・須恵器等の遺物、ピット等の遺構をとらえた他、中世の遺構面（上層）と弥生時代・古墳時代を中心とする遺構面（下層）の2面が存在することが判明した。この範囲確認調査の面積は1,280㎡（160箇所）である。

（2）平成23年度の発掘調査

保護措置が必要と判断した対象地は3つの地点に分かれていたため、東からE区・F区・G区と呼称して、E区から発掘調査を開始した。このうちE区では中世の遺構面と弥生・古墳時代の遺構面が遺存していたため、それぞれ調査を行った。F区に関しては、当初南北66mの調査区であったが、北側へ横

張して最終的に南北126mとなった。E区・F区の遺構等の事情から最終的には1,002㎡の範囲を発掘調査した。なお、E区では2面の遺構面を調査したため、延べ面積は1,188㎡に及んだ。

調査経過で特記すべき事項として、雨天等により休工を余儀なくされた日が多かった点である。特に7月19～21日に台風6号、9月2日～5日に台風12号の影響で休工となった。その他、8月13日に現場詰所のエアコンが盗難に遭うという珍事に見舞われた現場でもあった。

【全体経過】

5月17日 契約開始（有限会社足立水道による落札）

5月31日 現地協議

6月3日 現地調査開始

9月1日 現地調査終了

9月3日 台風12号の影響により現地説明会中止

9月16日 契約終了

【E区】

E区に関しては中世の遺構面（上層）の後、弥生・古墳時代（下層）の遺構面の調査を行った。上層は6月6日～7月15日に調査を行い、下層は7月28日～8月15日に調査した。

6月3日 現況の段階確認

6月6日 表土掘削開始

6月13日 表土掘削後の段階確認、包含層掘削開始

6月15日 包含層掘削後の段階確認、遺構掘削開始

6月22日 写真撮影

6月23・24日 実測

7月5日～15日 土器集中地点の実測・土器取上げ

7月28日 下層の調査開始、掘削（重機）開始

7月29日 掘削（重機）後の段階確認、包含層・遺構掘削開始

8月10日 写真撮影、実測開始

8月12日 調査後の段階確認

8月15日 E区の調査終了

【F区】

F区に関しては、当初南北66mの調査区であったが、北側へ拡張して最終的に南北126mとなった。

6月8日 現況の段階確認

6月23日 表土掘削開始

6月24日 表土掘削後の段階確認

6月27日 包含層掘削開始

6月28日 遺構掘削開始

6月30日 写真撮影

7月1日 調査区の拡張を決定、拡張区現況の段階確認、表土掘削開始

7月12日 表土掘削後の段階確認

7月13日 包含層・遺構掘削開始

7月28日 写真撮影

7月29日 写真撮影、調査後の段階確認

8月1日 実測開始

8月8日 実測終了、F区の調査終了

【G区】

G区は面積等の変更なく調査が進められた。

6月14日 現況の段階確認

8月3日 表土掘削開始

8月10日 表土掘削後の段階確認

8月11日 包含層・遺構掘削開始

8月19日 調査後の段階確認

8月24日 写真撮影

8月26日 実測開始

8月31日 実測終了、G区の調査終了

(3) 発掘調査の普及・公開

当該発掘調査に関連する普及・公開事業として、現地説明会を予定していた。しかし台風12号の影響によって中止となった。このため、平成23年9月25日に地元説明会を行った。

また、調査成果報告会として平成24年3月24日に開催した「おもろいもん出ましたんやわ@三重2011」において、調査成果の概要報告と遺物展示を行った。

II 位置と環境

1. 地理的環境

山室遺跡(1)は、津市(旧久居市)牧町にあり、雲出川下流左岸の沖積地に立地する。北側は河岸段丘が広がり、現在の集落や久居市街が展開する。南側は雲出川が東流しており、丘陵と河川に挟まれた当地は、幾度も洪水の被害を被ったであろう。こうした地形のため、物部神社(29)周辺にあった集落は江戸時代に台地上に移っている。

当地の特徴として、雲出川の渡河の点から交通の要衝という点もあげることができる。いわゆる奈良街道⁽¹⁾は、久居城下町から川方町・牧町・山室遺跡を経て川の左岸を南進、雲出川を渡河し、河原木造へと至る。物部神社を志志頓宮とみる説⁽²⁾は、こうした立地も勘案されているのだろう。

2. 歴史的環境

山室遺跡の現況は水田・畑地となっているが、調査の結果、自然堤防や低位段丘等が埋没しており、これらの微高地を巧みに利用しながら遺跡が形成されていることが分かった。伊勢湾岸において屈指の河川である雲出川の氾濫を幾度も受けながら、この地を豊かな穀倉地帯へと変えていった人々の苦勞が偲ばれる。

(1) 縄文時代・弥生時代

縄文時代の遺跡として、木造赤坂遺跡(13)・井手ノ上遺跡(14)をあげることができ⁽³⁾、後期から晩期の竪穴建物・土坑が確認されている。弥生時代の代表的な遺跡では、畠と水田が検出された筋違遺跡⁽⁴⁾(19)や多数の竪穴建物が確認された四ツ野遺跡⁽⁵⁾が注目されよう。また、山室遺跡に隣接する長持元屋敷遺跡⁽⁶⁾(11)では、方形周溝墓等が確認されており、弥生時代から近世に至る複合遺跡であることが発掘調査で明らかにされている。

(2) 古墳時代

雲出川右岸では、筒野1号墳・西山1号墳(20)・向山古墳・錦山古墳のように、前期において首長墓の形成が盛んであるが、左岸では低調である⁽⁷⁾。しかし碧玉製合子が出土した大塚山古墳(17)が確認されている。このほか、時期不明ながら、里中遺跡(16)において鏡・管玉・ガラス小玉の出土が知られており、首長墓の候補としてあげられよう⁽⁸⁾。

中期以降は首長墓の造営が低調となり、小規模墳の築造が増す。舞出北遺跡⁽⁹⁾(18)等がその代表で

あろう。後期になると、段丘上において群集墳の形成が盛んになる。山室遺跡の北側においても5基からなる牧古墳群⁽¹⁰⁾(4)が確認でき、須志器などが採集されている。

古墳時代の集落としては、前期に大型独立棟持柱掘立柱建物とそれを囲う区画、後期を中心とした多数の竪穴建物が検出された高茶屋大垣内遺跡⁽¹¹⁾が大規模な遺跡といえる。また、木造赤坂遺跡と井手ノ上遺跡において集落が確認できるほか、韓式系土器の出土が特筆される。

(3) 古代

古代律令制下においてこの地域は一志郡に属することになる。片野遺跡⁽¹²⁾(22)や平生遺跡⁽¹³⁾(21)のほか、堀田遺跡(28)などにおいて暗文土師器が大量に出土している。古代寺院として、高岡廃寺・八太廃寺・天花寺廃寺(23)など白鳳寺院が密集していることが特徴である。寺院が密集する背景として、氏族の分立とともに渡来系氏族がこの地に多く居住することも関連しているのだろう。

平安時代になると、木造赤坂遺跡において後期の大規模な屋敷地が確認されており、「木造庄」との関連が指摘されている⁽¹⁴⁾。

(4) 中世・近世

古代から中世においては、山室遺跡において中世墓の可能性をもつ土坑等が確認されたほか⁽¹⁵⁾、川方城ノ越遺跡(6)・川方川原遺跡(5)においても当該期の土器が出土している⁽¹⁶⁾。また、長持元

屋敷遺跡⁽⁷⁾において室町時代の中世墓が見つかっている。

中世における当地を知るには、木造荘の存在を抜きにして語れない。木造荘は「平家没官領」として知られ、11・12世紀代の伊勢平氏根本領として存在していた。荘域は現在の津市木造町を中心に、雲出川対岸の松阪市嬉野川原木造町付近までをも含む広大な範囲と考えられる。木造荘は、鎌倉時代には久我家領となる。その後、南北朝中期以降は久我家と同じ村上源氏中院流の北畠氏が代官となり、室町戦国期を通じて強い影響を及ぼすこととなる⁽⁸⁾。

これ以外の手がかりとして『神鳳鈔』をあげることができ、これに「下牧御厨」と「河方御厨」の記載がある。前者を牧町、後者を川方町に比定する説があり、これらを考慮すれば、中世前半においては、神宮領が広がっていたようである。

室町戦国期になると、当地を含む雲出川流域には、伊勢国司を称する北畠氏が強い影響を及ぼしている。北畠氏一族ながら独立性の強い木造氏が当地に入党し、室町期の段階には木造城(15)が存在していたと考えられる。また、北畠氏・木造氏と同じ一族と見られる河方氏の存在が確認でき、川方城(7)を拠点にしていたと考えられる。山室遺跡近隣には牧城跡(4)があり、これは木造城ないしは川方城との関係が深いとみられる。なお、木造城・牧城は、羽柴(豊臣)秀吉の意向を受けた蒲生氏郷によって、天正12年(1584)に落城したとされる⁽⁹⁾。

その後、山室遺跡周辺は安濃津城主富田知信による知行、続いて藤堂高虎の津藩領を経て、寛文9年(1669)以後は、久居藩に属することになった。

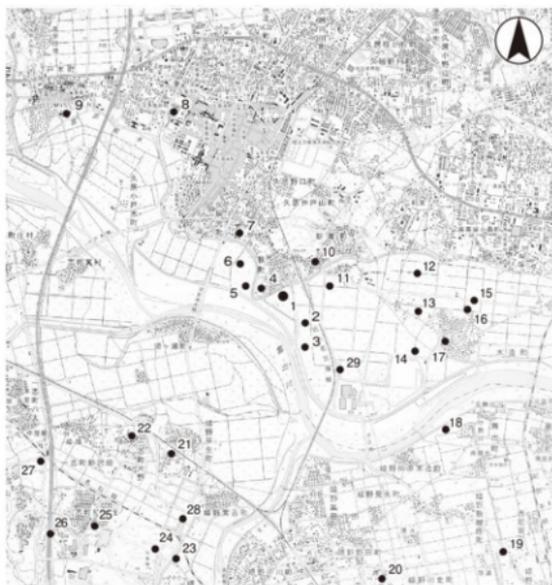
註

- (1) 三重県教育委員会『大和街道・伊勢別街道・伊賀街道』1983年。
- (2) 久居市史編纂委員会『久居市史』上巻、1972年。
- (3) 三重県埋蔵文化財センター『木造赤坂遺跡・池新田遺跡・井手ノ上遺跡発掘調査報告』2012年。
- (4) 三重県埋蔵文化財センター『筋道遺跡発掘調査報告-第1分冊-』2004年。
- (5) 津市教育委員会『四ツ野B遺跡(第2次)・四ツ野古墳発掘調査報告』2001年。
- (6) 久居市教育委員会『長持元屋敷遺跡調査報告』1980年。
- (7) 伊勢野久好「田一志郡内の首長墓」『天花寺山』一志町・嬉野町遺跡調査会、1991年。
- (8) 前掲註(2)。
- (9) 三重県埋蔵文化財センター『舞出北遺跡発掘調査報告2』2010年。
- (10) 前掲註(2)。
- (11) 三重県埋蔵文化財センター『高茶屋大垣内遺跡(第3・4次)発掘調査報告』2000年。
- (12) 一志町教育委員会『片野遺跡』IV、2002年。
- (13) 西村美幸「平生遺跡」『三重県史』資料編考古2、三重県、2008年。
- (14) 前掲註(3)。
- (15) 三重県埋蔵文化財センター『山室遺跡発掘調査報告』2002年。
- (16) 三重県埋蔵文化財センター『川方城ノ越・川方川原遺跡発掘調査報告』2010年。
- (17) 前掲註(6)。
- (18) 小林秀「三雲町の古代・中世」『三雲町史』第二巻資料編一、三雲町、1999年/伊藤裕偉「中世前期の『屋敷』と地域開発」『ふびと』53、三重大学歴史研究会、2001年。
- (19) 平松金三監修『三重県の地名』日本歴史地名大系24、平凡社、1983年。

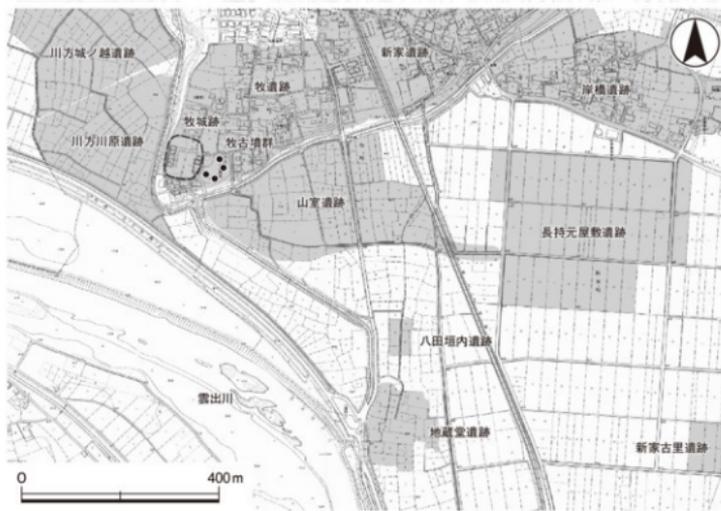
遺跡名

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 山室遺跡 | 18. 舞出北遺跡 |
| 2. 八田堀内遺跡 | 19. 筋違遺跡 |
| 3. 地藏堂遺跡 | 20. 西山1号墳 |
| 4. 牧古墳群・
牧城跡 | 21. 平生遺跡 |
| 5. 川方川原遺跡 | 22. 片野遺跡 |
| 6. 川方城ノ橋遺跡 | 23. 天花寺廃寺 |
| 7. 川方城跡 | 24. 小谷赤取遺跡 |
| 8. 久原城下町遺跡 | 25. 片野池古墳群 |
| 9. 上野遺跡・
上野古墳群 | 26. 西野遺跡 |
| 10. 新家遺跡 | 27. 鳥居本遺跡 |
| 11. 長持元屋敷遺跡 | 28. 黒田遺跡 |
| 12. 池新田遺跡 | 29. 物部神社 |
| 13. 本造赤取遺跡 | |
| 14. 井手ノ上遺跡 | |
| 15. 本造城跡 | |
| 16. 里中遺跡 | |
| 17. 大塚山古墳 | |

0 2km



第1図 遺跡位置図 (1 : 50,000)



第2図 遺跡地形図 (1 : 10,000)



第3図 調査区位置図 (1:3,000)



範囲線は調査地は、A～D区に区分して調査を行った。

A区は調査員1～17

B区は調査員18～48

C区は調査員49～83

D区は調査員84～160の範囲を占す。

なお、調査員名はA1等と略記することがある。



X=149000

X=149100

X=149200

X=149300

X=149400

Y=43500

Y=43600

Y=43700

Y=43800

Y=44000

III 遺 構

1. 範囲確認調査

(1) 概要

山室遺跡・八田垣内遺跡・地藏堂遺跡では、発掘調査に先立って範囲確認調査を行った。調査では160地点について4×2mの調査坑を設けた。なお、対象地が広範囲にわたるため、A～D区に区分した。調査坑1～17がA区、18～48がB区、49～83がC区、84～160がD区にあたる（第3図）。

A～C区は山室遺跡を対象としている。山室遺跡では稠密な遺構・遺物が確認された。遺跡北半は雲出川の氾濫で削り取られている部分が目立つものの、南半において地表下40～70cmに中世の遺構面、1～1.5mに古代以前の遺構面が存在することが判明した。南半には東西方向の微高地が埋没しており、洪水から免れた遺構が残されていると考えられる。

各調査坑における事項として、C区の調査坑71～72において弥生時代中期の土器が確認できたことがあげられる。C区付近には弥生時代の遺構の存在が推測される。A区では調査坑1で古代の遺物が確認できたことから当該期の遺構が想定される。

さらにB区の調査坑43では中世の火葬墓群が確認できた。この火葬墓群はこれまでに知られていなかったものである。古瀬戸の四耳壺に火葬骨を納めていることから、階層的に上位の人物を葬ったものと考えられる。火葬墓群については後述したい。

D区は八田垣内遺跡・地藏堂遺跡を対象としている。八田垣内遺跡では調査坑97の地表下約1mで土坑が検出された。遺物出土量が限られている点も勘案すれば、中世の遺構面は洪水等で遺失し、古代以前の遺構面が断片的に残っていると推察される。

地藏堂遺跡は微高地となっており、遺物が地表に多く散布していることから遺構面が残存していると思われた。しかし堆積土層の観察と地元の証言から、近代の洪水で運ばれた土砂とそれを盛り上げることで現地地形になったと判断した。地表に散布していた遺物は、雲出川の氾濫によって近隣からもたらされたと想定される。なお、標高745mの調査坑114に

おいて1.7m掘り下げた結果、最下層で土師器がわずかに認められた。これ以上の深掘は避けたが、さらに深部に遺構面が存在している可能性がある。

(2) 中世墓群について

B区の調査坑43では中世墓群を確認した。既往の分布調査等では知られていなかったものである（第4図）。範囲確認調査のため、調査内容は十分ではないが、今後の調査等に備えて報告しておく。

概要 火葬墓群は、骨を納めた古瀬戸の四耳壺を中心に東西25m以上、南北2m以上の範囲に広がる。検出した骨片・土器の広がりから火葬墓は複数存在するものと考えられる。

層序 耕作土・床土（第1・2層）および第3層の下層では、東側で第4層、西側で第5層の堆積が観察できた。この第5層には骨片が混じる。第5層の下には第6層が認められ、この第5・6層が中世墓群に関わる土層である。火葬墓は、この第5層の上面から小穴を設けて蔵骨器の四耳壺（15）を納め、第7層で埋めたと考えられる。

検出状況 中心となる火葬墓は、直径約25cmの円形を呈する小穴に、蔵骨器である四耳壺（15）とその蓋にあたる片口鉢（14）を納めていた。火葬骨は蔵骨器にぎっしり詰められた状態であった。なお、第5層上面には長径20cmほどの川原石が散在していた。この点から火葬墓の上面に川原石が敷かれていた可能性がある。

この火葬墓の周囲には、土師器や中世陶器が認められたほか、調査坑北端ならびに南端で骨片が確認できた。したがって火葬墓は単体ではなく、いくつが存在することが想定できる。火葬墓群として認識した方がよいだろう。

なお、第5・6層は調査坑西端から1.4～2.5m付近にかけて少しずつ下降する。この点から、火葬墓群は高さ約20cmの壇状を呈し、その上面に設けられたと思われる。壇は検出状況から方形に近い形状だったと推測される。

評価 過去の調査では山室遺跡のSK10・SK11が中世墓と考えられるほか、長持元屋敷遺跡において室町時代の中世墓が確認されている⁽¹⁾。この点から、現在は埋没している微高地に中世墓が点在するものと想定されよう。

また、蔵骨器に使用された古瀬戸の四耳壺から、被葬者は階層的に上位の人物だったと推測できる。第V章報告の骨の分析によると、被葬者の性別は男性の可能性が高いこと、年齢は熟年(40～59歳程度)以上で、老齢(60歳程度)に達していた可能性もあるという。被葬者の候補として、地域の有力者や僧侶も想定する必要がある。

なお中世墓群のすぐ西には、いわゆる奈良街道⁽²⁾が南北にのびている。街道の成立年代と道筋の変更等が課題となるが、街道との位置関係についても今後検討が求められる。

(3) 埋没地帯・堆積土層の特徴

範囲確認調査の結果、山室遺跡では地表下40～70cmで中世の遺構面、1～15mにおいて弥生時代から古墳時代を中心とする遺構面を確認できた。特

にA区では古代、B区では中世墓群、C区では弥生時代の遺構が残されていると推定できた。

遺跡北半では、雲出川の旧支流が流れていたようで、その作用と氾濫によって多くの遺構が失われていると想定される。南半には埋没しているが自然堤防のような微高地が東西方向にのびており、ここに遺構が残されていると推察される。

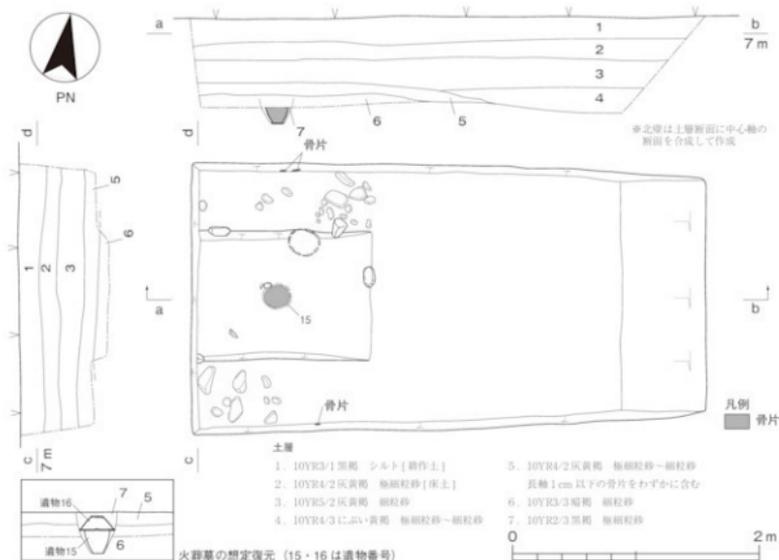
なお、山室遺跡の遺構面は洪水による堆積・流出を繰り返しており、土質・標高が安定していない。これは雲出川流域における沖積平野の開始点に当地が立地していることも関係しているのだろう。

以上のような範囲確認調査をもとに、工事計画のうち遺構面に影響を及ぼす道路と水路について平成23年度に発掘調査を実施した。

注

(1) 久居市教育委員会「長持元屋敷遺跡調査報告」1980年。三重県埋蔵文化財センター「山室遺跡発掘調査報告」2002年。

(2) 三重県教育委員会「大和街道・伊勢別街道・伊賀街道」1983年。



第4図 範囲確認調査坑43 (1:40)

2. E区の調査

(1) 調査区の設定

山室遺跡第2次調査では、範囲確認調査の成果を踏まえて、E・F・G区の調査区を設定した。X = -148,668.776、Y = 43,561.943を起点として、座標北から10° 34' 33.48" 西へ傾いた主軸によって調査グリッドの設定を行った。この際、東西方向160mの範囲であったものの、南北方向100mに取まったため、100m四方の大グリッドの設定は行わなかった。しかし、F区において北側へ調査区を拡張したため、急速、大グリッドを設定することになった。したがって起点より北側をA地区、B地区と呼称する。なお、東西方向は煩雑さを避けるため、当初のグリッドを踏襲した。なお、E区はすべてB地区に含まれる。

(2) E区の概要

E区は、今回の調査において最も東に位置する長さ52m、幅6mの調査区である(第5図)。南端は東西方向の用水路に接し、その南側は70～80cmの低くっており、田畑の区画から河川の旧流がうかがえる。この点から調査区より南側は、河川の氾濫によって遺構が削り取られていると判断できる。調査区のすぐ東には、奈良街道が南北に走るが、この街道も用水路より南側ではその道筋が明確には図示されていない⁽¹⁾。

さて、E区では遺構面が2面確認されたため、上層と下層と呼称して、それぞれ発掘調査を行った。上層は中世を中心とした遺構、下層は古墳時代を中心とした遺構が検出された。なお、南側では上層の中世遺構面が河川氾濫で削り取られて遺失しており、古墳時代の遺構面に到達した。こうした事情から下層は、調査区北端から長さ31m、幅6mの範囲を対象とした。

主な遺構として、上層では貯水施設と考えられるSZ35、溝のSD36・87、南側では古墳時代の廃棄土坑と考えられるSK21～23・26等が確認できた。下層ではSH90・SH96の大型堅穴建物2棟、SH86・SH93・SH97等の通常規模の堅穴建物4棟、土坑のSK85等の古墳時代の遺構、ならびにわずかながら古代の柱穴等が確認できた。

出土遺物として土師器の台付甕・高杯、須恵器の蓋杯のほか、鉄製品の刀子、石製品の紡錘車、砥石等が出土した。

(3) E区の基本層序

E区では、第1層の耕作土・床土の下に灰黄褐色の極細粒砂～細粒砂で構成される第8・9層が確認された(第6図)。第4・7層についても第8・9層と一連の堆積層ととらえることができる。これらの堆積層の下には暗褐色の極細粒砂で構成される第17層が確認でき、この層を基盤として中世の遺構が形成される。中世遺構面に相当する第17層は、調査区北半で確認されたにとどまる。南半では暗褐色細粒砂の第16層がこれに相当する可能性があるが、中世の遺構が検出されなかったことや土質がもろく、しまりが弱かったことから、中世遺構の基盤とは判断しなかった。先述した調査区より南側の状況も勘案して、調査区南半では雲出川の氾濫によって中世遺構面は削り取られており、その後には第16層が堆積したと考えた。

第16層ならびに中世遺構面を形成する第17層の下には、古墳時代の遺構を形成する基盤層等の第26～29層、ならびに遺構埋土の第18～25層が確認できた。第18層はSK25埋土、第19～25層はSH93・SH95・SH97・SH96等の埋土で、堆積状況からSK98→SH93、SH97→SH93・SH95、SH96→SH95の先後関係を確認できる。

古墳時代の基盤層のうち、にぶい黄褐色細粒砂の第28層が調査区の全体で確認でき、この下層で褐色極細粒砂から細粒砂の第29層が認められた。

この第28・29層を基盤とする遺構面では、古墳時代中期後半から後期の遺構が多く検出された。E区では、弥生時代の遺物がほとんど認められなかったことから、古墳時代後半期に活発な集落形成がなされたといえる。また、古代の遺構・遺物は少ない状況であった。E区において方形柱穴の存在、後述するG区において奈良時代の遺物・遺構が確認されているため、奈良時代にもわずかながら遺構が形成されていたと推測される。しかし、平安時代は他の調査区の成果を考慮しても、遺構形成がきわめて低調

になったと考えられる。こうした空白期ともいえる時期を経て、第17層が単層で形成され、鎌倉時代以降の遺構が形成されている。

これらの諸点を考慮すれば、古墳時代を中心とする遺構が築かれたが、平安時代になると雲出川の氾濫等で居住に適さなくなり、集落形成の主要な場を丘陵等に移していた可能性がある。その後、第17層が堆積を経て、鎌倉時代から再び遺構が形成されたと推察される。この変遷は高橋学氏による研究⁽²⁾と合致する傾向にある。沖積地に形成された遺跡とその消長を考える上で、山室遺跡は好例と評価できよう。

(4) E区下層の遺構

上述したようにE区下層は、調査区北端から長さ31m、幅6mについて調査した。なお上層では中世の遺構面が北半で確認できたにとどまり、s 39・s 40グリッドから南側については中世遺構面が既に遺失していると考えられ、下層と同様の古墳時代を中心とした遺構へと到達した。したがって、E区上層の南側でとらえた遺構は下層と関係する遺構である。

検出された遺構は、堅穴建物6棟、土坑のSK85等で、ほとんどが古墳時代の遺構である。この他に、古代と思われる方形柱穴がわずかに確認された。

a. 堅穴建物

SH86 (第7図) 一辺4.4mの方形の平面形を呈する堅穴建物であり、主軸は北からやや東に振る。平面プランはややいびつである。深さは15cmで、四壁に幅20cm、深さ10cmの壁周溝⁽³⁾がめぐる。北壁にカマドが付設されており、煙出しに相当する部分がわずかに半円形に突出する。カマドの範囲は焼土面からとらえることができた。さらにその東端では被熱層が筋状に延びることが確認でき、袖の位置を把握できた。カマドの西側では貯蔵穴ともとらえうる小穴を検出し、土師器の甕(36)が出土している。SH86からは土師器の台付甕ほか、ミニチュアをとらえうる土師器、須恵器の広口壺、鉄製品の刀子、砥石が出土した。SH86の時期は、古墳時代中期後半から後期と考えられる。

SH90 (第8図) 一辺7.4mの方形を呈する堅穴建物である。主軸はほぼ北を示す。深さは54cmである。壁は垂直ではなく、やや斜めに立ち上がり、壁周溝

は確認できなかった。東壁にはカマドが付設されており、その内法は底面において幅50cmで、煙出しは半円形に突出する。なお、煙出しからさらに東へ長さ1.1m、幅40cm、断面半円形の遺構がのびており、ごく弱い被熱が確認できたため、煙出しに伴う可能性が考えられる。袖は北側についてはすでに遺失していたが、南側において長さ50cm残存していた。なおカマドの笑口にあたる部分に片岩と思われる薄い石材が確認でき、強く被熱していた。

出土遺物はカマドから土師器の鍋・甕等が出土したほか、土師器の甕・須恵器、砥石が出土した。なお、第1層からTK217型式⁽⁴⁾の杯蓋(47)が出土したことから、それ以前の建物と判断できる。

SH90は本調査でとらえた最も大きな堅穴建物である。当該期の他遺跡と比較しても規模の大きな堅穴建物といえる。

SH93 (第9図) SH86の北側に位置する一辺4.2m以上の方形堅穴建物である。主軸は北からやや東に振る。深さは11cmで、北壁から北西隅にかけてわずかに壁周溝がめぐる。その幅は20cm、深さは5cmである。SH93の中央付近では焼土面が確認できた。なお、SK85はSH93の輪郭に沿うように形成されていることから関連する遺構とみなせる。遺構の重複はSH97・SK98→SH93→SK85の関係にある。SH93から遺物は出土していないが、SK98・SK85出土の遺物から古墳時代中・後期と考えられる。

SH97 (第9図) SH90の東側で検出した一辺5.0m以上の方形堅穴建物である。主軸は北からやや東に振る。深さは18cmで、壁周溝は認められなかった。台付甕(66・67)が出土したことから、その時期は古墳時代中・後期と考えられる。遺構の重複関係からSH97はSH90・SH93・SH95に先行する。

SH95 (第7図) 一辺3.0m以上、深さ14cmの方形堅穴建物である。壁周溝は認められなかった。他の堅穴建物よりも主軸が東に振れる。遺構の重複関係はSH96・SH97→SH95である。SH97より後出することから、その時期は古墳時代中・後期かそれ以降といえる。

なお、下層検出前に排水溝を兼ねた先行トレンチの掘削を行い、曲刃鎌(256)が出土した。出土位置からこの曲刃鎌はSH95に伴う可能性が高い。

S H96 (第7図) 一辺6.8m以上の方形堅穴建物である。主軸はやや東に振れる。残存壁高は14cmであり、南壁の西半において幅20cm、深さ10cmの壁周溝が確認できた。S H96の東西端の2ヶ所において炭・焼土が確認できた。いずれも焼土面や被熱層を確認できなかったが、カマドの近在がうかがえるとともに、S H96の規模が調査区幅をわずかに上回る程度であることが推測できる。遺構はS H96→S H95という重複関係である。なお、S H90と主軸が揃うことから、何らかの関連を想定することもできよう。

S H96からはTK10型式あるいはTK43型式の須恵器(63～65)が出土していることから、古墳時代後期の建物と判断される。S H96は当該期としては規模が大きいことが特徴といえる。

下層p40焼土面2 (第7図) S H86の南側において、長軸60cm、短軸50cmの範囲で確認した。北西には幅30cm、深さ6cmでL字状を呈するSK91が認められる。両者は焼土面を堅穴建物のカマド、SK91を隅角付近の壁周溝として一連の遺構とみなせる可能性がある。その場合、南壁にカマドが位置することになる。

b. 土坑等

SK85 (第9図) 長軸2.0m以上、幅1.4m、深さ7cm以上の不整形な土坑である。S H93の輪郭に沿うように形成されていることから、S H93に伴うか、廃絶直後の遺構と考えられる。土師器の甕・高杯・直口壺等(161～178)が出土した。古墳時代後半期の遺構である。

SK94 (第9図) 不定形な形状を示す。S H97よりも上層に位置する土坑である。土師器等(179)が出土した。

SK98 (第9図) S H93の下層において検出された。台付甕(180)が出土した。

SK81・82 (第5図) SK82は長軸・短軸70cm、深さ46cmで、直径30cmの柱痕をもつ方形柱穴の可能性が考えられる。SK81は長軸90cm、短軸70cm、深さ79cmの方形を呈する小穴である。両者の深さが異なるため、一連の遺構と判断しなかった。SK82は古代の掘立柱建物に伴う可能性があり、SK81についても同様の想定ができる。この場合、形状から古代と考えられる。E区においても古代に集落が形成

されていた可能性が指摘できる貴重な事例である。

(5) E区上層の遺構

E区における中世の遺構面は北側において確認できたものの、南側では既に削り取られているものと考えた。したがって南側ではそれより以前、すなわち古墳時代を中心とした遺構が認められた。

検出した主な遺構として、北側では中世の貯水施設と考えられるS Z35、溝のSD36・SD87、柱穴・小穴等、南側では古墳時代の廃棄土坑SK21～23・26のほか、土坑のSK24・25、柱穴・小穴等をあげることができる(第5図)。

a. 土坑等

SK21～23・26 (第10～14図) E区南側で検出した廃棄土坑である。SK21は長軸1.9m、短軸1.1m、深さ20cm、SK22は長軸1.9m、短軸1.5m、深さ24cm、SK23は長軸3.4m、短軸2.6m、深さ28cm、SK26は長軸1.4m、短軸1.3m、深さ44cmでいずれも不定形な形状を示す。なお、調査に際して土坑は広がることを確認され、拡張範囲にSK22拡張、SK21拡張、SK21西拡張の呼称を与えた。調査の結果、これらを一連の廃棄土坑と判断した。切り合いはSK21→SK23→SK22であるが、廃棄土坑の単位を表しているものと考えられる。遺物は取り上げの都合上、それぞれ上層と下層に分けた。これらの区分により将来の型式学的な細分を期待しておく。

SK21～23・26では土師器の台付甕・高杯・碗・甕のほか、紡錘車1点、砥石1点、軽石1点等(168～159)が出土した。この廃棄土坑は古墳時代中期後半から後期の所産と考えられる。

SK24 (第15図) SK21～23の南側に位置する長軸1.4m、短軸1.1m、深さ35cmの不定形な土坑である。台付甕(160)が良好な遺存状況で出土したことから、古墳時代後半期の土坑と考えられる。

SK25 (第5図) SK21～23の東側に位置する長軸1.8m、短軸70cm、深さ19cmの不定形な土坑で、調査区外へ広がる。SK21～23・26と同様の性格を考慮すべきかもしれない。

上層u39焼土面2 (第5図) SK21～23・26の南側で検出した長軸70cm、短軸50cmの被熱地点である。SK21～23・26との関連性を探ったが認められなかった。ただし、検出状況・土層の特徴からSK24

を堅く建物の貯蔵穴としてとらえる可能性は残されている。

b. 貯水にかかわる施設

S Z 35 (第15図) 調査区中央付近の遺構で、一辺1.7mの方形を呈し、深さは20cmである。側面には粘土からシルト質の第3層が貼り付けられていた。しかし、底面に第3層は確認できなかった。遺物として土師器・中世陶器、鉄釘(202～213)のほか、長軸20cmの石材がいくつか散見された。

S Z 35については中世墓の可能性を想定したが、形状からその可能性は低い。側面のみ粘土を貼り付ける等の特徴から、S Z 35は貯水に関係する施設と考えておきたい。底面に粘土が見られなかったことから、多少の湧水も期待していたのであろう。

c. 溝

S D 36 長さ5.8m以上、幅80cm、深さ50cmの溝で東西方向に走る。溝には長径20cm以下の礫が数多く含まれていた。古墳時代の遺物のほか、鎌倉時代の遺物が出土している。したがってS D 36の時期は鎌倉時代と考えられる。

S D 87 長さ2.2m以上、幅80cm、深さ40cmの溝で東西方向に主軸をとる。出土遺物から鎌倉時代から室町時代にかけての遺構と考えられる。主軸の方向からS D 36との関連も考えられよう。

d. その他

S Z 28・29 調査区東側でとらえた。形状から耕作溝の可能性がある。

e. 柱穴・小穴

下層n39Pit2 (第7図) S H 86より後に形成された小穴で、長軸60cm、短軸40cm、深さ18cmである。刀子(186)が出土した。

w40Pit7 直径40cm、深さ16cmの小穴である。須恵器の杯身(183)が出土した。古墳時代中期の小穴と考えられる。

v40Pit1 長軸50cm、短軸40cm、深さ5cmの小穴である。古代の土師器甕(185)が出土した。

t39Pit1 廃棄土坑のS K 21・22・23・26の北側で検出した直径40cm、深さ4cmの小穴である。平安時代と考えられる土師器の杯(184)が出土した。本調査において平安時代の遺物は珍しい。G区において奈良時代を中心とした柱穴等が検出されている

が、総体的に古代の遺構・遺物が少ない。山室遺跡では古代、特に平安時代に空白期がある。雲出川の氾濫と関連しているのだろうが、沖積地に形成された遺跡とその消長を考える上での好例となろう。

(6) E区のみとめ

E区では、古墳時代と中世の2つの遺構面を確認することができた。これは範囲確認調査の成果から推測された事柄だが、F区・G区では雲出川による氾濫や埋没地形の影響が大きいためか、2面をとらえられなかった。山室遺跡では断片的に2つの遺構面が残されているのだろう。

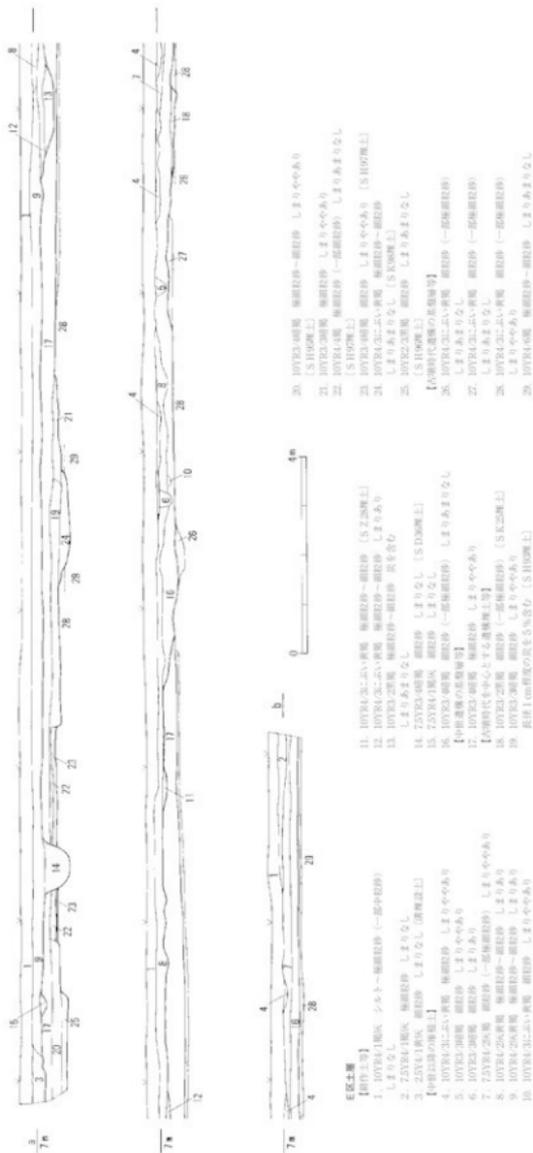
E区下層では、古墳時代の遺構・遺物が中心に出土した。遺物では、古墳時代中期から後期のものが目立つ。また砥石が比較的多く見つかったことから、鉄器加工との関連性を想定できる。なお、後述するF区では古墳時代後期の遺物が目立つ。したがって、山室遺跡のなかで、集落が少しずつ移動しているものと推測される。上層では鎌倉時代の貯水施設や溝が確認できた。なお、E区では中世墓を確認できなかったことから、範囲確認調査坑B 43でとらえた中世墓群は小範囲でとどまると推測される。

註

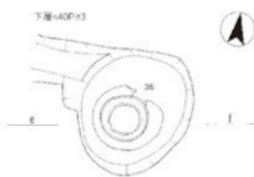
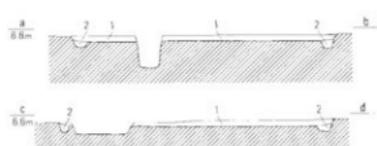
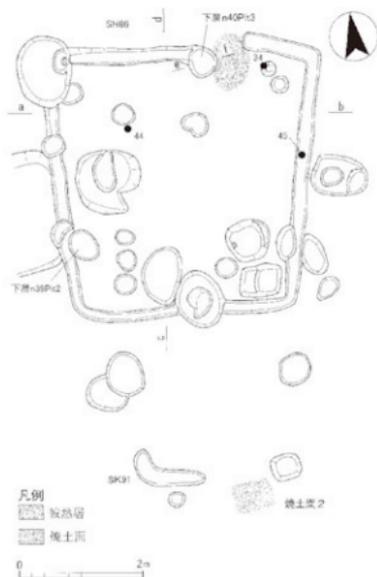
- (1) 三重県教育委員会「大和街道・伊勢別街道・伊賀街道」1983年。
- (2) 高橋学「先史・古代における雲出川下流域平野の地形環境」『人文地理』第31巻第2号、人文地理学会、1983年。高橋学「平野の微地形変化と開発」『講座文明と環境』6 歴史と気候、朝倉書店、1995年。高橋学「古代の地形環境と土地開発・土地利用」『帝京大学山梨文化財研究所報告』第7集、帝京大学山梨文化財研究所、1996年。
- (3) 聖蹟講、聖蹟等の用語があるが(文化庁文化財部記念物課監修・独立行政法人国立文化機構奈良文化財研究所編『発掘調査のびき』同成社、2010年)、本報告では聖蹟講の用語を用いた。
- (4) 田辺昭三『須恵器大成』角川書店、1982年。以下、本章において須恵器は田辺氏の編年を用いる。



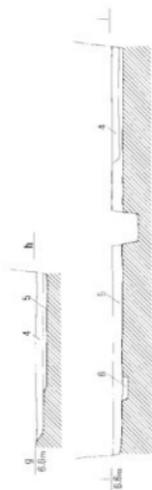
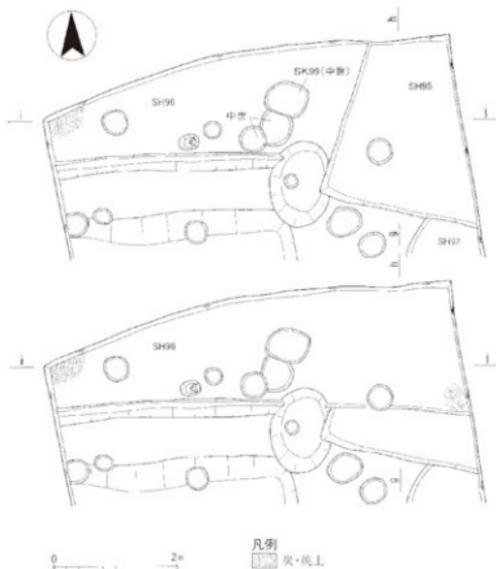
第5图 E区平面图(1:200)



第6図 E区土層断面図 (1:100)

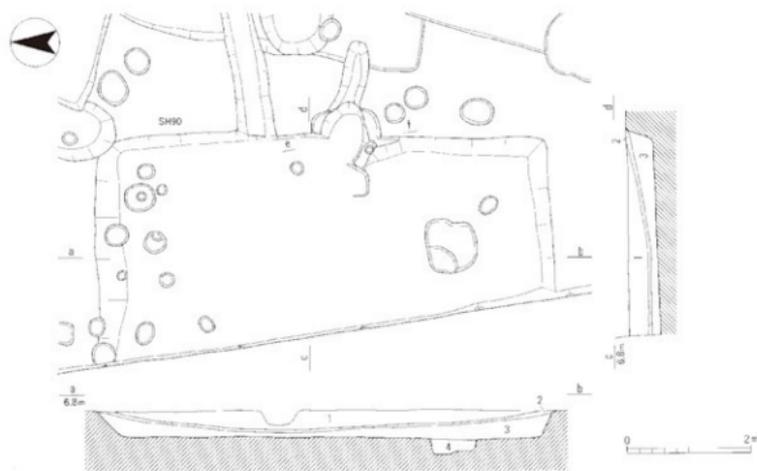


- SH86 土層
1. 10YR2.5/2.5 黄
 粉砂土層
 2. 10YR4.3/2.5・黄
 粉砂土層 [穿層溝]
 3. 10YR4.3/2.5・黄
 シルト層粉砂土層

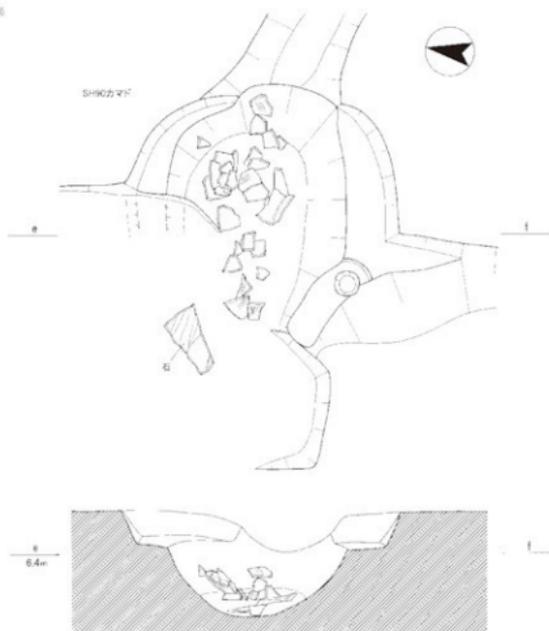


- SH95-97 土層
1. 10YR2.5/2.5 黄
 粉砂土層
 2. 10YR2.5/2.5 黄
 粉砂土層
 3. 10YR2.5/2.5 黄
 粉砂土層 (一部シルト)
 4. 10YR2.5/2.5 黄
 粉砂土層
 5. 10YR2.5/2.5 黄
 粉砂土層
 6. 10YR2.5/2.5 黄
 粉砂土層

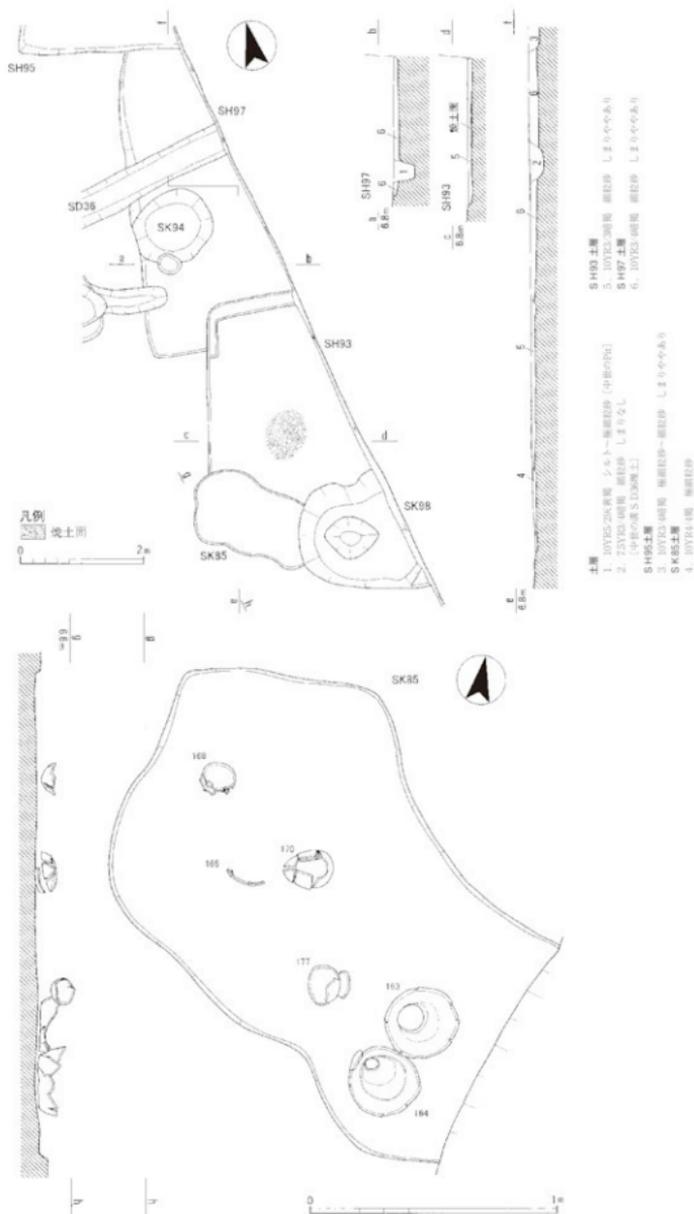
第7図 E区SH86・SH95・SH96 平面図・断面図 (1:80、詳細図は1:20)



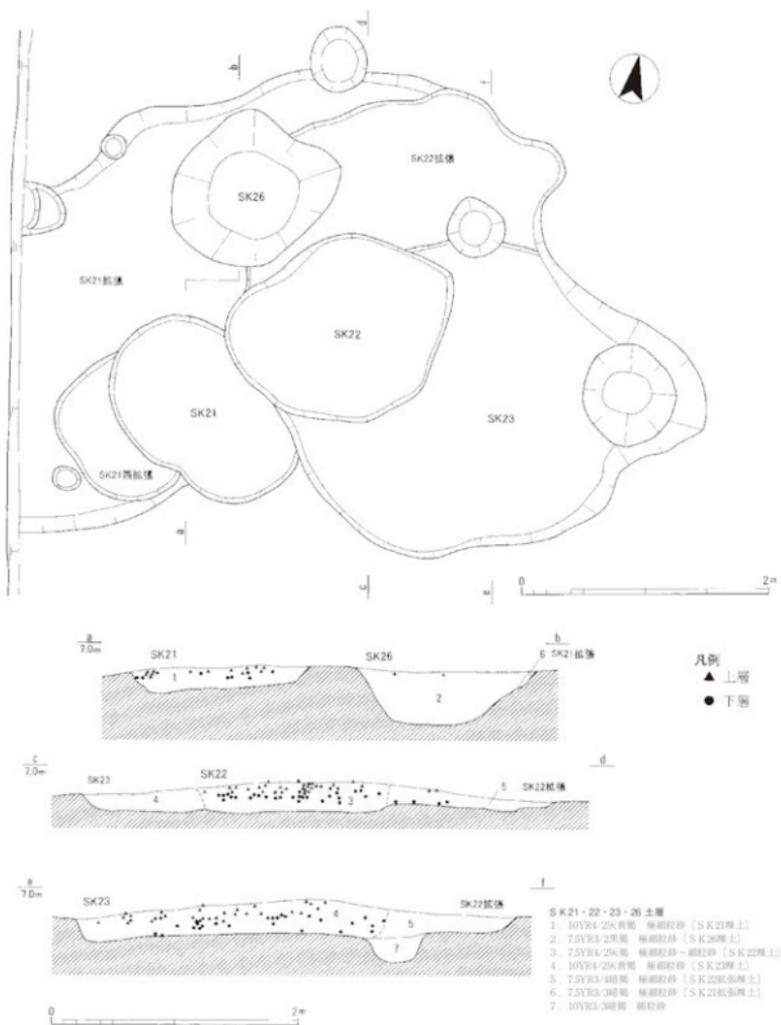
- SH90土層
1. 10YR5/3に赤い黄褐色顔料
 2. 10YR3/1赤褐色シルト-粘細砂
 3. 10YR4/1暗赤シルト-粘細砂
 4. 10YR5/2に黄褐色シルト-粘細砂



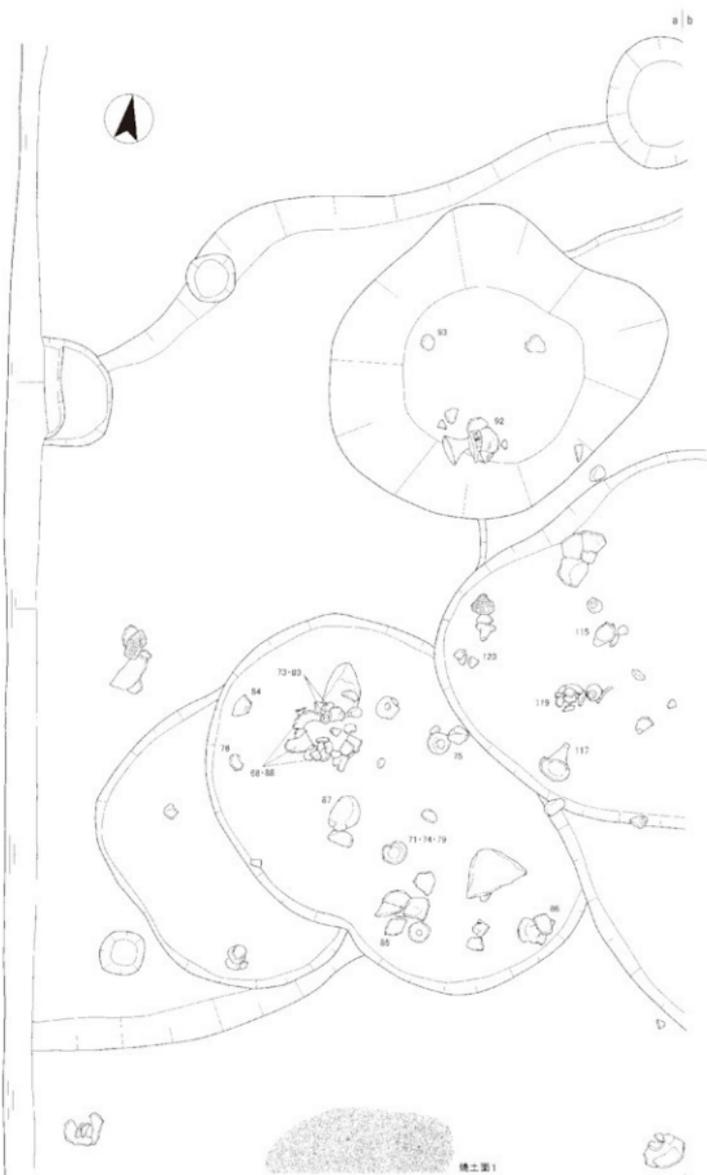
第8図 E区SH90平面図・断面図(1:80、詳細図は1:20)



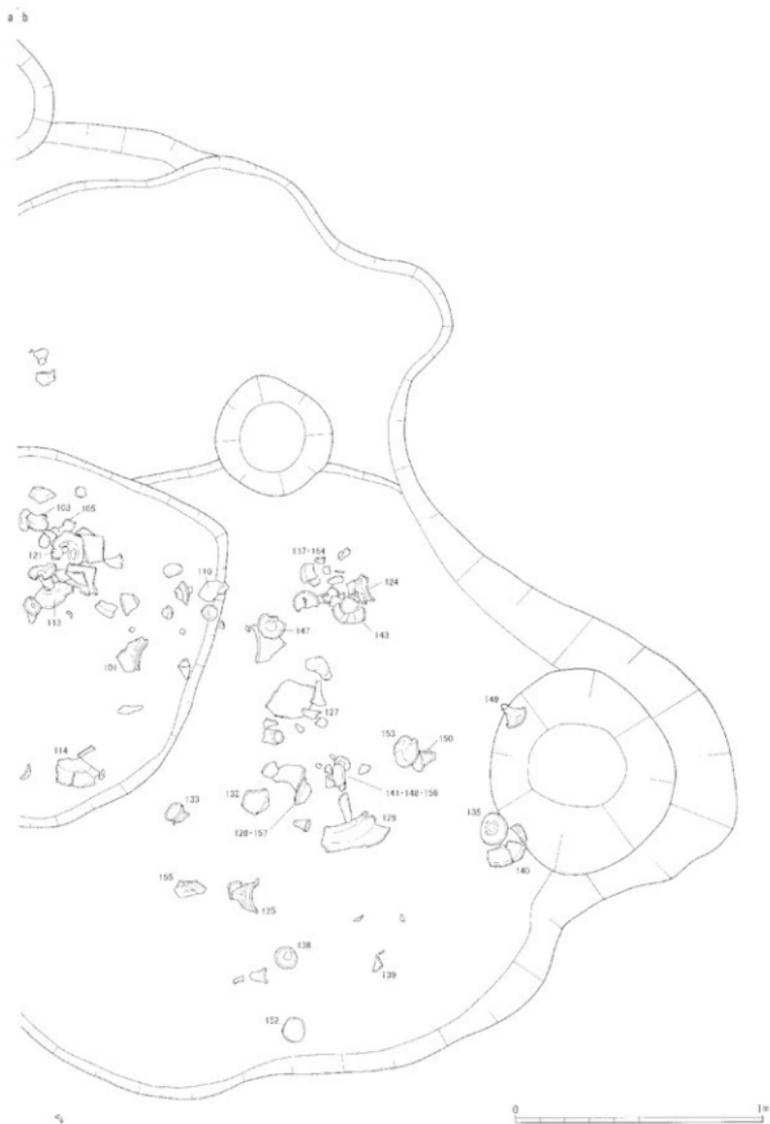
第9図 E区SH93・SH97・SK85平面図・断面図(1:80、詳細図は1:20)



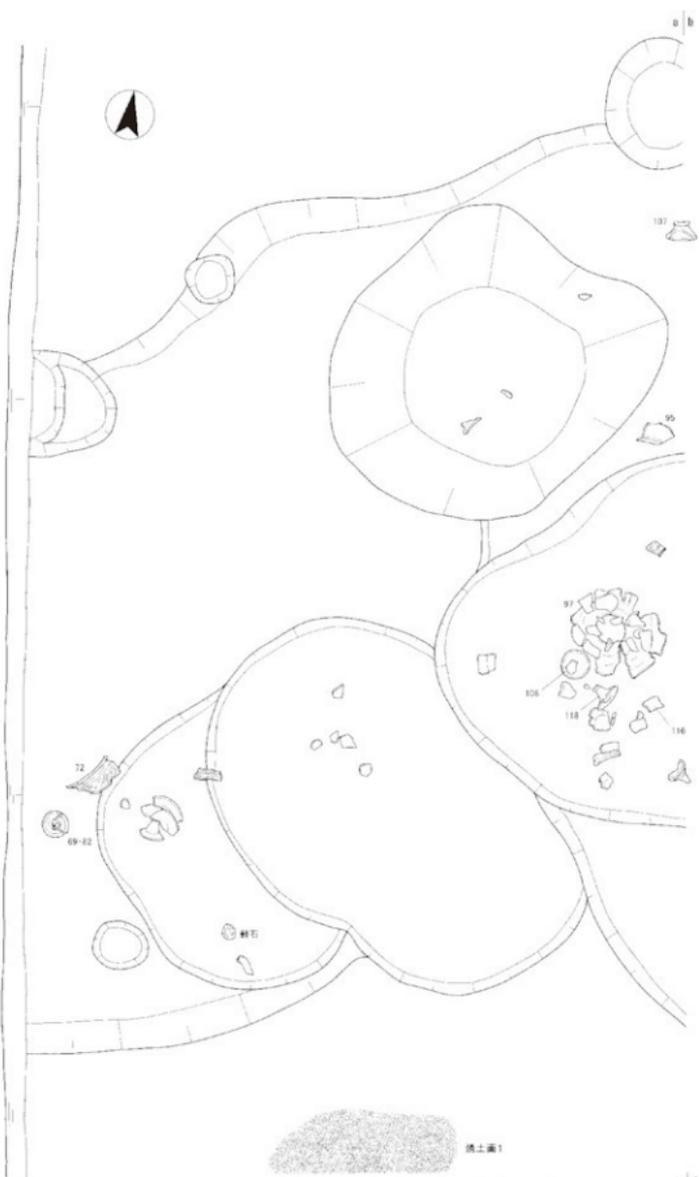
第10图 E区SK21·SK22·SK23·SK26等平面图·断面图(1:40)



第11图 E区SK21·SK22·SK23·SK26等遗物出土状况(上层)西半(1:20)



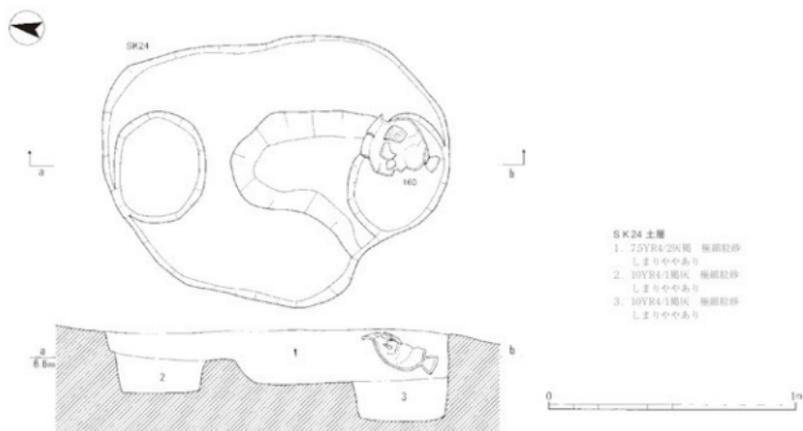
第12図 E区SK21・SK22・SK23・SK26等遺物出土状況(上層)東半(1:20)



第13图 E区SK21·SK22·SK23·SK26等遺物出土状況(下層)西半(1:20)

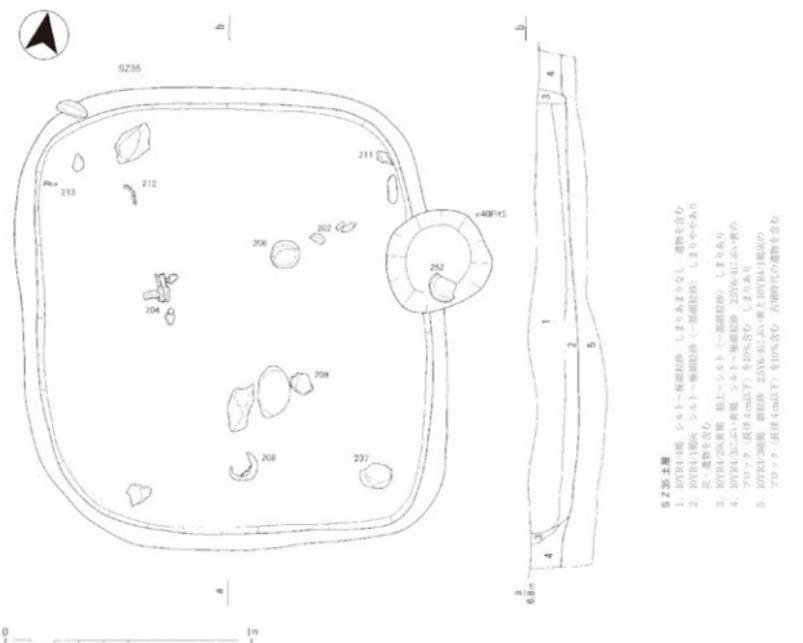


第14図 E区SK21・SK22・SK23・SK26等遺物出土状況(下層)東半(1:20)



SK24 土層

1. 10YR4.25R 焼 黒褐色
しまりやあり
2. 10YR4.1R 焼 黒褐色
しまりやあり
3. 10YR4.1R 焼 黒褐色
しまりやあり



S235 土層

1. 10YR4.4R シルト-黒褐色 しまりやなし、遺物を含む
2. 10YR4.1R シルト-黒褐色 (一部黒褐色) しまりやあり
3. 灰 遺物を含む
4. 10YR4.3.2.5R 赤土-シロ土 (一部黒褐色) しまりやあり
5. 10YR4.3.2.5R 赤土-黒褐色 シルト-黒褐色 25% 以上を占める
777 ナマ (18.6 g/m²) 510% 含む しまりやあり
6. 10YR4.2R 黒褐色 25% 以上を占める 10YR4.1R の
777 ナマ (18.6 g/m²) 510% 含む 古墳時代の遺物を含む

第15図 E区SK24とS235平面図・断面図(1:20)

3. F区の調査

(1) 概要

F区は当初66m×4mで設定した調査区である。しかし、調査区北端でS H44が検出されたため、北側へ20mの拡張を行った。しかしS K52等の多くの遺構が検出されたため、さらに43m拡張し、総長129mとなった。こうした経緯で調査範囲を拡張した結果、急遽、大地区を設定する必要が生じた。拡張した部分がA地区にあたり、当初の範囲がB地区となった。

なお、調査区北端から丘陵までの範囲は、雲出用水の影響で湧水が激しいこと、範囲確認調査によって雲出川の支流跡にさしかかると考えられたことから、調査の対象外とした。また、調査区南端においても用水路の影響で湧水が激しかったため、長さ3m、幅4mの範囲について深削を断念した。

F区で検出した遺構は、調査区北側において中世を中心とする土坑・小穴、東西方向に延びる溝4条等を確認した(第16図)。中央付近では古墳時代後期の集落が展開し、7棟の堅穴建物が確認できた。特にS H45では鍛冶を行っていた可能性があり、山室遺跡全体の評価に関わる特記事項といえる。また、弥生時代後期から古墳時代前期の土坑2基(S K52・67)、中世と考えられる大型の掘立柱建物を想定できる柱穴群を検出した。調査区の南側では、雲出川の旧支流にあたるN R41のほか、中世の溝が4条確認できた。

F区の遺構面は高さが一定ではなく、北側でやや高い傾向にある。また基盤となる層も複数にわたり、一定していない。雲出川の氾濫が影響しているのだろう。

(2) F区の基本層序

F区では、雨水対策で調査区東側に排水溝を設けた。したがって、基盤層より下層についても土層断面に反映した(第17図)。北側では第56・60層、中央では第60層、南側では第60～63層等が基盤層に相当する。

耕作土・床土の第1層および灰褐色の第2層の下には、第4～41層が確認された。これらの層は中世以降の堆積層である。北側でみられた第6～9層

はS D58、第11～14はS D56の埋土にあたり、ともに室町時代の土器が出土している。中央付近では、S D46埋土の第39・40層、S D47埋土の第41層が確認でき、中世の土器が出土した。南側では第19・20層のうち、第20層の下端では水酸化鉄の付着がみられたため、一時期溝として機能していた可能性がある。第19・20層でとらえた溝が基盤とする第24層はS D43上面に堆積している。この点からS D43よりも新しいことが分かる。S D43埋土の第28～30層では古代から中世の遺物が確認できる。

調査区中央から南側において観察された第23層は、N R41およびその上面に堆積した層である。第23層の堆積時期を知る遺物は出土していないものの、層序からN R41は古代に旧河道あるいは低湿地であったが、中世以降に埋没したと推測される。N R41を埋めた後も第23層の堆積は続き、やがて北側と同じ標高になったと推測される。

次に第42～47層をひとつのまとまりとしてあげることができる。これらは、中世の遺構を形成する以前の堆積層である。第42～47層が間層となっており、これより下で古墳時代を中心とする遺構が確認できる。第52・53層はS H54埋土、第54層はS K67埋土、第55層はS H44埋土である。

これらの下層には基盤およびそれに準じる堆積層の第56～63層が確認できる。第56～57層は調査区北側でとらえた基盤に相当する層である。中央付近の第58層についてはS K67が形成されていることから、基盤がそれに準じる層ととらえておく。中央付近の確実な基盤として第60層が確認できる。第60層は暗褐色の細粒砂で構成されており、古墳時代の遺構の多くがこの層を基盤としている。

南側では、第60～63層が基盤となっている。このうち第61・62層は中粒砂で構成されている。古墳時代の基盤層である第60層の下にはこうした砂層が広がっていると想定できる。なお、第59層はしまりのない中粒砂で構成されており、小規模な砂堆の可能性が高い。層序・遺物から形成時期を限定できないが、ひとまず基盤に準じた性格を付与しておく。

(3) F区の遺構

a. 竪穴建物

S H44 (第18図) 調査区中央付近で検出した。一辺5.4mの方形を呈する竪穴建物である。南西-北東方位を主軸とする。残存壁高は8cmで、四壁に幅15~20cm、深さ5cmの壁周溝がめぐる。北辺にはカマドが付設されていた。カマドは内法幅50cmで、建物の北壁がわずかに半円形にふくらむことから、煙出しがのびていたことがわかる。カマド中央には長さ25cmの棒状石材が残されていた。棒状石材は一部被熱していたことから、カマドの支柱石に利用していたと考えられる。

S H44の出土品として、カマドから土師器の鉢(306)、その南に広がっていた炭とともに長柄甕(305)、小穴のBb22Pit2から台付甕(301)、Bb22Pit3からMT15型式あるいはTK10型式の須恵器杯身(308)が出土した。このほかTK10型式あるいはTK43型式の須恵器杯身(309)が出土していることから、古墳時代後期に廃絶したと考えられる。遺構の関係からS H45→S H44の先後関係が確認できる。

S H45 (第18図) 調査区中央付近で検出した竪穴建物で、一辺4.1mの方形を呈する。南北方向を主軸とするがやや東に振る。残存壁高は25cmで、壁は垂直ではなくやや斜めに立ち上がる。なおS H45では壁周溝を確認できなかったが、床面の精査等から判断して、当初から設けられていなかったものと考えられる。S H44と重複しており、S H45→S H44の新古関係にある。

S H45では北東隅付近で焼土層ならびに長さ25cmの棒状石材が確認できた。カマドに伴う焼土面や軸の被熱層は確認できなかったが、この付近の北壁に支柱石を伴うかたちで存在したが、S H45の築造に伴って破壊されたと推察される。これらは後述の第5層に伴う。

建物埋土の第5・6層を取り除くと床面に達し、床面中央やや北よりに焼土層が確認でき、ここからガラス質の鉄滓1点が出土した。北壁から少し離れていることも考慮すれば、床面の焼土層はカマドではなく、鍛冶が等の火処を想定するほうがふさわしい。県下において当該期の鍛冶関連遺構¹⁾は乏しいため、特筆に値する事項といえる。

S H45の埋土は褐色の第5層と暗褐色の第6層が確認できた。第5層からは土師器の台付甕(316・318)、鉢(320)のほか、上記とは別の鉄滓1点(写真図版18)が出土した。すなわち、S H45では鉄滓が2点出土しているのである。第6層からは大型の砥石(325)が出土した。砥石は緑泥片岩を用いており、遠方から運ばれてきた石材である。なお、S H45では第6層が床面を一定の厚さで埋めていることや出土状況から判断すると、第6層上面もまた床面であった可能性がある。この場合S H45には床面が2枚あったことになろう。

なお、S H44とS H45の台付甕を比較すると、新しいS H44では台付甕の口縁部は直立傾向にあり、端面が明瞭なものへとまとまる。一方で、S H45ではそれ以前の特徴を残している。この傾向は上村安生氏による集成・整理²⁾とも合致する。この点をとらえれば、当地域における台付甕の変遷とその系統が、詳細なかたちで進むものと思われる。

S H48 (第19図) 一辺3.2m以上の方形を呈する竪穴建物である。南北方向を主軸とするが、やや西に振る。残存壁高はわずか8cmで、壁周溝は確認できなかった。炭の広がりか2ヶ所確認できるが、カマドは遺存していなかった。遺構はS H48→S H49の重複関係にある。なお、S H44との関係は明確にはとらえることができなかったが、S H48→S H44と考えられる。出土物は確認できなかったものの、S H49との重複からTK10型式以前の建物と考えられる。

S H49 (第19図) 一辺5.4mの方形を呈する竪穴建物である。南北方向を主軸とするが、わずかに東に振る。残存壁高は12cmで、壁周溝は確認できなかった。炭の広がりか1ヶ所確認できるが、カマド等の火処は遺存していなかった。TK10型式の須恵器杯身(310)が出土していることから、S H49は古墳時代後期の竪穴建物と考えられる。遺構の重複からS H48→S H49の関係にある。

S H50 (第19図) 一辺4.6m以上の方形を呈する竪穴建物である。南西-北東方位を主軸とする。残存壁高は5cmで、壁周溝は確認できなかった。床面をわずかにとらえたにすぎず、南半分は検出できなかった。

北壁は一部が半円形に突出し、その付近に焼土面が確認できたことから、煙出しを伴うカマドが付設されていたことがわかる。なお焼土面では長さ40cmの棒状石材が出土しており、カマドには支柱石が据えられていたと考えられる。

出土品として土師器の台付甕のほか、TK10型式あるいはTK43型式の須恵器杯身(313)が出土している。したがってSH50は古墳時代後期の竪穴建物と考えられる。遺構の新古関係はSH50→SH51である。

SH51 (第19図) 一辺3.4m以上の方形を呈する竪穴建物である。南西-北東方位を主軸とする。残存壁高は7cmで、壁周溝は確認できなかった。北東壁は半円形に突出することから煙出しを伴うカマドを有することがわかる。カマド中央は焼土面が確認でき、長さ20cmの棒状石材が残されていた。このことから、カマドには支柱石が据えられていたと判断できる。出土遺物は確認されなかったが、SH50→SH51という遺構の重複から、古墳時代後期あるいはそれ以降に築かれたと考えられる。

SH54 (第19図) 一辺3.5m以上の方形と考えられる竪穴建物である。北東壁に伴う壁周溝が確認されたに過ぎない。南西-北東方位を主軸とする。壁周溝は幅20cm、深さ3cmである。北東壁はわずかに半円形に突出し、その前面に焼土面が広がることから、カマドを有していたことがわかる。SH54からは土師器の瓶(312)のほか、TK10型式からTK43型式の須恵器杯蓋(311)が出土していることから古墳時代後期に築かれたと考えられる。

b. 土坑

SK53 (第19図) 長軸1.6m、短軸1.5m、深さ50cmの不整形な円形を呈する土坑である。SK53からは石鎌(294)が出土した。石鎌のみ出土のため、時期を絞り込むことは難しい。SK53→SH51の重複関係にある。

SK52 (第20図) 長軸2.4m、短軸1.7m以上、深さ20cmの不整形な方形を呈する。この土坑からは弥生時代後期から終末期にかけての土器(261～293)がまとめて出土した。

なお、北側はSK72と隣接する。調査時に両者でひとつの竪穴建物となる可能性を検討したが、その

ようにみならず手がかりは十分ではなかった。したがって、SK52でひとつの土坑として評価しておく。

SK67 (第20図) 長軸2.2m、短軸2.0m以上、深さ40cmの不整形な土坑である。この土坑は西半で1段深くなっており、その南側においてさらに1段深い。この深い箇所(SK67中央)から台付甕・小型器台等(295～299)が出土した。出土遺物から弥生時代終末期から古墳時代前期に土坑が形成されたと考えられる。

山室遺跡では、弥生時代後期から古墳時代前期の遺構・遺物は限られている。SK52やSK67のような一括資料が出土したことは、弥生時代後期から古墳時代前期に当地に小規模ながらも集落が存在したことを示す重要な証左といえる。

SK61・62・63 (第16図) SK61は、長軸2.2m、短軸1.2m以上、深さ23cm、SK62は直径1.4m、深さ30cm、SK63は長径1.6m、短径1.0m、深さ17cmのいびつな土坑である。これらの土坑からは中世の遺物が出土した。F区では、A22グリッド以北において中世の遺構・遺物が多く検出されている。

c. 溝

SD43 調査区南端で検出された。幅1.4m以上、深さ70cm以上で東西方向を主軸とする。第17図の第28～30層が埋土にあたる。出土品として古代の土師器・須恵器のほか、細片ながらも中世の土師器・山茶碗が含まれていたことから、中世に埋没したと考えられる。後述するように、G区南側において古代の遺構が確認できることから、F区南端からG区にかけて古代の集落が形成されていたため、古代の遺物が多く出土したと推測される。

なお、SD43の南側は現在の用水路が機能しており、湧水が激しかったため、深割を断念した。用水路の南側は70～80cm低くなっており、田畑の区画から河川の旧流がうかがえる。これより南側はE区の南側と同様に、雲出川の氾濫によって遺構は削りとられていると判断しておく。

SD46 幅50m、深さ16cmで東西方向に主軸をとる。第17図の第46・47層を基盤としているため、古墳時代の遺構面が埋没した後に形成されたことがわかる。土師器鍋(335)が出土しており、室町時代の

遺構と考えられる。

S D47 幅50m、深さ14cmでS D46とともに東西方向の主軸をもつ。第17図の第47層を基盤としており、古墳時代の遺構面が埋没後に形成されたことがわかる。中世の土師器羽釜(336)が出土した。

S D56・58 S D56は幅27m、深さ83cm、S D58は幅1.8m、深さ48cmとともに東西方向に主軸をもつ。ともに室町時代の遺物が出土した。なお、平面には反映していないが、S D56の上層で近・現代の遺物まで含むS D55(第17図第10層)を検出した。この点から、同じ位置で何度も溝を掘削していたことがわかる。

S D57・65 S D57は幅1.2m、深さ22cm、S D65は幅1.2m、深さ26cmで、S D56・58と同様の主軸をもつ。ただし、S D56・58が基盤とする第17図の第42・43層よりも下層でS D57・65が形成されているため、それ以前と判断できる。

なお、S D56・65において弥生土器が一定数出土している(362・363・365～370)。この点から付近に弥生時代の遺構が近在するか、後世の削平によってS D56・65から出土したものと考えられる。

d. 旧河道

N R41 幅42m以上の旧河道で、東西方向を主軸とする。N R41は北側において第17図の第47・60層、中央付近から第61層を基盤に形成している。雲出川から分流した旧河道あるいはその影響でできた低湿地と考えられる。遺物は出土しなかったが、土層断面の観察から古代に形成され、中世以降に埋没したと推測される。

e. 柱穴

Aw22Pit3 ほか(第19図) Aw22Pit1～Pit3ならびにAx22Pit1をあわせて報告しておく。Aw22のPit1は長径1.0m、短径0.8m、深さ20cm、Pit2は長径0.9m、短径0.7m、深さ36cm、Pit3は長径0.8m、短径0.7m、深さ31cm、Ax22Pit1は長径1.0m、短径0.8m、深さ20cmで、いずれも円形を呈する柱穴で、直径30cm程の柱痕ならびに柱の抜き取り痕が認められた。Aw22Pit3から中世陶器(355)が出土している。建物の平面プランを導き出すには至らなかったが、中世の大型掘立柱建物に1～2棟想定できる。

AI22Pit9 長径0.5m、短径0.3m、深さ37cmの円形

を呈する小穴である。この小穴から頭部を折り曲げて打ち延ばした釘(356)が出土した。この小穴は中世と考えられる。

(4) F区のみとめ

F区では、中央付近において古墳時代後期の集落遺構、北側では中世の遺構が確認できた。F区は古墳時代中期後半から後期の時期が中心となる点と異なる。後期にはF区に多くの建物が建てられたことだろう。

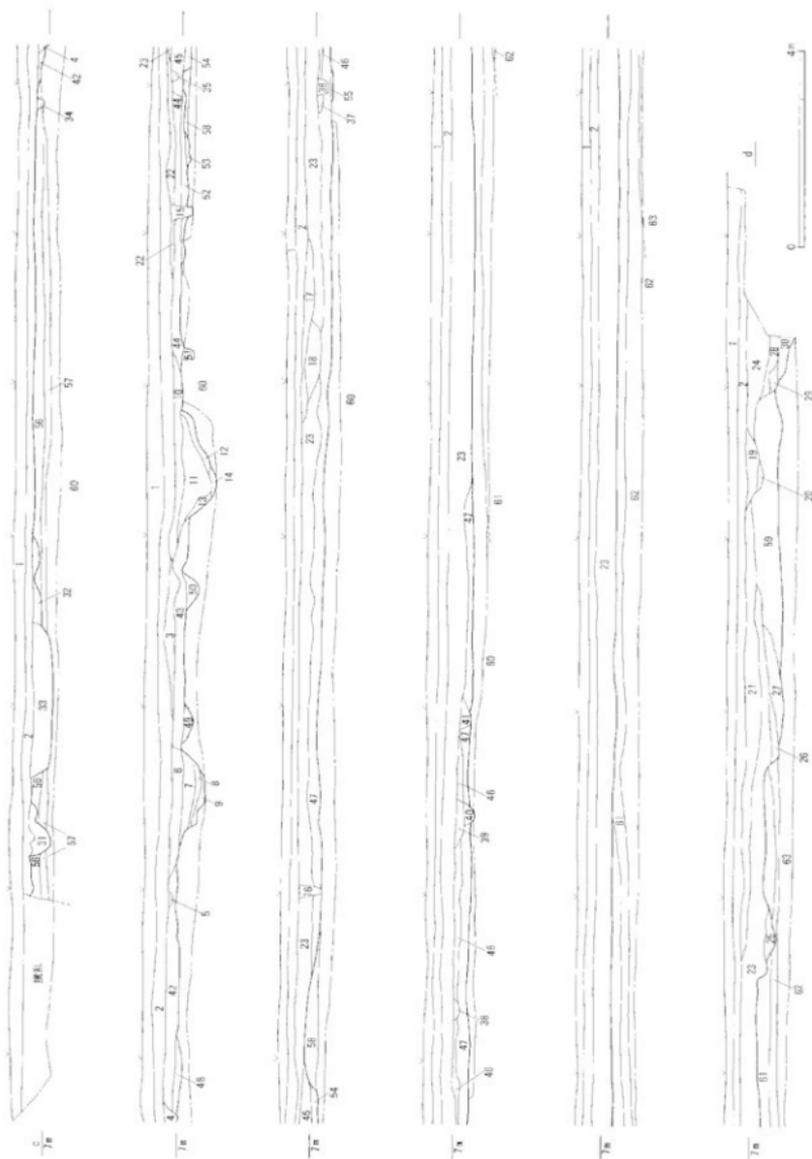
また、F区ではS H45において鉄滓が2点出土した。特にガラス質の鉄滓は、床面の焼土層で出土している。大型砥石も出土していることから、S H45では鍛冶を行っていた可能性が高い。

さらに、堅穴建物に2種類あることも判明した。S H44にみられるように壁間溝を有するタイプと、S H45のような壁が斜めに立ち上がり、壁間溝を有しないタイプである。前者は他遺跡の事例も考慮すれば壁は垂直に立ち上がるのだろう。両者にどのような相違があるのかは今後の課題だが、ひとつの視点を提示できるだろう。

註

(1) 輪郭口の出土例として古墳時代中期の六次A遺跡、後期前半の高茶屋大垣内遺跡があげられる(三重県埋蔵文化財センター『高茶屋大垣内遺跡(第3・4次)発掘調査報告』2000年。三重県埋蔵文化財センター『六次A遺跡発掘調査報告』2002年)。鉄滓の例として、鈴鹿市津賀2号墳から供献滓があげられる(三重県埋蔵文化財センター『北城越遺跡(第1次)都賀2号墳』2000年)。その時期はTK209型式期である。このほか、西肥留遺跡S H419からガラス質滓が出土している(三重県埋蔵文化財センター『西肥留遺跡発掘調査報告(第1・2・3・5次)』2008年)。西肥留遺跡の報告では古墳時代前期の堅穴建物S H419に伴うものかどうかは断定を控えているため、参考例として挙げるにとどめておく。

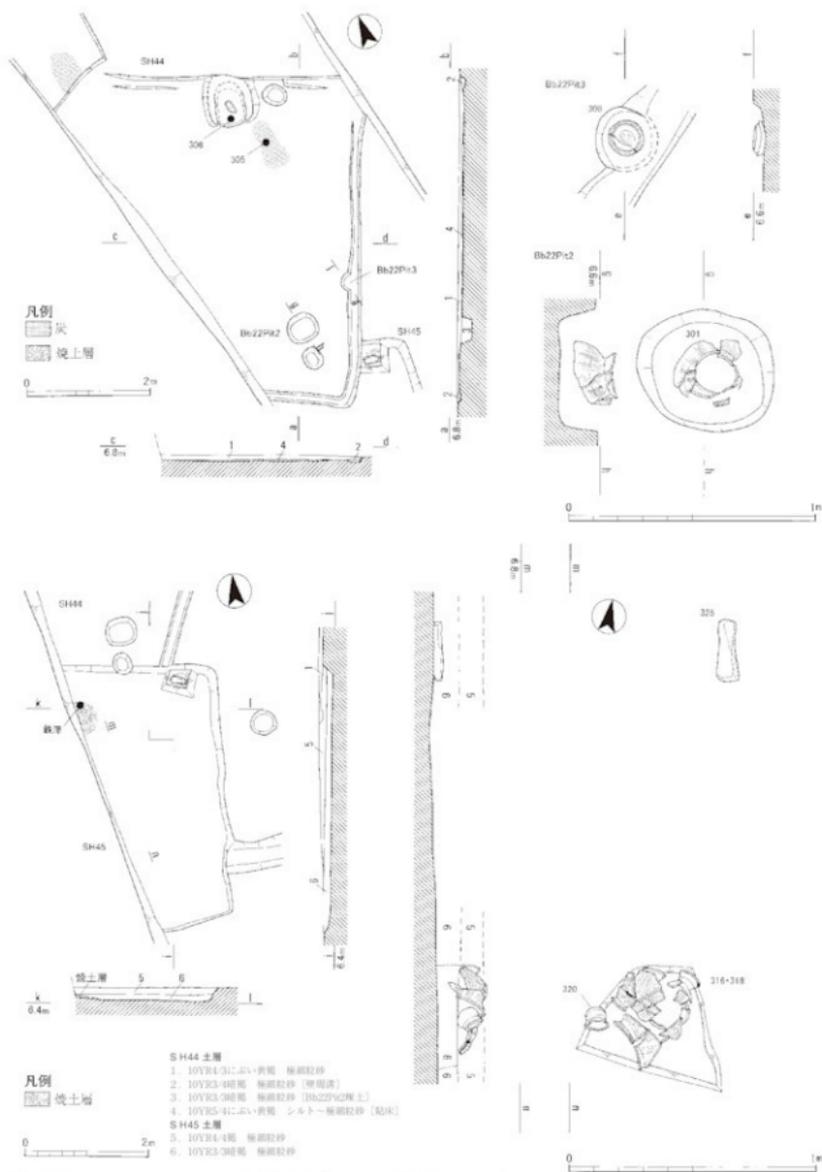
(2) 上村安生「宇田型築瓦遺跡から伊勢型築瓦成立過程についての基礎的研究」『S字築瓦を考える』東海考古学フォーラム、1997年。



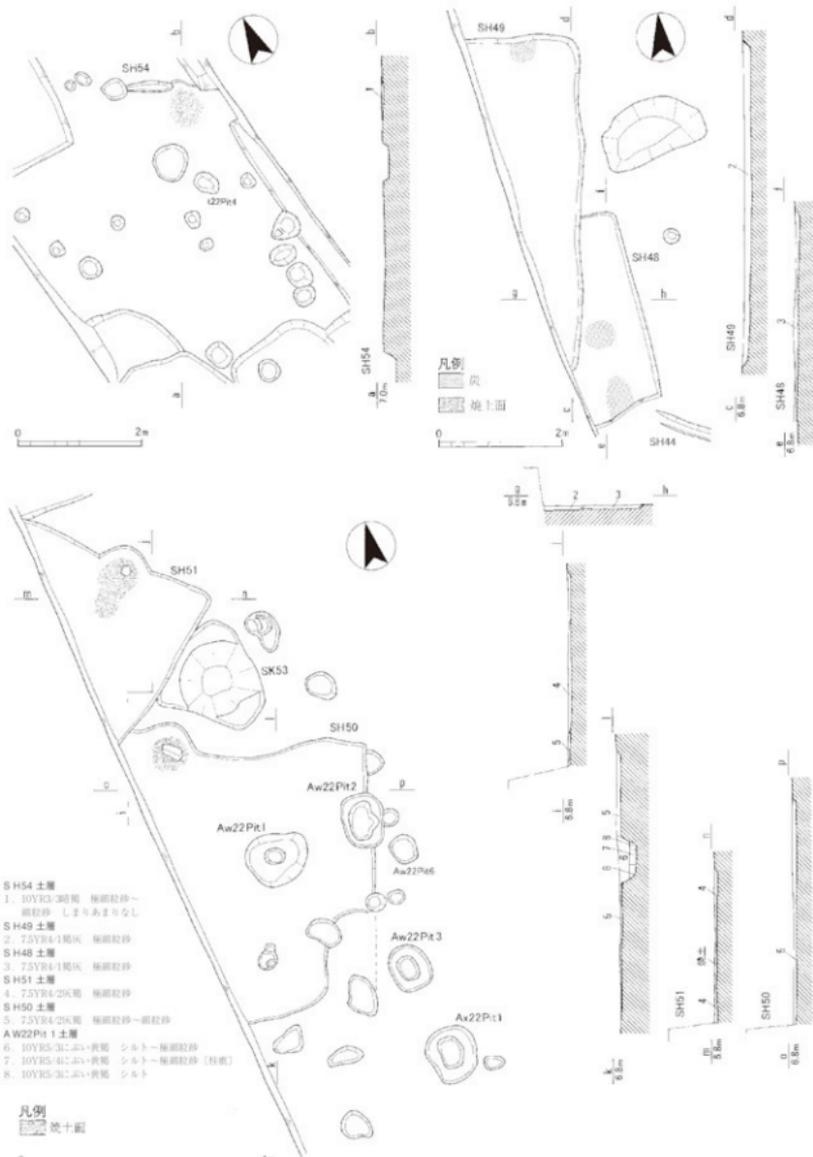
第17图 F区土层断面图 (1:100)

F区土層

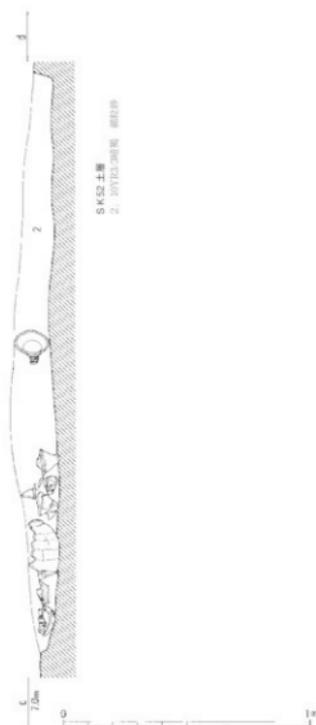
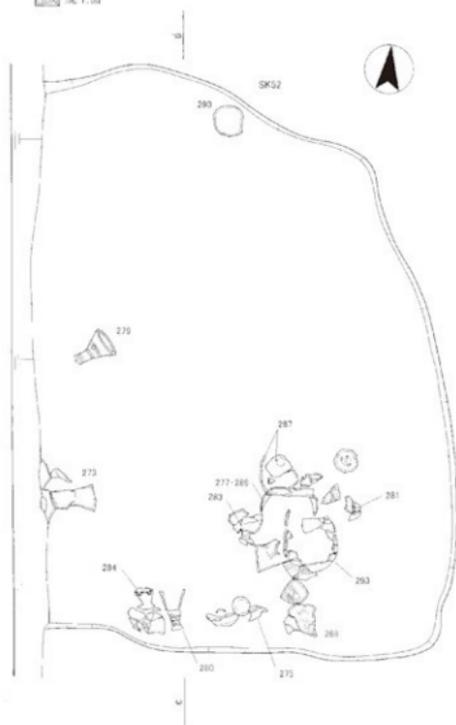
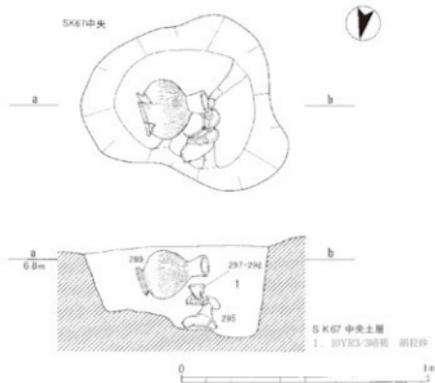
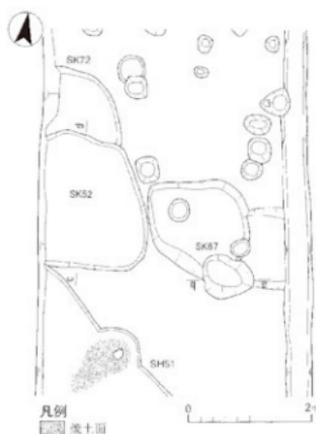
1. 10YR4-1弱灰 極細粒砂～細粒砂（一部中粒砂）
しまりなし（構造上・床土）
2. 7.5YR4-2弱黄 極細粒砂（一部細粒砂） しまりあり
3. 10YK3-2弱褐 細粒砂 粒径10cm以下の礫を15%含む
しまりあまりなし
4. 10YR4-2弱黄 極細粒砂 しまりあり
5. 10YR4-2弱黄 極細粒砂 しまりややあり
6. 10YK3-3弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりややあり
〔S D58程度上〕
7. 10YK3-2弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりあまりなし
〔S D58程度上〕
8. 10YK3-4弱褐 極細粒砂 しまりあまりなし〔S D58程度上〕
9. 10YK3-3弱褐 細粒砂 しまりあまりなし〔S D58程度上〕
10. 10YK3-3弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりあまりなし
〔S D58程度上〕
11. 10YK3-4弱褐 細粒砂 しまりなし〔S D58程度上〕
12. 10YK3-3弱褐 細粒砂 しまりなし〔S D58程度上〕
13. 10YR4-4弱 細粒砂～中粒砂 しまりなし〔S D58程度上〕
14. 10YR4-6弱 細粒砂 しまりなし〔S D58程度上〕
15. 7.5YR4-1弱灰 シルト～細粒砂 しまりややあり
16. 10YK3-2弱褐 細粒砂 しまりなし
17. 10YK3-3弱褐 極細粒砂 しまりややあり
18. 10YK3-2弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりややあり
19. 7.5YR4-3弱 細粒砂 しまりあまりなし
20. 2.5Y4-1黄灰 極細粒砂（一部中粒砂） しまりあまりなし
下部に木炭灰状中粒
21. 10YR4-2弱黄 極細粒砂 しまりややあり
22. 10YK3-2弱褐 シルト～極細粒砂 しまりややあり
23. 10YK3-3弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりややあり
24. 10YK3-3弱褐 細粒砂 しまりなし
25. 10YK3-4弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりあり
〔S D42程度上〕
26. 10YK3-4弱褐 細粒砂 しまりややあり
27. 10YR4-4弱 極細粒砂～細粒砂 しまりややあり
28. 10YK3-4弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりややあり
〔S D43程度上〕
29. 10YR4-4弱 中粒砂 しまりなし〔S D43程度上〕
30. 10YR4-3に多い黄灰 極細粒砂（一部シルト）
しまりややあり〔S D43程度上〕
31. 10YR4-2弱黄 極細粒砂（一部シルト） しまりややあり
32. 10YR4-2弱黄 極細粒砂～細粒砂 しまりあまりなし
〔S K60程度上〕
33. 10YK3-3弱褐 極細粒砂（一部シルト） しまりややあり
〔S K60程度上〕
34. 10YR4-2弱黄 シルト～極細粒砂 しまりあり
35. 7.5YR4-1弱灰 シルト～細粒砂 しまりあり
36. 10YK3-3弱褐 極細粒砂 しまりあまりなし
37. 10YK3-4弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりややあり
38. 7.5YR4-3弱 極細粒砂 しまりややあり
39. 7.5YK3-3弱褐 極細粒砂 しまりなし〔S D46程度上〕
40. 7.5YK3-4弱褐 細粒砂 しまりなし〔S D46程度上〕
41. 7.5YK3-4弱褐 極細粒砂 しまりなし〔S D47程度上〕
42. 10YK3-3弱褐 極細粒砂 しまりあり
43. 10YK3-3弱褐 細粒砂（一部極細粒砂） しまりあまりなし
44. 10YK3-4弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりなし
45. 10YK3-3弱褐 細粒砂 しまりなし
46. 10YK3-3弱褐 細粒砂 しまりなし
47. 10YR4-4弱 細粒砂（一部極細粒砂） しまりあまりなし
48. 10YK3-4弱褐 細粒砂 しまりあまりなし
49. 10YR4-2弱黄 極細粒砂～細粒砂 しまりあまりなし
〔S D57程度上〕
50. 10YR4-3に多い黄灰 細粒砂 しまりなし〔S D45程度上〕
51. 10YK3-4弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりなし
52. 10YK3-3弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりあまりなし
〔S H54程度上〕
53. 10YR4-3に多い黄灰 細粒砂 しまりなし〔S H54程度上〕
54. 10YK3-4弱褐 細粒砂～中粒砂 しまりなし
〔S K67程度上〕
55. 10YK3-3弱褐に10YR4-6弱を炭灰に20%含む 極細粒砂～
細粒砂 しまりあまりなし〔S H44程度上〕
56. 10YK3-4弱褐 極細粒砂～細粒砂 しまりあまりなし
57. 10YR4-3に多い黄灰 極細粒砂（一部細粒砂）
しまりあまりなし
58. 10YR4-3に多い黄灰 極細粒砂（一部細粒砂）
しまりあまりなし
59. 10YK3-4弱褐 中粒砂 しまりなし
60. 10YK3-3弱褐 細粒砂 しまりあまりなし〔高層〕
61. 10YK3-3弱褐 中粒砂 粒径5cm以下の礫を20%含む
〔高層〕
62. 10YR4-6弱 中粒砂 しまりなし〔高層〕
63. 10YK3-3弱褐 極細粒砂（一部シルト） しまりややあり
〔高層〕



第18図 SH44・SH45 平面図・断面図 (1 : 80、詳細図は 1 : 20)



第19図 SH48～51・SH54等平面図・断面図(1:80)



第20図 SK52・SK67 平面図・断面図 (1:80、詳細図は1:20)

4. G区の調査

(1) 概要

G区は総長90m、幅4mの調査区で、「く」の字形を呈する。耕作土を除去すると、すぐに基盤となる層が現れ、同一面に弥生時代から現代までの遺構が形成されている。この基盤は洪積台地を思わせる土質である。近隣の古老の話によると、G区およびその南側にある堤防下にはかつて集落が営まれていたが、第2次世界大戦より前に集落は高台へ移されたのだという。現在の地形からは読み取れないが、北側の台地から駒状にその縁辺がのびており、この微高地に集落が形成されていたと考えられる。この埋没地形は、雲出川の氾濫によって各所で分断されているのだろうが、その一部がG区付近に残存していると推察される。

このG区では、雲出川の氾濫によって削り取られた箇所が多く確認でき、その激しさを物語っている。遺構として弥生時代後期の小穴1基、奈良時代の竪穴建物1棟のほか、多数の中・近世の溝・土坑が確認できた(第21図)。中・近世の遺構・遺物が多く確認できたことがE区・F区と異なる特色といえる。

(2) 基本層序

G区の北側では耕作土・床土にあたる第1層の下には褐色の極細粒砂で構成される第4層が検出された(第22図)。この第4層はいわゆる包含層に相当する。この下に洪積台地を思わせる基盤の第42層が確認できた。第42層は褐色の極細粒砂で構成される。一方、南側では第1層直下において第42層が検出された。

基盤の第42層は雲出川の氾濫によってしばしば削られているようである。このうち第2層は、地元住民の証言から近・現代の洪水によって削り取られた部分と判明した。h1グリッド付近で確認できた第3層も洪水によって削り取られた部分とその埋土で、凹地に長径20cm程の礫を詰め込んでいた。凹地を平坦地に復旧するためと洪水で流されてきた礫の処理を兼ねていたのだろう。

調査区南東ではS D121をはじめとした南北方向の溝に伴う埋土(第16～28層)、屈折点付近ではS D143・S K145等の溝・土坑埋土(第5～15層)、

調査区北側では溝・土坑・小穴の埋土(第31～41層)が確認できた。

なお、調査区より北側では洪水によって深く削り込まれていることが範囲確認調査で判明している。この低地がF区のNR41へとつながると想定される。

(3) G区の遺構

G区の南東側では南北方向の溝群(S D110・121等)があり、その西側では奈良時代を中心とした遺構(S K118・S D156・S H125等)、さらにその西側では中・近世の遺構(S D126・S K144・S K145等)がある。屈折点付近から北側では中・近世の溝・土坑(S D143・S D141・S K151等)が密集する。なお、規模の大きな遺構に関しては、洪水で削り取られた凹地を利用した可能性が高く、この凹地に廃品を投棄して平坦にした遺構もみられた。

a. 竪穴建物

S H125 (第23図) 一辺27m以上の方形を呈する竪穴建物である。主軸は北からやや西に振る。建物の隅角は矩形ではなく、隅丸を呈する。残存壁高16cmで、壁溝は確認できなかった。炭が確認されたが、カマド等の火処は確認できなかった。出土遺物は須恵器の大甍・蓋、土師器の長柄甕・暗文の入った皿等(416～419)が確認できることから、その時期は奈良時代と考えられる。

b. 溝

S D156 長さ3.0m以上にわたって確認された溝で、幅80cm、深さ25cmの規模を有する。東西方向を主軸とする。S D156では飛鳥時代から奈良時代の遺物が確認できる。周辺にはS H125、S K118等の奈良時代を中心とした遺構が散見できることから、当該期の集落が広がっていたと考えられる。

S D121 (第23図) 調査区の最も東側で検出した溝で、幅2.0m以上、深さ92cmの溝で南北方向に主軸をとる。調査区の東端は道路を隔てて低地となっているため、S D121は崖面状を呈する地形変化を反映しているのかもしれない。S D121からは主に室町時代の遺物が出土している。

S D110・122 (第23図) S D110は幅2.0m、深さ55cmの南北方向に主軸をとる溝で、幅3.0m、深さ31

cmのSD122に合流する。合流地点にはSD110をふさぐように川原石を詰め込んでいることが観察できた。水位調節等を目的とした簡易な施設と考えられる。SD110からは、室町時代の遺物が出土している。

SD112～114 SD112は幅90cm、深さ29cm、SD113は幅70cm、深さ32cm、SD114は幅80cm、深さ20cmで、いずれも南北方向に主軸を取る。これらは方向を描いていることから関連をもつものと推測される。SD112からは鎌倉時代の遺物が出土していることから、中世の溝と考えられる。

SD126 7.5m以上にわたって確認された幅70cm、深さ32cmの溝で、L字状を呈する。形状から区画溝等の性格を考える必要がある。このSD126より西側・北側において中・近世の遺構・遺物が見つかっている。

SD141 東西方向に主軸をとる幅26m、深さ90cmの溝である。埋土のうち第22図の第34層から瓦、第35層から大量の中世土器がまともに出て出土した。特に第35層からの出土品は良好な一括資料といえる。これらの出土品から室町時代に機能した溝と考えられる。SD141南のh1グリッドでは洪水による削り込みにより溝状を呈している凹地がある（第3層）。SD141もこうした洪水による凹地を利用した可能性がある。

SD143 幅5m、深さ68cmの溝で東西方向に主軸をもつ。出土品から室町時代に機能した溝と考えられる。幅・深さから洪水で生じた凹地を利用した溝の可能性もある。

c. 土坑等

SK117・118・123 SK117は長軸1.1m、短軸80cm、深さ16cmのいびつな方形を呈する。SK118は長軸80cm、短軸60cm、深さ32cmで、中央に直径30cmの柱痕を有する方形柱穴の可能性もある。SK123は長軸70cm、短軸60cm以上、深さ31cmの方形とみなせる形状である。柱穴だとすれば、これらは形状から奈良時代を中心とした時期の掘立柱建物柱穴となる可能性をもつ。なお、SK118とSK123は後述のq9Pn3とともに一連の遺構となる可能性を考慮する必要がある。今後、隣接地点で発掘調査する場合は、この点への配慮が求められる。

SK155 SK155は長径80cm、短径60cm、深さ34cmを測る。出土品から奈良時代の遺構と考えられる。SH125からSK117付近において奈良時代を中心とした時期の遺構がまとまる傾向があり、当該期の集落の広がりがおおよそ推測できる。

SK139・140 SK139は長径1.8m、短径1.6m以上、深さ37cmの不整形な土坑、SK140は長径1.7m以上、深さ42cmの不整形な土坑である。SK139の南西およびSK140東側において炭を含む層が確認できた。遺物からSK140は室町時代の遺構と考えられる。

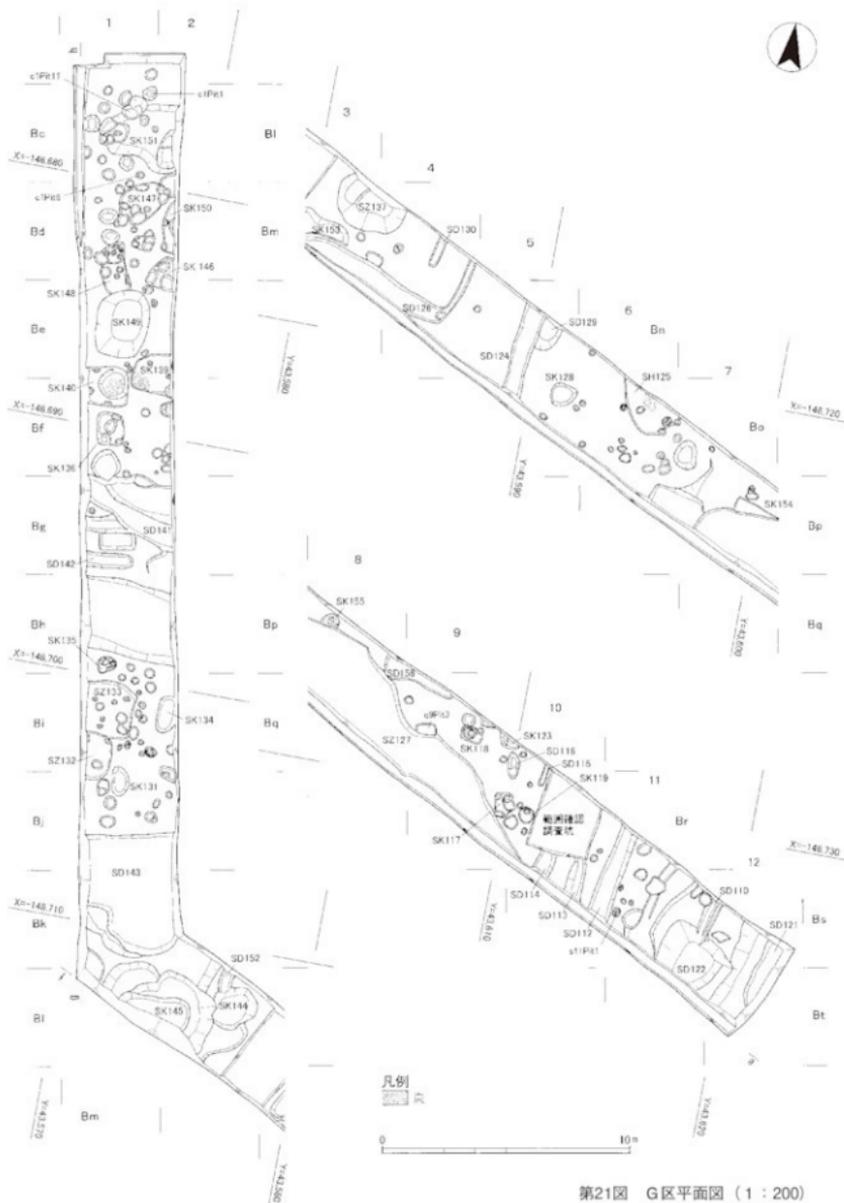
SK145 長径4.7m、深さ84cmの土坑である。SK144の埋土は第22図にあるように第8～13層からなる。この土坑も深さ等から河川の氾濫によって削り込まれた部分を利用したと考えられる。SK145からは室町時代の遺物が出土した。

SK144 直径1.8m、深さ32cmのいびつな円形を呈する土坑である。この土坑から中世末の土器とともに包丁が出土した。包丁は類例が乏しいものの、古代には正倉院の刀子、南北朝時代の『愚問歌詞』にみえる包丁から、刀に類似したものを用いていたと考えられている。しかし、鉄砲・タバコがポルトガル人によって伝えられ、天正年間にはタバコの葉を刻むタバコ包丁が堺でつくられるようになり、現代につながる包丁へと発展する。こうした点から山室遺跡の包丁は中世末から近世の初現的な事例であり、包丁の歴史を探る上で大きな意味をもつことだろう。

SK147・148 SK147は長軸2.2m、短軸1.4m、深さ53cm、SK148は長軸2.0m、短軸1.0m、深さ53cmの規模で、ともに不整形な土坑である。周囲にSK146・SK150等の土坑が密集しており、いずれも中・近世の遺構と考えられる。

SK151 長径3.1m以上、短径2.8m、深さ1.4mの不整形な土坑である。形状や深さから洪水による削り込みによって生じた凹地を利用したと考えられる。遺構からは室町時代の遺物が出土した。

SK149 長軸3.0m、短軸2.2m、深さ69cmの円形を呈する土坑である。土坑には長径20cm程度の礫がぎっしり詰め込まれていた。共存遺物として近世の陶磁器・瓦が含まれていたことから、当該期の水害で生じた凹地に不要な礫を詰めて平坦にしたものと考えられる。



第21图 G区平面图 (1:200)

d. ほか

S Z 137 長径3.0m、深さ75cmの円形を呈する土坑である。時期比定できる遺物は出土していないが、形状・堆積状況がS K 145と類似していることから、同様の性格を付与しておく。

S Z 132・133 S Z 132は直径2.0m、深さ15cmの円形土坑、S Z 133は長軸2.4m、深さ20cmの方形を呈する土坑である。S Z 133→S Z 132の先後関係にある。S Z 133からは室町時代の遺物が確認できたことから、S Z 132はそれ以降の遺構といえる。

S Z 127 幅18m以上にわたって確認された洪水で削り込まれた部分である。埋土は洪水で運ばれてきた砂を利用したとみられる。埋土は中粒砂で構成されており、崩落の危険があったため、安全面を考慮して深さは65cmにとどめた。雲出川の氾濫の壮絶さが容易に想像できる。S Z 127の時期は地元住民の証言をして、近・現代の可能性を考えておく。

e. 柱穴・小穴

s11Pit1 長径40cm、短径30cm、深さ32cmの小穴である。弥生時代後期の土器が出土した。G区では弥生時代の遺物はほとんど確認されていないため、貴

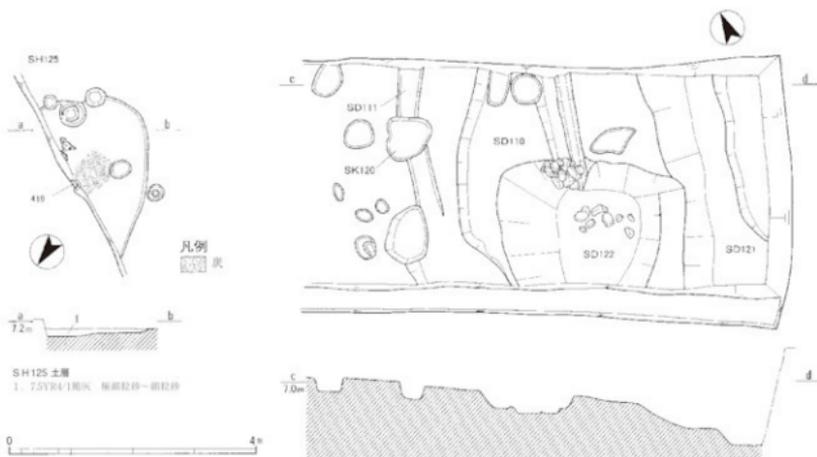
重な事例といえる。

q9Pit3 長軸80cm、短軸50cm以上、深さ12cmの方形を呈する小穴である。遺物として土錘(569)が出土した。形状から古代の柱穴の可能性がある。

(4) G区まとめ

G区では、埋没地形として洪積台地を思わせる基盤があり、ここに弥生時代後期から現代までの遺構が形成されていることが判明した。さらにこの埋没地形は、北側の台地につながると思われるが、洪水の影響で削り込まれていったん低くなり、遺構もいったん途切れると推測される。

遺構の特徴として古代の集落が形成されていた点、E・F区ではとらえることができなかった特徴である。さらに中・近世の遺構が稠密であった点も特筆されよう。なお、当地およびその周辺では中世から近世への過渡期における土器資料に恵まれていなかった。この点からG区における中・近世の出土品は、当該地域の土器編年にとって良好な資料となるろう。



第23図 SH125・SD110等平面図・断面図(1:80)

IV 遺物

1. 出土遺物の概要

(1) 遺物の数量と構成

本次調査で出土した遺物は土器・陶磁器・瓦・石製品・鉄製品で、コンテナ換算で90箱（整理前）を数える。遺物の時期は弥生時代中期から江戸時代初頭におよぶが、E・F区では古墳時代中・後期の遺物が卓越し、G区は中世後～末期の資料が多くみられた。

以下に、時代ごとの遺物の概要を示す¹⁾。

弥生時代 中期中葉から古墳時代初頭までの土器が一定量認められ、小規模かつ断続的に集落が展開したことが知られる。F区SK52出土土器はS字甕成立直前の良好な資料である。

古墳時代 廻間Ⅲ式以降の古墳時代前期の遺物は希薄である。遺物の大半は須恵器のTK47～TK10型式、土師器は宇田型甕を主体とし、僅かに組み上げ口縁甕が伴う段階である（上村IV～V期）。6世紀後半から7世紀前半の遺物は少ない。

さて、当該期の堅穴住居内からは大小の砥石が出土しているが、本書では砥石の属性の一つとして、砥石目の粒度を数値化し、遺物観察表に記すことにした²⁾。山室遺跡ではわずかながら鍛冶滓が出土しており、鉄器生産の内容と砥石の粒度が関連する可能性がある。今後、砥石の利用状況を通時的あるいは集落間で比較していくことが必要となろう。

古代 G区や範囲確認調査などで7世紀後半から8世紀前半の暗文土師器や須恵器が出土している。一方、8世紀後半から平安時代の遺物は少なく、若干の灰釉・緑釉陶器が出土する程度である。

中世 13世紀以降、17世紀初頭までの遺物が認められ、山室遺跡が継続的に生活の場として利用されていたことがうかがえる。

(2) 整理の方針

整理作業にあたっては口縁部や底部など時期の判別しやすい部位を中心にピックアップを進めた。その際、混入遺物は原則除外したが、弥生土器や石製品等の稀少な遺物は参考資料として図示した。また、

近世の遺物についても、中世末期の遺物との分離が難しいものが多いことや、中世末から近世初頭の土師器羽釜の良好な資料が得られたことなどから、極力報告の対象としている。

写真は図化遺物のうち主要なもののみを撮影し、石膏による補填は脆弱部の補強のみにとどめた。

註

(1) 遺物の分類や時期については下記文献に拠った。

弥生土器：上村安生「伊勢地域」『弥生土器の様式と編年 東海編』木耳社、2002年。

赤塚次郎「濃尾平野における弥生時代後期の土器編年」『八王子遺跡 考察編』愛知県埋蔵文化財センター、2001年。

土師器：愛知県埋蔵文化財センター「廻間遺跡」1990年。
上村安生「宇田型甕衰退から伊勢型甕成立過程についての基礎的研究」『S字甕を考える』東海考古学フォーラム、1997年。

赤塚次郎・早野浩二「松河戸・宇田様式の再編」『研究紀要』第2号、愛知県埋蔵文化財センター、2001年。

斎宮歴史博物館「斎宮跡発掘調査報告1」2001年。

須恵器：田辺昭三『須恵器大成』角川書店、1982年。

中世土師器：伊藤裕偉「中北勢地域の中世土器」および「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史資料編 考古1』三重県、2005年。

山茶碗：藤澤良祐「山茶碗の型式編年」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要1』瀬戸市歴史民俗資料館、1982年/『灰釉陶器から山茶碗生産へ』『愛知県史別編 産業2』愛知県、2007年。

瀬戸美濃：藤澤良祐「瀬戸美濃大室編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯、2002年/『施釉陶器生産技術の伝播』『中世産業の諸相～生産技術の展開と編年～』（発表要旨集）2005年。

常滑：中野晴久「瀬美・常滑」『中世産業の諸相～生産技術の展開と編年～』（発表要旨集）2005年。

瓦：山崎信二「中世瓦の研究」奈良国立文化財研究所、2000年。

(2) 村田裕一氏の方法に倣い、研磨材のJIS規格に準拠するサンドペーパーとの対比を行った。粒度は#40以下、80（粗目）、120、180（中目）、320、600（細目）、1000、2000

以上(極細目)の8段階とした。観察は、肉眼および倍率30～50倍のデジタルマイクロスコープを用いた。

村田裕一「工具-砥石-」『考古資料大観』9巻、小学館、2002年。

2. 範囲確認調査の遺物

以下、調査区および出土遺構ごとに遺物の様相を略述する。製作技法の特徴や法量など、各遺物の詳細については巻末の遺物観察表を参照されたい。

1～32は範囲確認調査出土遺物である(第24図)。図示した遺物は弥生時代と古代のものが多いが、実際には弥生から中世までの遺物が満遍なく出土している。次節以降に示す発掘調査の遺物に比べると、弥生中期の土器や、古代の暗文土師器が多いことは注目できる。中世では、中世墓から出土した蔵骨器の存在が特筆されよう。以下、範囲確認調査の調査坑順に記す。

1～4は範囲確認A区出土遺物である。1は高杯で、内面に暗文をもつ。7世紀後半。2は土師器杯で、内面に放射状暗文を上下二段に施す。3は須恵器杯で奈良時代のもの。

5～15は範囲確認B区の遺物。5は土師器高杯の脚部で、脚柱部の内面には板状工具を時計回りにナデつけている。6は短頸壺、7・8は広口壺で、肩部と口縁端部に円形浮文を付加する。小片のため接合できないが、おそらく同一個体であろう。11～

15は調査坑B43出土遺物で、14・15は中世墓に伴うものである。14は蔵骨器の蓋に転用された片口鉢で、内面の摩耗は顕著でない。15は藤澤彌年の古瀬戸前期Ⅲに相当する灰釉四耳壺で、頸部脚部の沈線はみられない。両者は中世墓の周辺から出土した11・12などとともに、13世紀後半に位置づけられよう。

16～26は範囲確認C区出土遺物で、弥生中期の土器が多く得られている。16は広口壺、17は鉢で、口縁部に凹線文がみられる。18は広口壺で頸部にヘラ描きの沈線がみられる。19はミニチュア土器である。内面はハケム調整で丁寧に作られる。23は壺で、内面にはハケ原体による沈線がある。25は椀形高杯で、外面は横方向のミガキ、内面は縦方向のエビナデがみられる。26は広口壺で、頸部に多条のヘラ描き沈線、肩部と胴部下半にヘラミガキを施すものである。

27～32は範囲確認D区出土遺物。27は底部にケズリ、内面に放射状暗文をもつ土師器杯。32は近世の陶器で、小壺や水滴などの蓋であろうか。平面形は八角形である。

3. E区の遺物

(1) 古墳時代～古代の遺物(第25～29図)

33～46はS H86出土遺物。33～35、37～41は台付甕で、宇田型甕は肩の張りが弱く、僅かに長胴化の兆しがみられる。36は口縁端部を積み上げるく字甕で、口縁部径は胴部径よりも小さく、口縁部内面にヨコハケを施す。37は短頸の台付甕で、内面はヨコハケ調整。43は須恵器広口壺である。これらの土器は5世紀末から6世紀前葉に位置づけられよう。44は刀子である。両端の欠損や錆の影響で形態を推測しづらいが、刃が小さく下方に突き出るものと推測する。45・46は凝灰岩製の砥石で、粒度はいずれも#1000の極細目。4面とも使用痕が認められ、46は損耗により大きく湾曲する。

47～60はS H90出土遺物。47～50は須恵器杯で、

やや型式差が認められる。47は第8図第1層出土の蓋で、天井部はヘラ切り後未調整のまま、口縁端部は丸く収めている。49は杯身で、器壁は厚く、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。50は口径が15cm近く、口縁は短く垂直気味に立ち上がる。50は混入品の可能性があらう。51～54は土師器甕で、宇田型甕のほか、積み上げ口縁のく字甕が一定量組成する。55～57はカマドから出土した大型鉢で、細密なハケ調整または板ナデを施す。これらは、56から平底のものともみられる。58・59は甕である。欠損のため通気孔の形状は判然としない。60は砥石で、45・46と同様の凝灰岩を用いている。

61・62はS H95出土遺物。62の高杯は脚部内面に時計回りの工具ナデが認められる。

63～66はS H96出土の土器で6世紀中葉から後葉のもの。67はS H97出土の台付甕である。

68～88はS K21出土土器。S K21～23出土土器はいずれも上村IV期に位置づけられ、遺構間で大きな差はみられない。台付甕は字田型が大半で、他に羽状ハケや板ナデを施す大型鉢、腕形高杯、有段高杯、腕、鉢、小型壺などが伴う。71は口縁部をごく弱く揃み上げる長胴の甕である。高杯は腕形と有段高杯がある。腕87は高杯と同様の精良な胎土を用い、赤褐色を呈する。88は羽状ハケを施す大型鉢で、胴部最大径は口縁部径よりも大きい。

91～93はS K26出土土器。92は有段高杯。杯部の内外面ともハケ調整し、口縁端部はシャープに取られる。S K22出土の高杯116とはほぼ同様のものである。93は磨石で、全体が使用のため磨耗する。

89・90はS K25出土土器。89は羽状ハケを有する大型鉢、90は広口壺である。

94～123はS K22出土土器で、土師器はS K21とはほぼ同様のものがみられる。122は甕の把手で、接合部はソケット状を呈する。123はホルンフェルス製の砥石で、小口端部などに礫の自然面が残存する。

124～159はS K23出土土器。台付甕のほか、腕形・有段高杯、小型壺、鉢、腕、大型鉢などがある。156は口縁部が如意形に外反する大型鉢、157は外面板ナデ調整の大型鉢である。158は須恵器の無蓋高杯で、外面に櫛波状文がみられる。159は滑石製の紡錘車で、底面には同心円状の擦痕と光沢が認められる。

160はS K24出土の台付甕で、肩部にヘラ描きの沈線がある。161～178はS K85出土土器で、土師器は上村IV期に位置づけられる。176は内外とも指ナデで粗く仕上げる厚手の鉢で、古墳時代前期の有孔鉢の系譜に連なるものであろうか。177・178はほぼ同形同大の直口壺で、178には底部外面にヘラケ

ズリが認められる。

181～186は古墳時代から古代のピットから出土した遺物。185は古代の甕で、底部外面をヘラケズリする。186は刀子で、柄に多孔質の有機物が残存していることから、鹿角装の可能性が高い。

(2) 中世の遺物 (第30図)

187～194はS D36出土遺物である。山茶碗187・188は尾張7～8型式。189は混入遺物である。194は常滑甕で5～6型式。以上は概ね13世紀中～後半のものであろう。

195～201はS D87出土遺物である。195は砥石で花崗岩製の不定形なもの。南伊勢系土師器は伊藤II b～III a期にかけてのものであろう。

202～211はS Z35出土遺物である。211は古瀬戸灰釉の鉚皿で内面下半に刻みを入れる。212・213は釘である。212は頭部から屈折部までの間に木質が認められ、厚さ約3cmの板材を固定していたことが知られる。213は頭部を鍛打で折り曲げる。土器や古瀬戸などから、これらの遺物は13世紀後半～末に位置づけられよう。

(3) その他の遺物 (第30～31図)

214～260は包含層・表土等出土遺物。古墳時代のもので、大半がS K21～23の周辺で得られたものである。229は粘土を指頭で押し付けただけの不定形なミニチュアの鉢。245は須恵器甕の小片で、内面はナデ、外面に縦方向の縄文タタキが認められる。韓式系土器の可能性があろう。246は台付壺などの脚部か。249は志摩式製塩土器。254は凹石で両面を使用するほか、縁辺にも敲打痕が認められる。255は砥石でホルンフェルス製。256は曲刃鎌で、S H95に伴う可能性が高い。基部はほぼ直角に折り返す。257～260は釘で、中世のものか。257は細い釘状のもので、下半は断面形が円形、上半は方形となる。

4. F区の遺物

(1) 弥生・古墳時代の遺物 (第32～34図)

261～293はS K52出土土器で、弥生時代後期後葉から終末期のもの。台付甕は受口状口縁 (261～264)、く字口縁 (265～269) が中心となり、S字壺0類は出土していない。受口状口縁は、やや内湾

気味に立ち上がり、口縁部の外面に刺突文を施す。263は唯一口縁部が外反し、頭部との境界に細かい刻みをもつもの。270は焼成前穿孔のある甕で、底部外面のヘラケズリや尖底ぎみの形態など、北近畿の土器の特徴が認められる。277～284は高杯。有

稜高杯は、比較的直線的な柱状部をもち、脚部は裾に向かってわずかに内湾する。282～284はワイングラス形高杯。284は柱状部の刺突文に貝殻を用いている。285は手焙形土器で、胴部の二条尖帯の上に波状文を施す。壺には、内湾口縁壺(286)や長頸壺(287)のほか、無文で粗製のもの(289・290)がある。288は広口壺で、垂下する口縁端部に円形浮文を付す。

以上は高杯の一部にやや新しいもの(282)を含むが、概ね上村編年のV-5～VI-1期に相当し、濃尾平野の編年では山中Ⅱ式の新相から廻間Ⅰ式の古相に併行する土器群であろう。

294はS K 53出土の凹基式石甌でサスカイト製。295～299はS K 67出土土器である。295は器台で、脚部は中空でないもの。296～299はS字甕B類である。器台・S字甕とも、廻間Ⅱ式に併行するものであろう。

300～309はS H 44出土土器。宇田型甕は口縁部上端に面を持ち、内面の屈曲が顕著となる。305は長胴の伊勢型甕である。内面および外面上半は細密なハケ原体を用いるが、体部下半のハケメは粗いものが使われており、宇田型甕との関係において興味深い個体である。306は大型鉢である。307～309は須恵器杯で、このうち307はS H 44とS H 45の切り合いを確認中に出土したもので、ひとまずS H 44出土土器に含めた。307はMT 15型式かそれよりややさかのぼる可能性がある。308はMT 15型式からTK 10型式、309はTK 10型式からTK 43型式に相当する。

310はS H 49、311・312はS H 54、313～315はS H 50出土土器で概ね6世紀中葉のもの。

316～325はS H 45出土土器で、土器器は上村Ⅳ期に相当する。320は手捏ねの鉢で厚手のもの。324の甕は内外面ともナデ調整である。325は緑泥片岩製の砥石で、南勢地域からの搬入品であろう。同様

の例は北勢地域でも認められ、古墳時代の砥石の生産・流通を知る上で重要な遺物である。主面・側面の全てに使用痕が認められ、うち1面はV字溝状の使用痕が顕著である。

(2) 古代～中世の遺物(第35図)

326～328はS D 43出土土器である。327の須恵器杯は奈良時代のもの。

329～331はS K 61、332はS K 62、333はS K 63出土土器である。山茶碗は尾張5～6型式、13世紀前半に位置づけられよう。

334はS K 71出土土器で鉄釘か。335はS D 46より出土した土器器鍋で15世紀のもの。

337～344はS D 56出土土器。337は土器器皿で非常に歪みの大きいもの。338は土器器鍋で伊藤Ⅳa期。342は常滑鉢で、内面は使用により磨耗する。344は信楽播鉢で、4条1単位の摺目が認められる。これらは15世紀後半のものであろう。

345～348はS D 58出土土器。345は常滑甕で10型式。346は青磁碗で見込みに草花をスタンプする。347は白磁碗。348は南伊勢系の羽釜。これらは概ね15世紀後半に位置づけられよう。

349～360はビット出土土器で、鎌倉から室町時代の遺物が得られている。

(3) その他の遺物(第36図)

361～371は当地区出土の弥生土器で、参考資料として示す。今回の調査では弥生中期の明確な遺構は確認できなかったが、遺物は一定量出土しており、削平された遺構の存在を示唆する。369は完形に近い字状口縁の甕で、底部には焼成後穿孔が認められる。

372～410は包含層・表土等の遺物である。383はS字甕B類。384は布留系の甕で、肩部には継続的な横ハケがみられる。390は緑釉陶器で碗のミニチュア品か。

5. G区の遺物

(1) 弥生時代～古代の遺物(第37図)

411～415はs11Pit1出土の弥生土器である。411～413は後期後葉の高杯。414・415は直口壺か。

416～427は古代の土器である。416～419はS H

125出土土器で、8世紀代のもの。

420・421はS K 118出土土器で、421の内面は絞り目が顕著である。

423～428はS D 156出土で、425～427は球胴形

の裏である。428は鍋で内面をヘラケズりする。

(2) 中・近世の遺物 (第37～41回)

429・430はS K128出土遺物で13世紀後半か。

431・432はS K131出土遺物である。431は瀬戸美濃灰軸折縁皿で大窯3期。432は浅手の土師器鍋で伊藤IVc期にそれぞれ比定できよう。16世紀後半のもの。

434・435はS K136出土遺物で、434の羽釜は14世紀代、435は山茶碗で尾張7型式のもの。

438～441はS K140出土遺物で、441の土師器鍋などから15世紀後半に位置づけられよう。

442～444はS K144出土遺物である。442は包丁である。柄には僅かに木質が認められる。刃先および背は欠損しており、形態の復元は困難だが、刃と背が平行する葉切包丁であろうか。443はやや柄の長い刃物で、柄には僅かに木質が認められる。444は灰軸端反皿で大窯2期。高台は削り出している。

449～461はS K149出土遺物である。図示した遺物は16世紀代のものが中心であるが、17世紀以降の遺物も若干含まれており、やや時期幅がある。449は中北勢系の土師器羽釜で、口縁部は直立気味に立ち上がり、羽は低く断面三角形を呈する。

450～454は瀬戸美濃製品である。450は灰軸皿、451は灰軸丸椀、452は灰軸小杯で、いずれも大窯期のものであろう。453・454は摺鉢。453は鉄軸が厚く掛かる。

455～461は常滑製品で、甕や片口鉢のほか、近世の赤物に連なる日常雑器類が出土している。455は受口状の鉢。456の甕、457の片口鉢はともに10型式で焼成は良好である。458は平底の鉢で内面にヘラで浅い沈線をつけている。459は三足の火鉢で内面に煤が付着する。460は短頸の甕で、口縁部は水平な面となる。461は鉢の底部である。

462～470はS K145出土遺物である。463～466は中北勢系の羽釜で、口縁は短く立ち上がり、断面三角形の羽が付される。底部のケズリは内面に僅かにみられる程度で、指頭圧痕がよく残り、器壁は厚い。467は瀬戸美濃天目茶碗で、底部はうすい錯軸が掛かる。大窯後半期のものであろう。468・469は常滑である。468の鉢は口縁部が丸みを帯び、焼成は軟質のもの。469は10～11型式の甕。470は軒

平瓦で、凸面の中央に横棧(引っ掛け)を付す、いわゆる掛け瓦である。瓦当文様は欠損のため判然としない。瓦当は顎貼り付け技法で成形する。凹・凸面はナデで丁寧に調整され、外面の煙はしない。横棧の貼り付け部には接合のための刻みを入れている。

471～483はS K151出土遺物である。土師器皿・山茶碗は14世紀代であるが、481・482の天目茶碗は大窯期のものであろう。481は高台周辺に薄い錯軸が掛かる。

484～487はS D112出土遺物である。山茶碗は尾張7型式のもの。487は片口鉢。

488はS D110出土の土師器鍋で15世紀末。

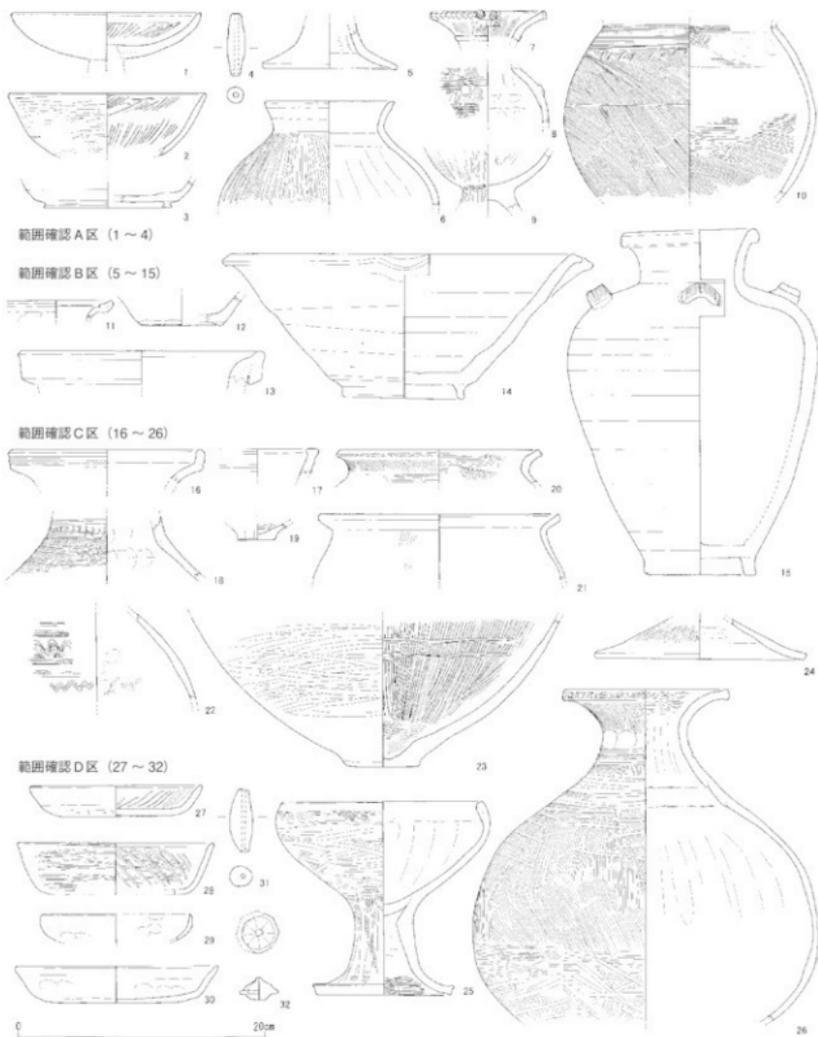
490～493はS D121出土遺物である。492は瀬戸美濃鉄軸香炉または鉢で、517とはほぼ同様のもの。493は常滑鉢で、焼成は悪く色調は橙色を呈する。

495～501はS D126出土遺物。495～499は同形同大の土師器皿である。このうち、495～497はいずれも口縁端部に油煙が付着しており、灯明皿として用いられたことが知られる。500は瀬戸美濃天目茶碗で高台は露胎。大窯4期以降のものであろう。501は灰軸大皿。

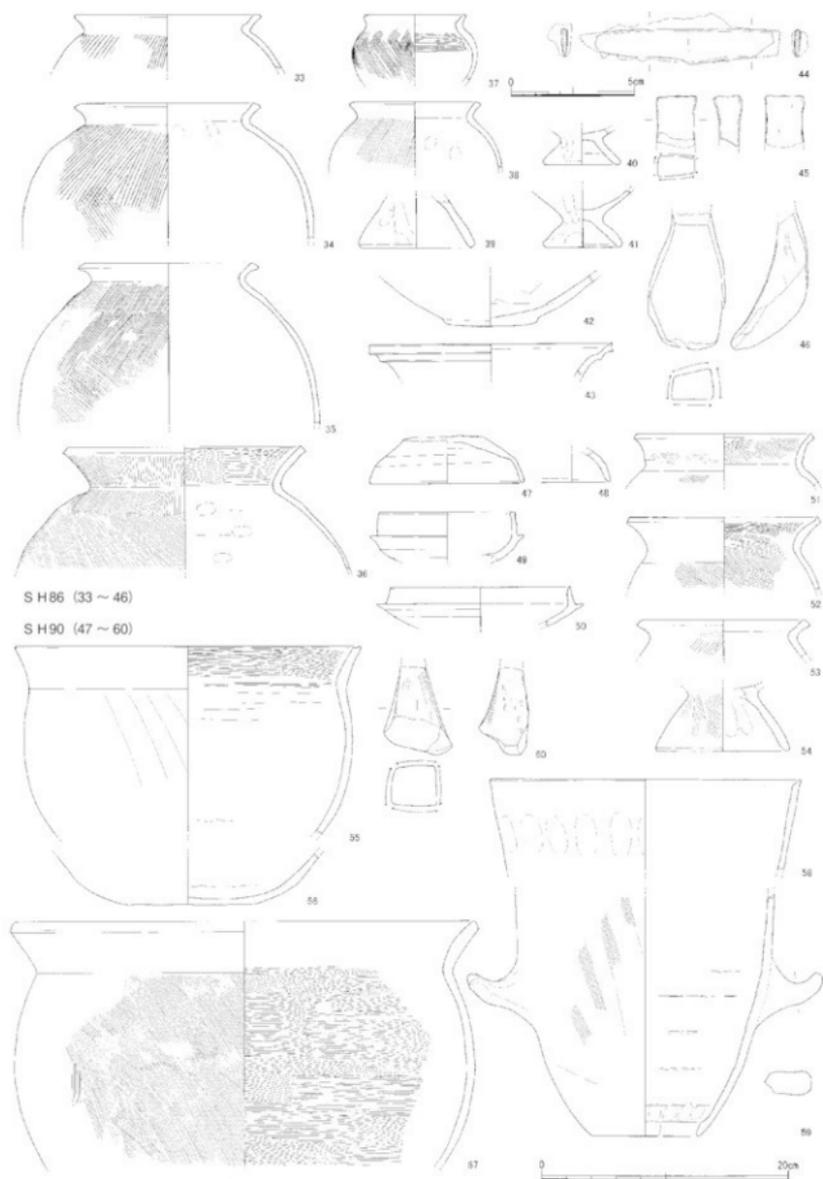
502はS D142出土の羽釜である。羽がやや下方に傾斜し、口縁部の肥厚が突帯状を呈する。

503～545はS D141出土遺物で、伊藤IVa期の南伊勢系土師器鍋(527～545)や羽釜(506～516)が多く得られている。505は茶釜で肩部に焼成前穿孔する。511は焼成後穿孔。527・528は小型の鍋で、口縁部端部は丸く収める。517～519は瀬戸美濃産で、517は鉄軸香炉または鉢。520～523は常滑製品で、520は10型式の片口鉢。521は三足の鉢である。523は広口壺で、肩部には「大日・大月」のスタンブ文がある。524は瓦質の火鉢で、内面は強く被熱している。525は丸瓦で、凹凸面ともにナデ調整である。526は平瓦で、凸面は格子目タタキ、凹面は布目が認められる。525・526ともに煙はしない。焼成はよく堅緻である。

546～561はS D143出土遺物である。548～554は中北勢系の土師器羽釜で、口縁部が短く直立し、端部は段または面を持つ。内外とも調整はナデのうち、羽付近までケズリを施すが、器壁は厚いままである。羽は断面が三角形となり、やや下向きに傾く



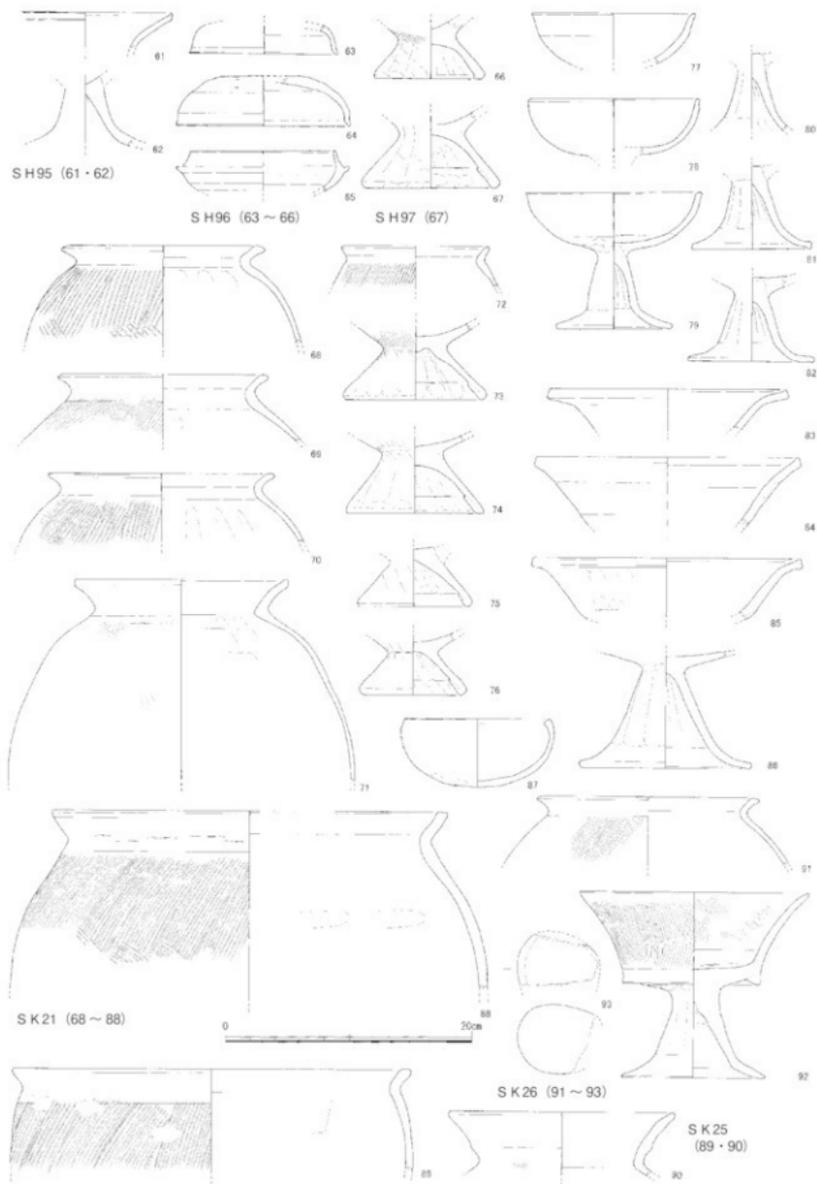
第24図 出土遺物実測図1 (1 : 4)

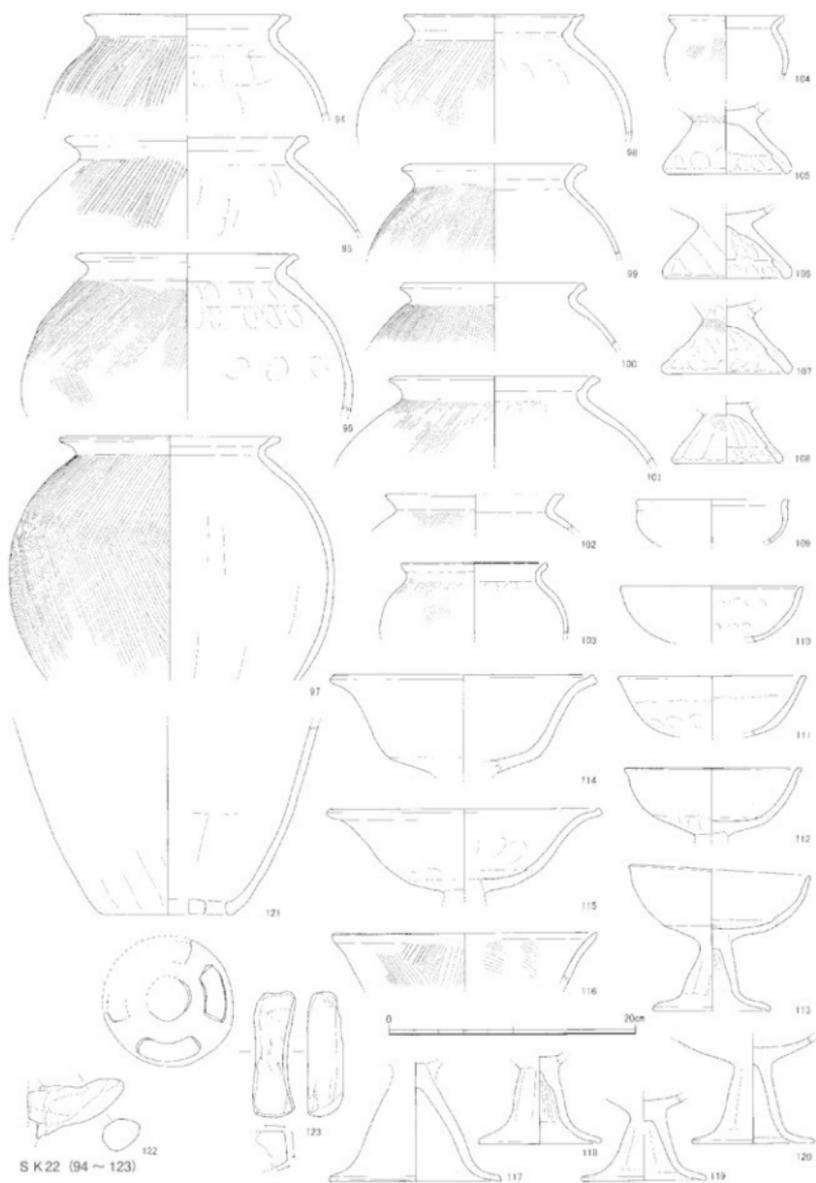


S H86 (33 ~ 46)

S H90 (47 ~ 60)

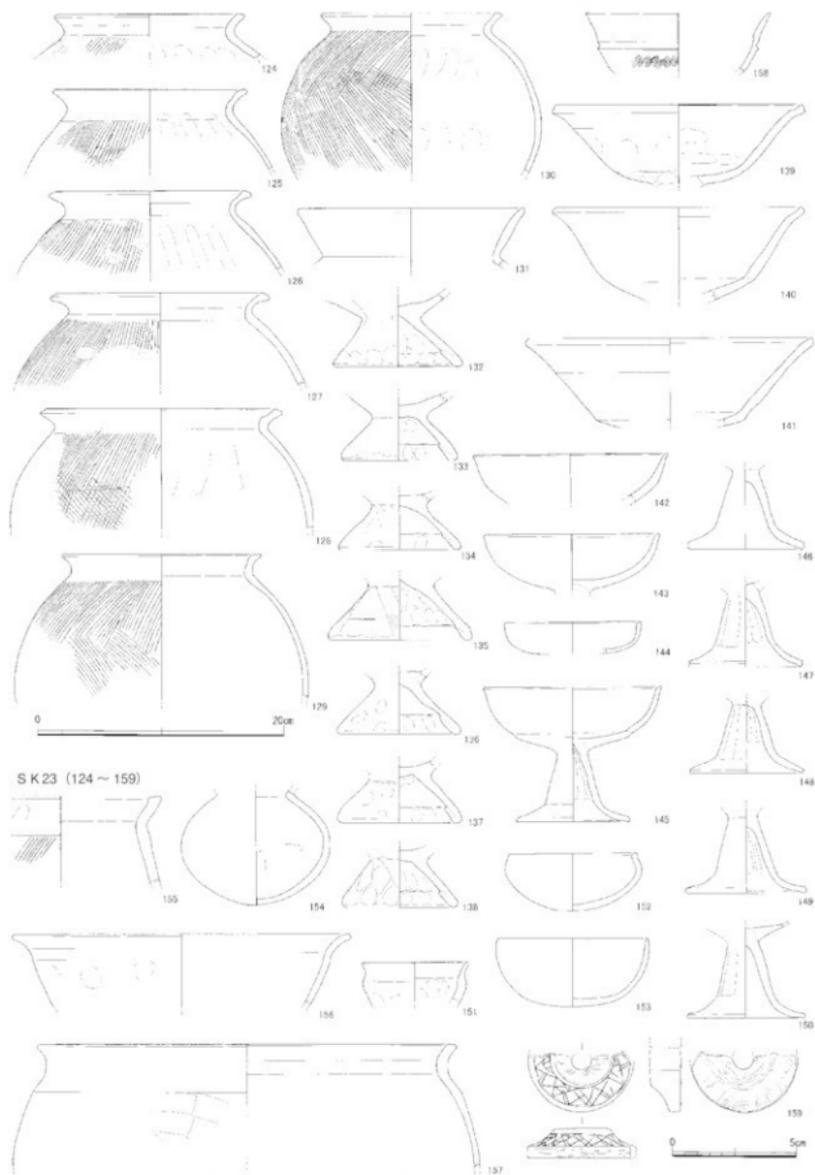
第25図 出土遺物実測図2 (44は1:2、他は1:4)

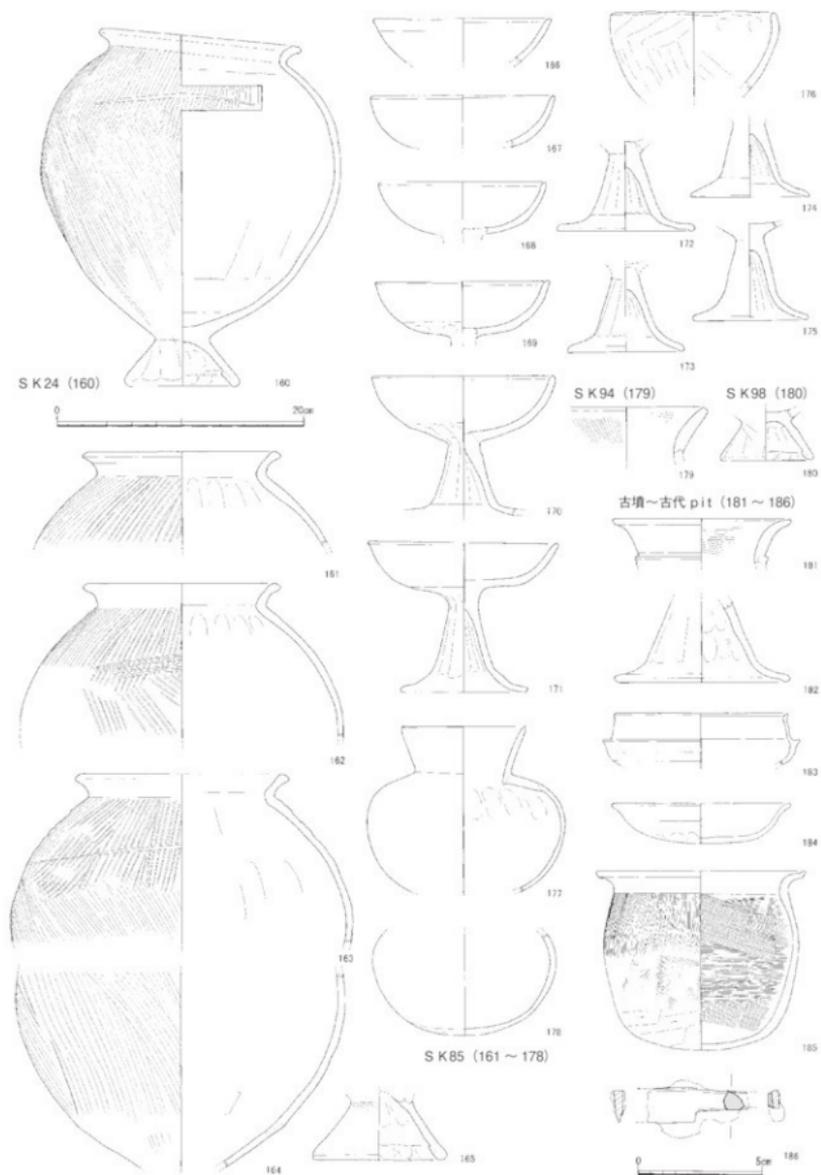




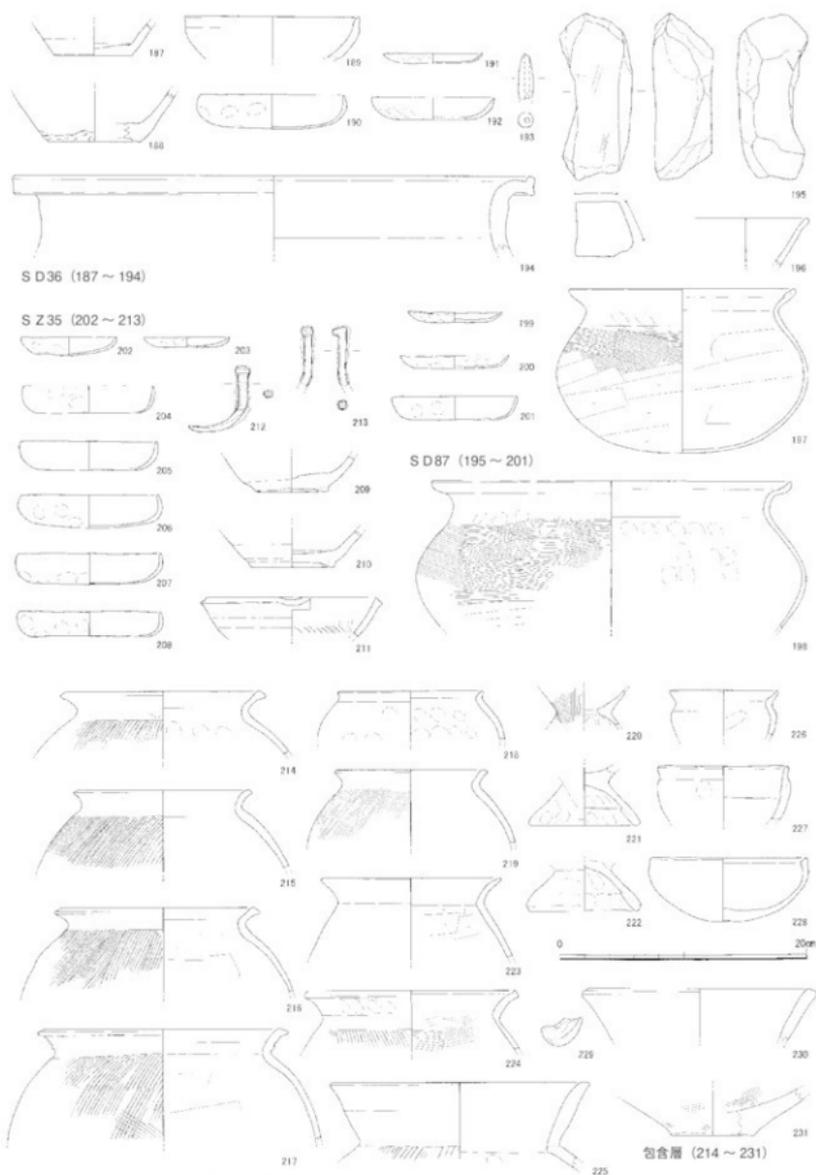
S K 22 (94 ~ 123)

第27图 出土遗物实测图4 (1 : 4)

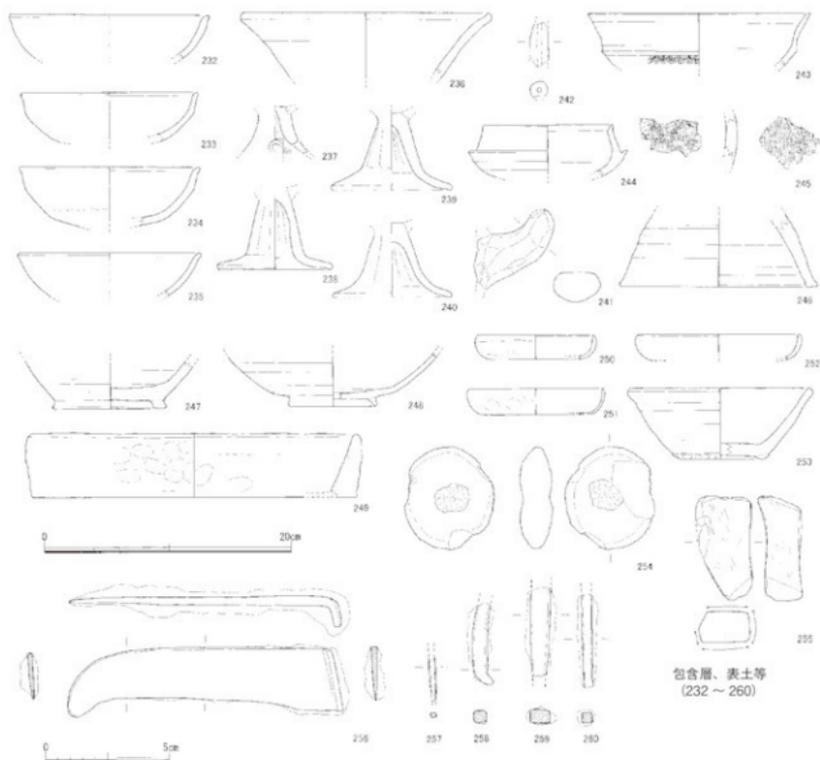




第29図 出土遺物実測図6 (186は1:2、他は1:4)



第30図 出土遺物実測図7 (1 : 4)



第31図 出土遺物実測図8 (256～260は1：2、他は1：4)

ものや、549のように低く潰れたものがある。これらは中世末期の羽釜の良好な例で、S K145の羽釜463～466とほぼ同じか、こちらがやや新しく位置づけられよう。

555～558は瀬戸美濃製品。555は天目茶碗、557・558は鉄軸壺または徳利。556は灰釉丸皿で、高台はごく浅く削り出す。大窯3期。559～561は常滑製品である。559は広口壺。560は甕で10～11型式。561は片口鉢で、焼成は不良。内面は使用による磨耗が顕著である。これらは16世紀後半を中心とする時期のものであろう。

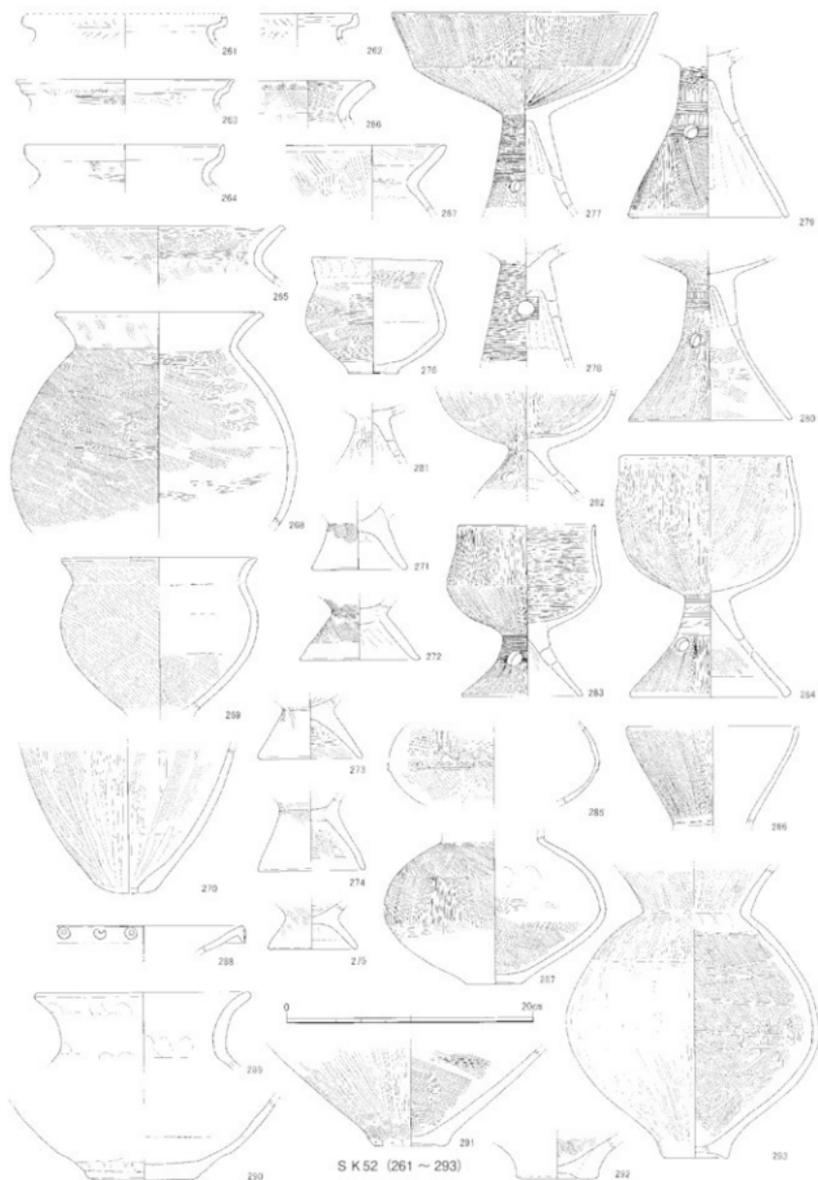
562～564はS Z133出土遺物である。564は中北

勢系の羽釜で低く潰れた羽をもつ。

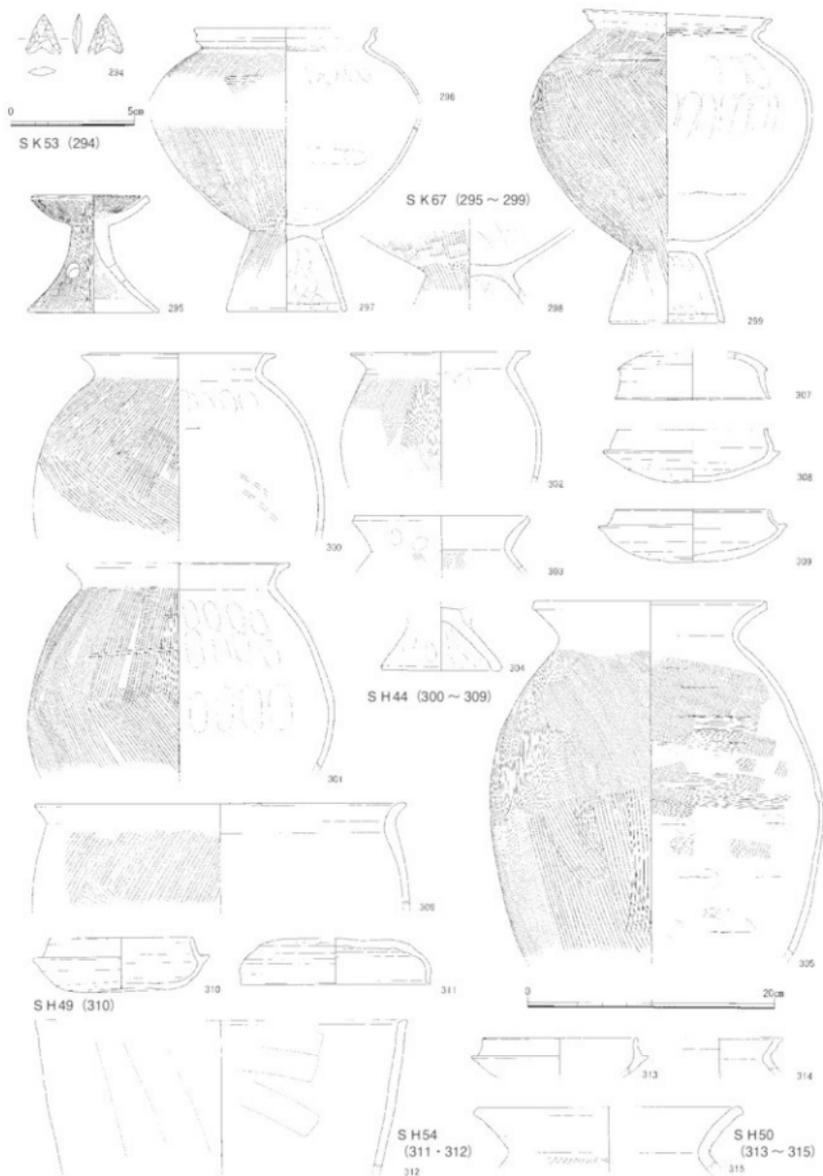
565～570はピット出土遺物である。568は瀬戸美濃鉄軸水滴。570は山茶碗で、底部にひらがな様の墨書がみられるが判読できない。

(3) その他の遺物 (第41～42図)

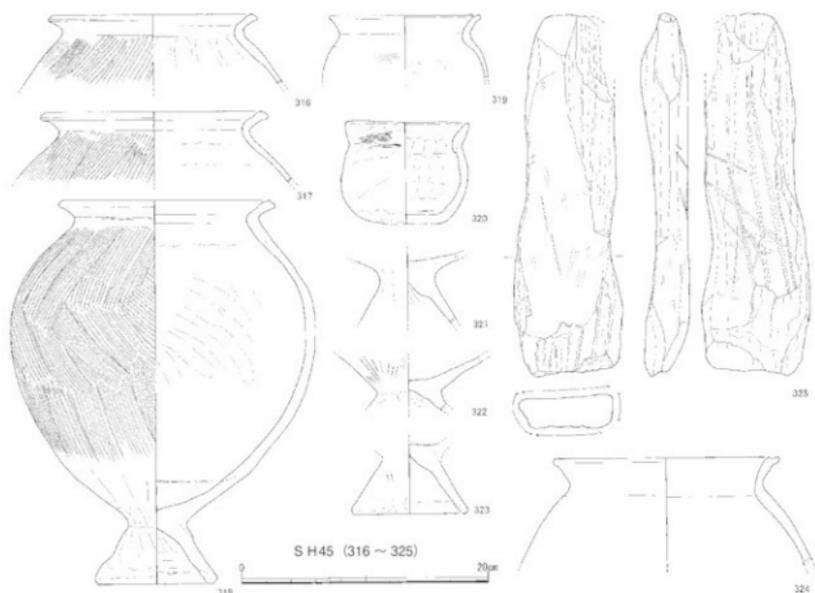
571～575は中世遺構に混入していたもので、参考を示す。571は縄文土器片であるが、風化により文様は判別できない。573はS字壺A類で、口縁部外面に押しきの刺突文、肩部にはヨコハケを有する。575はサヌカイト製のスクレイパーである。厚手で刃部形成の意図が弱いことから、石核の2次利用かもしれない。表面の風化が著しい。574は土師器の



第32図 出土遺物実測図9 (1 : 4)



第33図 出土遺物実測図10 (294は1:2、他は1:4)



第34図 出土遺物実測図11 (1 : 4)

小型壺で、器壁は分厚いもの。底部は充填され上げ底となる。

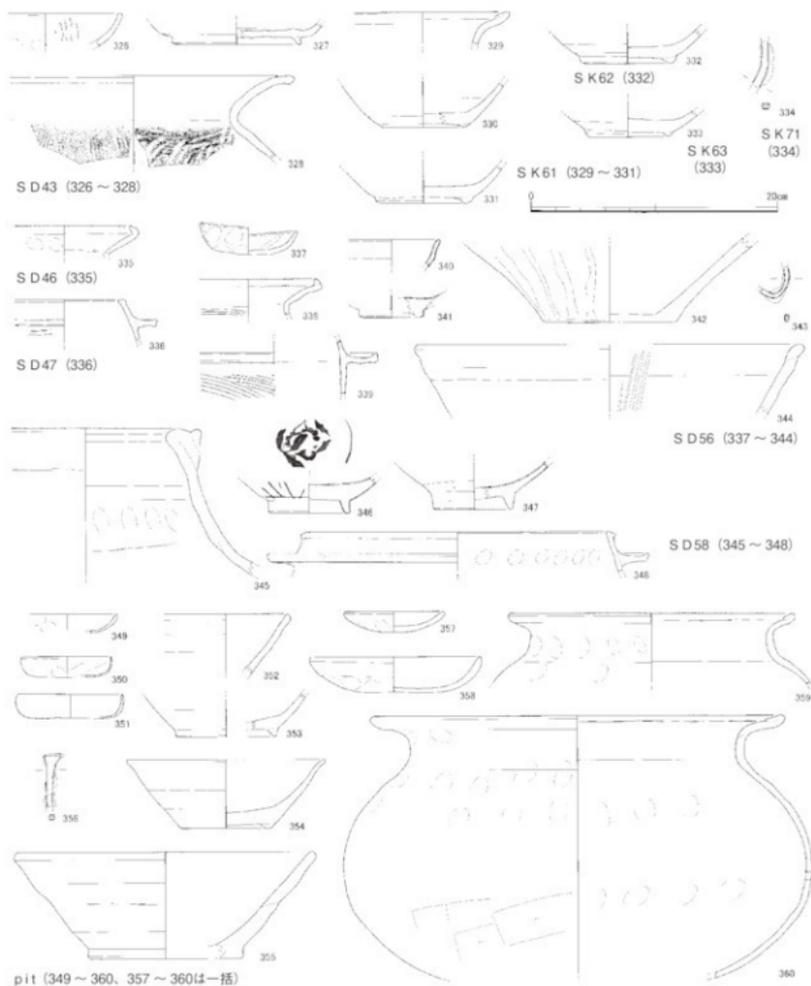
576～615は包含層・排土等の遺物である。576～583は弥生時代から古代のもの。577は土師器の鉢または無頭壺で、口縁部のみを強くヨコナデする。584は須恵器で甕と杯蓋が溶着している。杯蓋はかえりを有するもので7世紀後半に位置づけられる。

586～615は中・近世の遺物である。596は16世紀の中北勢系の羽釜で、羽の貼り付け後・焼成前に2孔を穿孔する。597～601は山茶碗で、尾張3型式以降の各種がある。

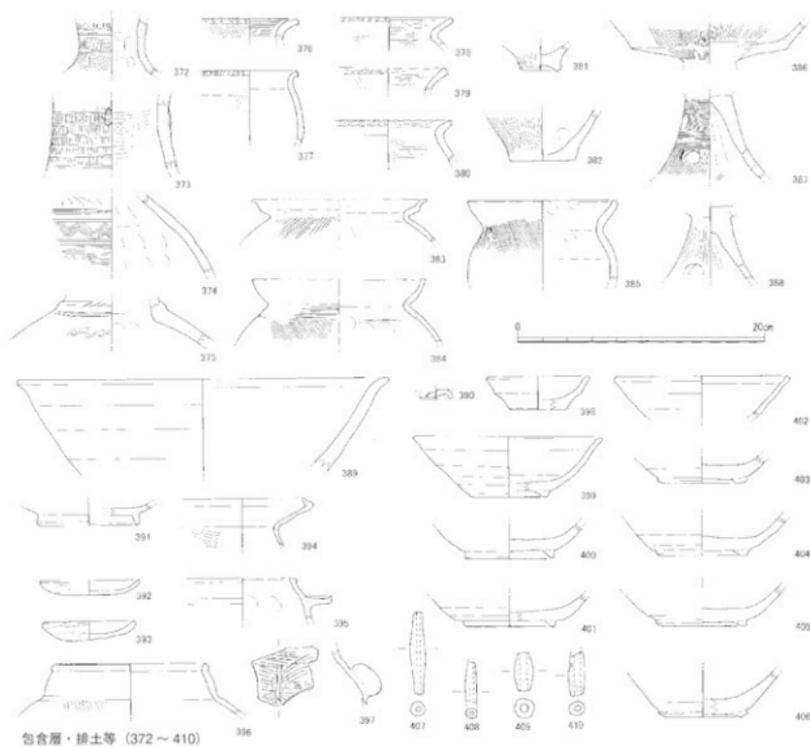
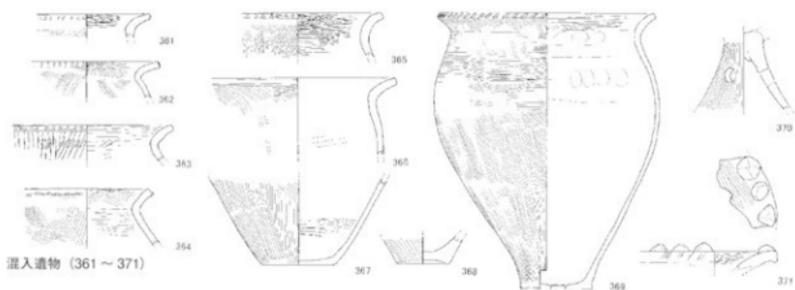
602～609は瀬戸美濃製品。602は灰釉丸皿で、高台は貼り付け高台。底面には輪トチンの痕が残る。605は灰釉菊皿で、内面には型作り成形の布目圧痕が残っている。606は志野鉄絵丸皿で、見込みには3箇所のハリ支え、底部には輪トチンの痕が残る。607は灰釉鉢である。底部外面はケズリ、底面には糸切り痕が残る。608は鉢で、全面に長石釉がかかり、

高台畳付も施される。内面には鉄絵が僅かにみられる。近世のものか。609は細頸の鉄釉徳利。

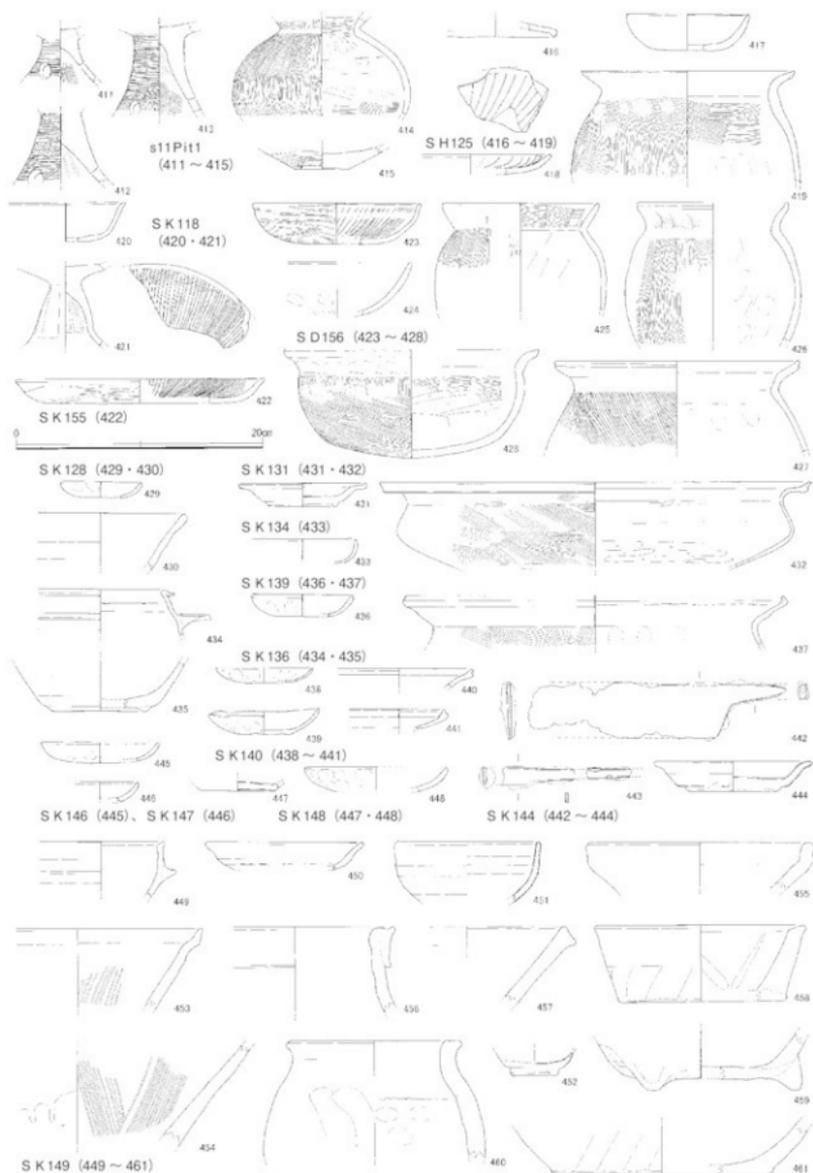
611～615は常滑製品である。611は11～12型式の広口壺で、口縁部内面が突出する。612は三足の付く鉢で、521などと同様の形態のものだが、全体を鉄釉掛けとする。信楽製品かもしれない。613～615は片口鉢で、内面は使用により磨耗する。615は口縁端部が丸みをもつ。614はよく焼き締まるが、613・615は軟質焼成のもので、中世末期に位置づけられるものであろう。



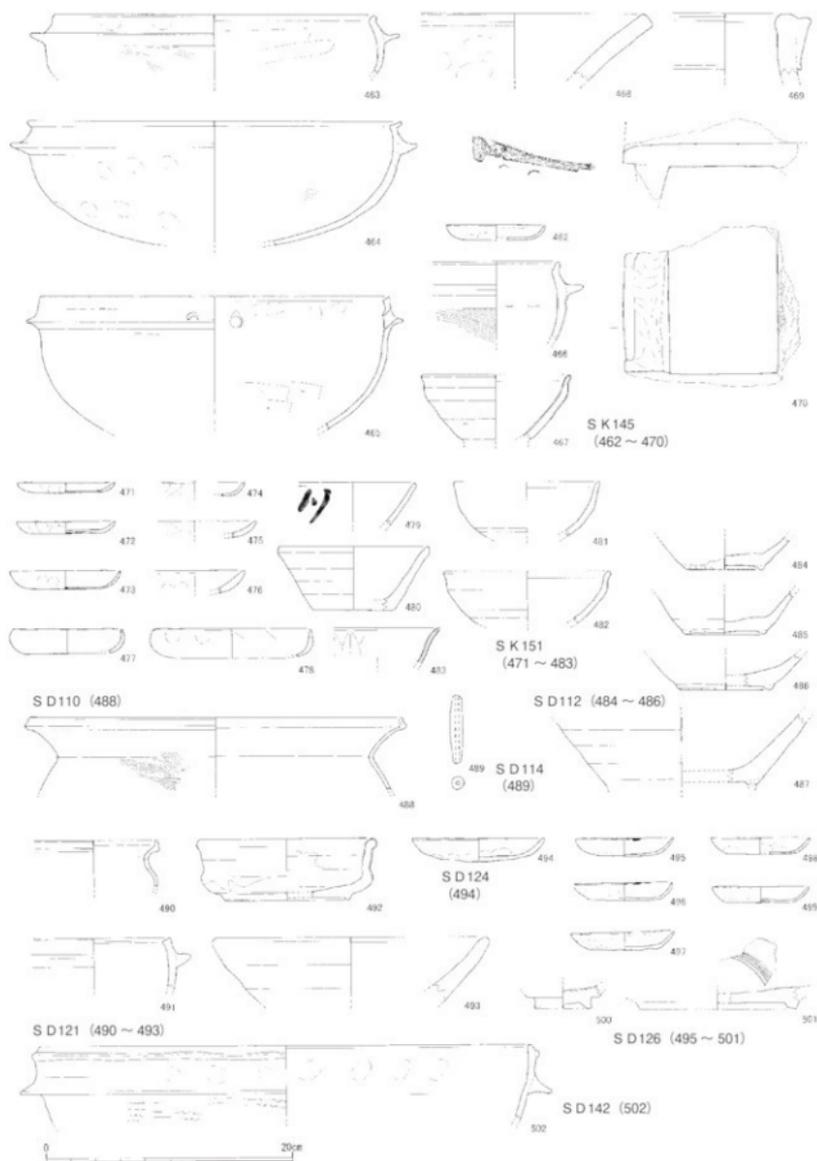
第35図 出土遺物実測図12 (1 : 4)



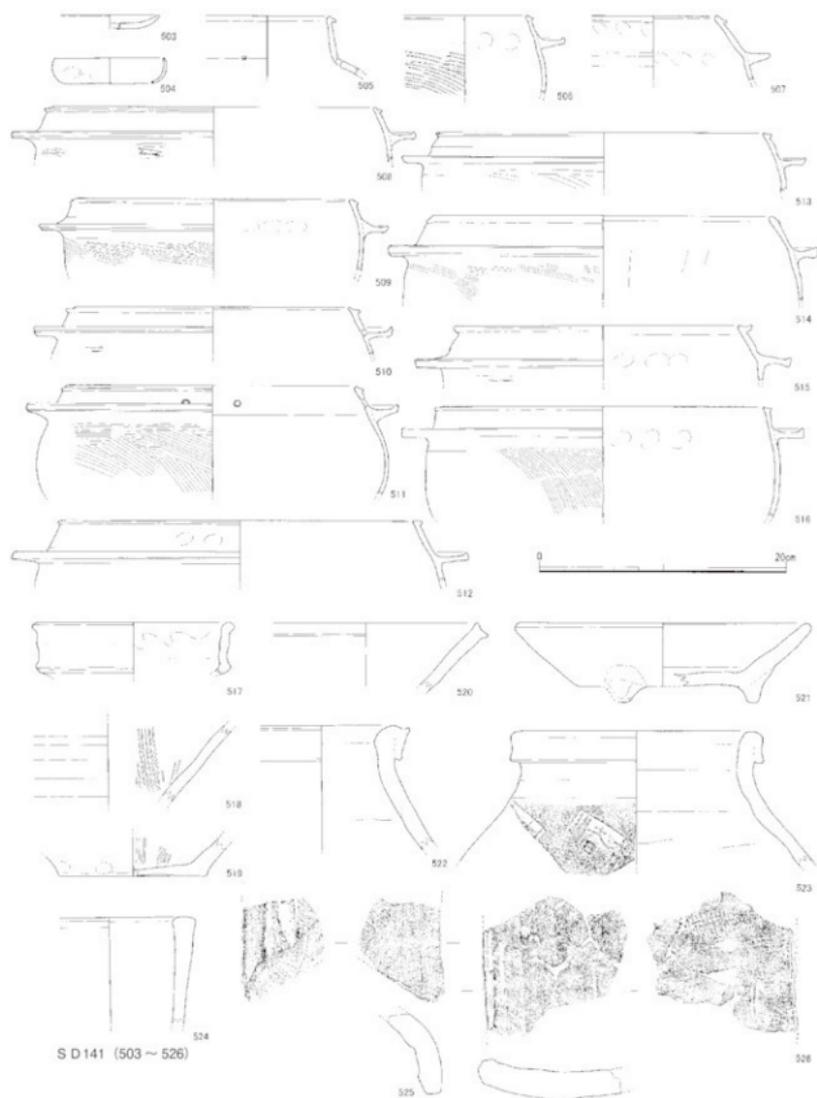
第36図 出土遺物実測図13 (1 : 4)



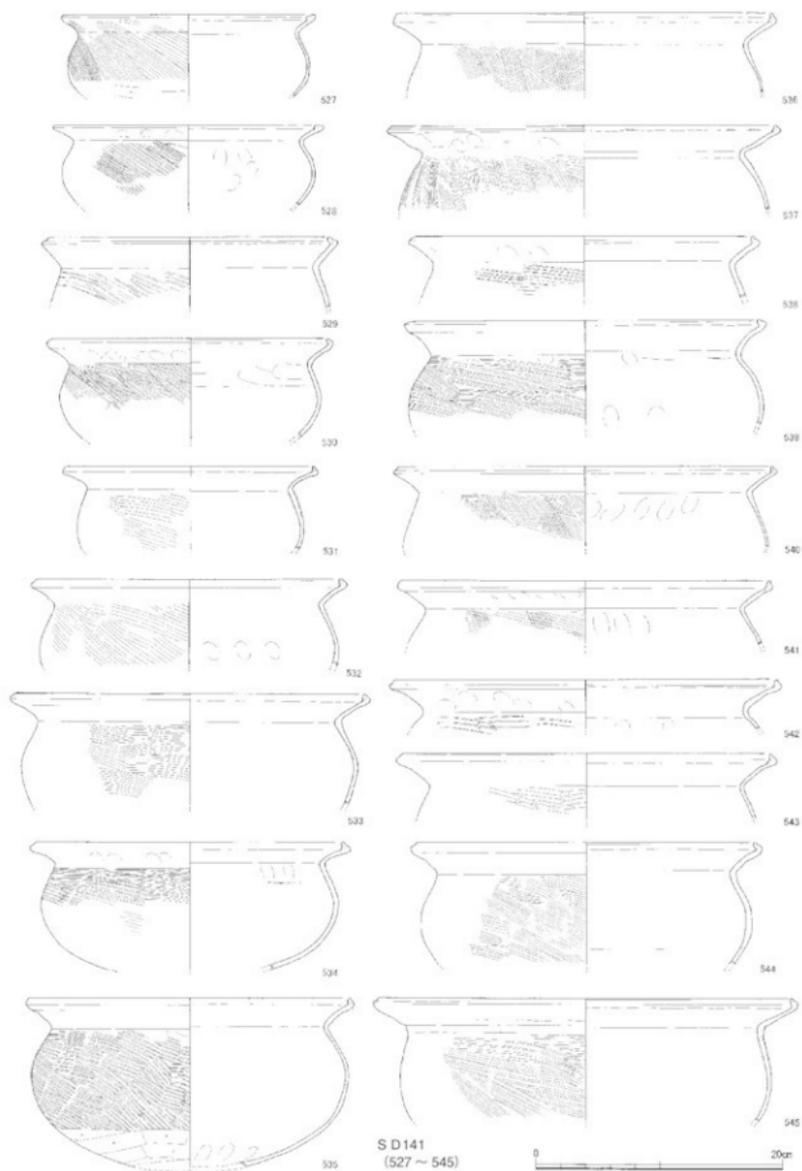
第37图 出土物实测图14 (1:4)



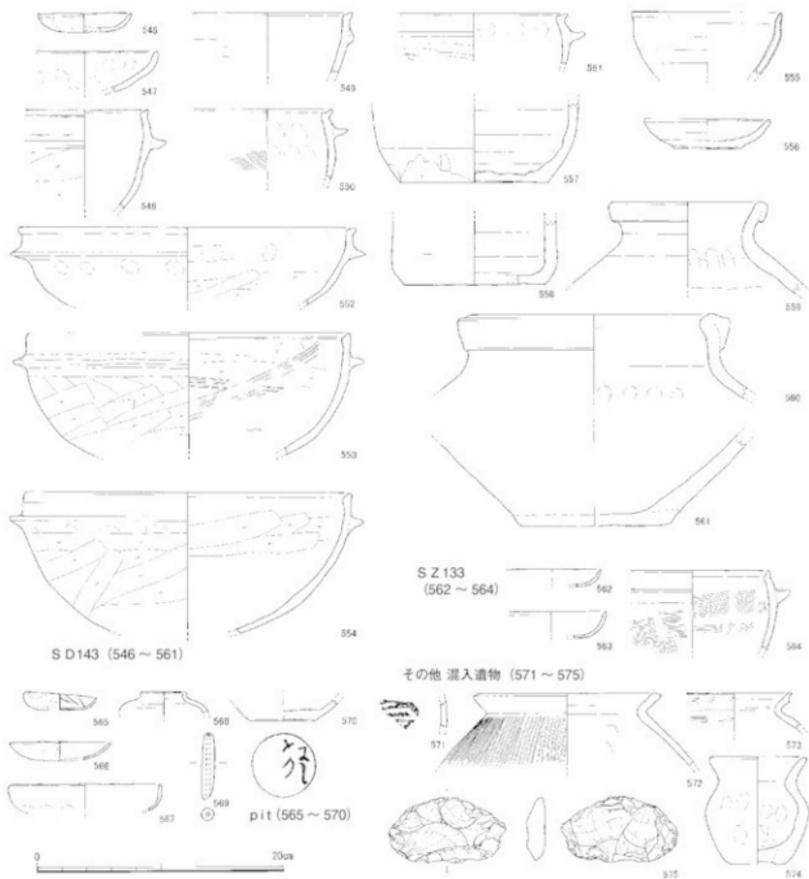
第38图 出土遺物実測図15 (1 : 4)



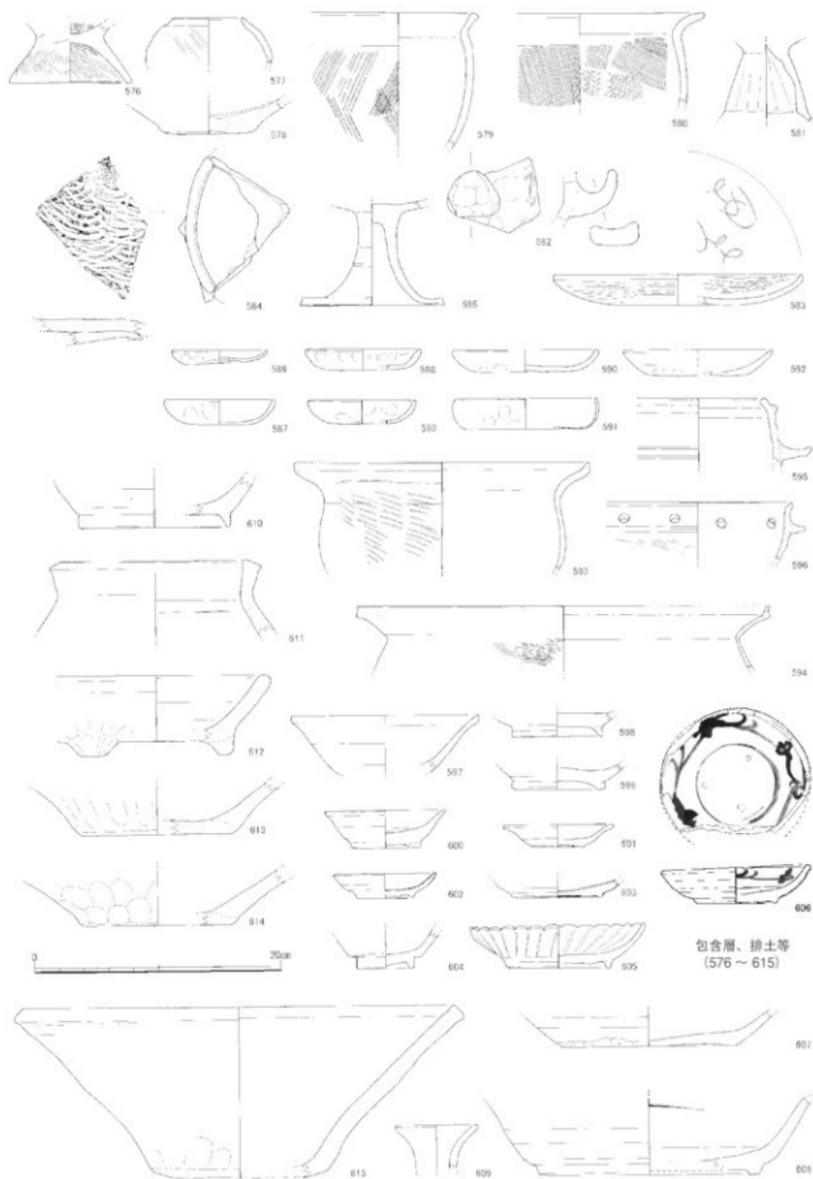
第39图 出土遺物実測図16 (1 : 4)



第40图 出土文物实测图17 (1:4)



第41図 出土遺物実測図18 (1 : 4)



第42図 出土遺物実測図19 (1 : 4)

V 山室遺跡出土人骨の鑑定

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山室遺跡（三重県津市牧町字山室に所在）は、旧久居市街地の立地する丘陵と雲出川に挟まれた沖積地に位置する弥生時代から近世の遺跡である。今回の発掘調査では、鉢を転用した蓋がなされた古瀬戸の四耳壺（第24図15）が出土し、その内部に火葬された骨が埋納されていた。本分析調査では、蔵骨器より出土した骨について部位等を明らかにし、埋葬者に関する情報を得ることとした。

1. 試料

試料は、範囲確認調査坑B43 第7層から出土した蔵骨器内部に納められていた人骨である。土壌ごと取り上げられており、9試料に分割され、1～9までの番号が付されている。この内、番号8・9は蔵骨器最下層から採取され、骨を中心としている。それ以外の試料は土壌中に骨片が混じる状況である。

2. 分析方法

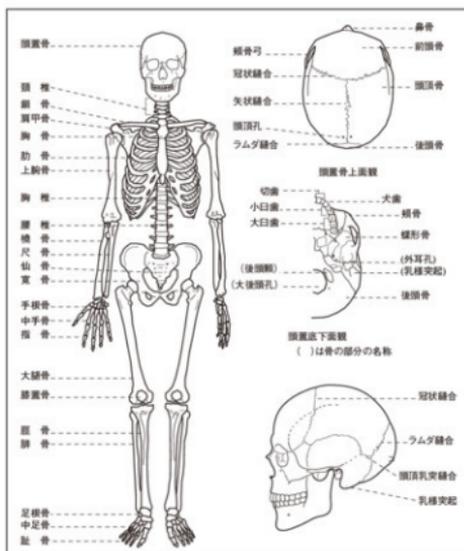
番号8・9は骨を中心とした試料であるため、そのままの状態を観察した。これら2試料を除く試料は、土壌中に骨片が固結した状態であったため、0.5mmの篩を用いて水洗し、その後自然乾燥を行い、骨片を拾い出した。その後、全ての試料について骨片を肉眼で観察し、種類および部位を特定する。

3. 結果

同定結果を第1表に示す。なお、骨格各部の名称は、第43図に示す。

洗い出しを行った試料では、番号1では部位不明破片が1点含まれる程度であり、番号7では骨片が検出されない。番号2～6および番号8・9は、部位を明らかにできた骨片がみられた。

確認された部位は、前頭骨、左頭頂骨、左右側頭骨、脳頭蓋片、右頬骨、右上顎骨、左右下顎骨、下顎歯牙、歯牙片、頭蓋骨片、第1頸椎の可能性がある破片、頸椎、胸椎、椎骨、肋骨、左肩甲骨、上腕骨、橈骨、右第1



第43図 人体骨格各部の名称

中手骨、右第3中手骨、中手骨、手根骨（左月状骨・左豆状骨・右小菱形骨・左右舟状骨）、第1指骨（末節骨）、指骨（基節骨・中節骨）、寛骨の可能性のある破片、大腿骨、大腿骨/脛骨、脛骨の可能性のある破片、足根骨（舟状骨）、第1中足骨、右第1趾骨（末節骨）、趾骨（基節骨・中節骨）、肋骨/四肢骨、上腕骨/大腿骨、四肢骨、中手骨/中足骨、指趾骨（基節骨・基節骨/中節骨）などである。

4. 考 察

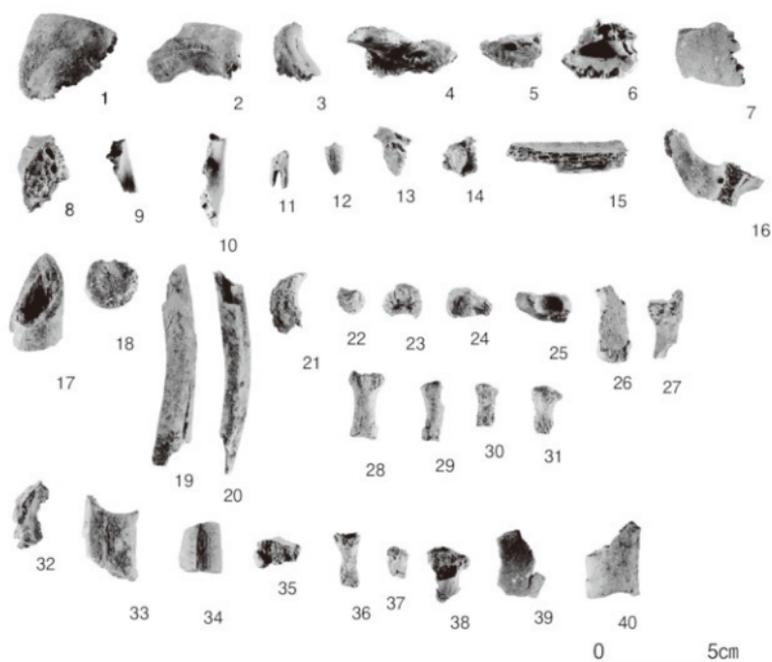
本人骨は、いずれも白色を呈し、焼骨の特徴を示す。馬場ほか（1986）によると、人骨を焼いた際、600℃以下ではほとんど変化がなく、800℃付近では灰白色になり、収縮・硬化が見られ、歯のエナメル質が崩壊し歯冠が失われる等、最も激しく変化するとされている。これより、本人骨は歯牙のエナメル質がほとんど残存しておらず、骨自体が変形・収縮をしていることから、800℃以上の高温で焼かれたと考えられる。

ところで最下層から採取された番号8・9は、頭蓋、上肢、下肢など様々な部位が混在した状況である。このことから、部位に関係なく臓器内に骨を納めたことが推測される。さらに骨を納める際、上腕骨・大腿骨・脛骨など大型で骨体も厚い部位も含めて長い骨が確認されないことから、大型の骨はある程度大きさに砕いた可能性もある。この点に関しては、今後事例を集めて検討していきたい。また、植崎（2007）によると、通常の遺体をそのまま火葬した場合、横に曲がった亀裂や縦に不規則な亀裂が生じ、歪みや捻れが生じるが、白骨化させた骨を火葬すると歪みや捻れがないと述べている。本人骨は、細片化した骨が多いため断定できないが、横に曲がった亀裂や縦に不規則な亀裂が少ないように感じる。さらに洗い出しを行った土壌中に炭化物がほとんど含まれていないことから、少なくとも棺ごと火葬されたとは考えにくい。以上のことから、本人骨は再葬されており、白骨化させた骨を火葬した可能性がある。

一方、出土した人骨は、火葬による変形・収縮を考慮しても、橈骨頭が大きく頭丈であることから、男性の可能性がある。年齢は、頭骨にみられる縫合の外側が閉じておらず、内側の一部が閉じている状況が確認されることから、熟年（40～59歳程度）以降と推定される。また、椎骨に加齢に伴って生じる骨増殖が見られることから、老齢（60歳程度）に達していた可能性もある。

引用文献

- 馬場悠男・茂原信生・阿部修二・江藤盛治「根古屋遺跡出土の人骨・動物骨」『雲山根古屋遺跡の研究 - 福島県雲山町根古屋における再葬墓群-』福島県雲山町教育委員会、1986年、pp93-113
植崎修一郎「火葬人骨と考古学」『墓と葬送の中世』高志書院、2007年、pp107-126



- | | | |
|--------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 1. ヒト左頭頂骨 (No. 8) | 2. ヒト前頭骨右眼窩上縁 (No. 9) | 3. ヒト右頬骨 (No. 9) |
| 4. ヒト左側頭骨 (No. 6) | 5. ヒト右側頭骨 (No. 9) | 6. ヒト右側頭骨 (No. 4) |
| 7. ヒト脳頭蓋 (No. 9) | 8. ヒト右上顎骨 (No. 9) | 9. ヒト右下顎骨 (No. 4) |
| 10. ヒト左下顎骨 (No. 4) | 11. ヒト下顎歯牙 (No. 4) | 12. ヒト歯根 (No. 9) |
| 13. ヒト第1頸椎? (No. 9) | 14. ヒト椎骨椎体 (No. 8) | 15. ヒト肋骨 (No. 8) |
| 16. ヒト左肩甲骨 (No. 8) | 17. ヒト上腕骨 (No. 9) | 18. ヒト橈骨頭 (No. 8) |
| 19. ヒト橈骨 (No. 8) | 20. ヒト尺骨 (No. 8) | 21. ヒト尺骨? (No. 8) |
| 22. ヒト左手根骨 (豆状骨) (No. 8) | 23. ヒト左手根骨 (月状骨) (No. 8) | 24. ヒト左手根骨 (舟状骨) (No. 9) |
| 25. ヒト右手根骨 (舟状骨) (No. 4) | 26. ヒト右第1中手骨 (No. 8) | 27. ヒト右第3中手骨 (No. 9) |
| 28. ヒト指骨 (基節骨) (No. 8) | 29. ヒト指骨 (中節骨) (No. 6) | 30. ヒト指骨 (中節骨) (No. 8) |
| 31. ヒト指骨 (末節骨) (No. 8) | 32. ヒト寛骨? (No. 8) | 33. ヒト大腿骨 (No. 9) |
| 34. ヒト脛骨? (No. 6) | 35. ヒト足根骨 (舟状骨) (No. 6) | 36. ヒト趾骨 (基節骨) (No. 8) |
| 37. ヒト趾骨 (中節骨) (No. 8) | 38. ヒト右第1趾骨 (末節骨) (No. 5) | 39. ヒト上腕骨/大腿骨骨頭 (No. 6) |
| 40. ヒト四肢骨 (No. 9) | | |

第44回 出土人骨

第1表 人骨同定結果(1)

試料名	箱番号	分析前重量	種類	部位	左	右	部分	数量	重量	備考								
B43	第4回第7層	1	58.86g	ヒト 遺物 残渣	不明		破片	1	1.22g									
							破片	1	3.09g									
B43	第4回第7層	2	138.16g	ヒト			脳頭蓋骨	破片	2	1.30g								
							歯牙	歯冠	1	0.10g								
								歯根	3	0.57g								
							頭蓋骨	破片	3	2.83g								
							椎骨	破片	1	0.20g								
							足根骨(舟状骨)	破片	1	1.36g								
							中手骨/中足骨?	遠位端?	1	0.39g								
							四肢骨	破片	1	0.45g								
							肋骨/四肢骨	破片	6	2.11g								
							指趾骨(基節骨)	近位端	1	0.28g								
							不明	破片		16.65g								
							遺物	破片	1	0.32g								
							塵		1	0.10g								
							残渣			14.08g								
B43	第4回第7層	3	91.73g	ヒト			脳頭蓋骨	破片	2	0.96g								
							頭蓋骨	破片	2	1.45g								
							肋骨/四肢骨	破片	6	2.02g								
							指趾骨(基節骨/中節骨)	近位端欠	1	0.45g								
							不明	破片		30.35g								
							残渣			12.35g								
B43	第4回第7層	4	290.78g	ヒト			無頭骨	右	破片	1	5.39g							
							脳頭蓋骨		破片	9	6.23g							
							下顎骨	左	破片	1	3.07g							
								右	破片	1	1.03g							
							下顎骨歯牙		歯根	1	0.68g							
							歯牙		歯冠	1	0.01g							
									歯根	1	0.11g							
							頭蓋骨		破片	1	0.84g							
							椎骨		破片	1	0.59g							
							肋骨		破片	1	0.23g							
							手根骨(舟状骨)	右	破損	1	0.90g							
							四肢骨		破片	17	24.85g							
							肋骨/四肢骨		破片	6	4.75g							
							指趾骨(基節骨)		近位端	1	0.32g							
							指趾骨(基節骨/中節骨)		遠位端	1	0.24g							
							不明		破片		42.83g							
							遺物		破片	4	7.27g							
							残渣				29.29g							
							B43	第4回第7層	5	977.37g	ヒト			脳頭蓋骨	破片	6	5.88g	
														歯牙	歯冠	2	0.28g	
	歯根	5	1.08g															
椎骨	横突起	1	0.44g															
	椎体	1	0.74g															
	破片	2	1.88g															
中手骨		近位端片	1	0.63g														
手根骨(小菱形骨)	右	破片	1	0.55g														
第1趾骨(末節骨)	右	破損	1	0.74g														
四肢骨		破片	6	7.31g														
肋骨/四肢骨		破片	10	4.76g														
指趾骨		近位端片	1	0.12g														
不明		破片		65.02g														
遺物		破片	3	33.92g														
残渣				104.17g														
B43	第4回第7層	6	503.06g	ヒト			無頭骨	左	錐体部	1	8.15g							
							脳頭蓋骨		破片	11	14.21g							
							歯牙		歯冠	1	0.00g							
									歯根	4	0.53g							
							頭蓋骨		破片	1	1.57g							
							頰椎		破片	1	1.29g							
							椎骨		椎体	1	0.57g							
									破片	3	1.65g							
							肋骨		破片	1	0.89g							

第1表 人骨同定結果(2)

試料名	箱番号	分析前重量	種類	部位	左	右	部分	数量	重量	備考						
B43	第4国第7層	6	503.06g	ヒト	指骨(中節骨)			破損	1	0.68g						
					脛骨?			破片	3	6.21g						
					足根骨(舟状骨)			破片	1	1.10g						
					上腕骨/大腕骨			骨頭	1	2.15g						
					四肢骨			破片	13	18.70g						
					肋骨/四肢骨			破片	23	11.79g						
					指趾骨(基節骨/中節骨)			破片	1	0.45g						
					不明			破片		106.19g						
					残渣						67.97g					
					B43	第4国第7層	7	688.57g	遺物			破片	3	4.00g		
			残渣						74.29g							
B43	戴骨器内 (第24国15)	8	581.15g	ヒト	頭頂骨	左		破片	1	10.68g						
					脳頭蓋骨			破片	3	3.37g						
					歯牙			歯根	3	0.72g						
					頭蓋骨			破片	1	1.20g						
					椎骨			椎体片	3	1.30g						
								椎体片	3	1.72g	骨増殖有り					
								破片	1	1.08g						
					肋骨			破片	6	5.32g						
					肩甲骨	左		破片	1	3.72g						
					上腕骨			破片	2	12.02g						
					上腕骨?			近位端?	1	0.63g						
					桃骨			骨頭	1	1.23g						
								破片	1	8.96g						
					第1中手骨		右	近位端欠	1	1.58g						
					手根骨(月状骨)	左		破片	1	0.54g						
					手根骨(豆状骨)	左		ほぼ完存	1	0.22g						
					指骨(基節骨)			ほぼ完存	2	2.17g						
					指骨(中節骨)			遠位端欠	2	0.96g						
					第1指骨(末節骨)			ほぼ完存	1	0.42g						
					寛骨?			破片	1	1.47g						
					趾骨(基節骨)			ほぼ完存	1	0.56g						
					趾骨(中節骨)			ほぼ完存	1	0.21g						
					大腕骨/脛骨			破片	2	13.40g						
					中手骨/中足骨			破片	1	1.48g						
					四肢骨			破片	34	78.48g						
					肋骨/四肢骨			破片	41	30.58g						
					指趾骨(基節骨)			近位端片	1	0.46g						
					指趾骨(基節骨/中節骨)			遠位端	1	0.37g						
					不明			破片		288.10g						
					残渣						108.16g					
					B43	戴骨器内 (第24国15)	9	899.96g	ヒト	前頭骨		右眼窩上縁	1	4.32g		
										側頭骨		右	錐体部	1	3.10g	
										脳頭蓋骨			破片	66	112.40g	
										頰骨		右	破片	1	2.81g	
										上顎骨		右	破片	1	4.08g	
										歯牙			歯根	8	2.21g	
										歯牙?			歯冠?	1	0.22g	
										頭蓋骨			破片	3	18.06g	
										第1頸椎?			破片	1	0.83g	
										胸椎			破片	1	1.33g	
椎骨			椎体片	5						3.62g						
肋骨			破片	2						1.69g						
上腕骨			破片	1						9.80g						
第3中手骨		右	近位端	1						1.32g						
手根骨(舟状骨)	左		破片	1						0.77g						
大腕骨			破片	1						6.31g						
第1中足骨			遠位端	1						1.76g						
中手骨/中足骨			遠位端	1						0.45g						
四肢骨			破片	37						96.27g						
肋骨/四肢骨			破片	60						64.11g						
指趾骨(基節骨?)			近位端	1						0.22g						
指趾骨(基節骨/中節骨)			遠位端	1						0.24g						
不明			破片							442.98g						
残渣											5.12g					
											115.96g					

VI まとめ

1. 遺構のまとめ

(1) 範囲確認調査のまとめ

範囲確認調査において特筆すべき事項として、調査坑B43で中世の火葬墓群が確認できたことがあげられる。この火葬墓群は従来知られていなかったものであり、古瀬戸の四耳壺に火葬骨を納めていることから階層的に上位の人物を葬ったものと考えられる点の特筆に値する。また、調査坑C71・C72において弥生時代中期の良好な土器が確認できたことも大きな成果といえる。C区付近には弥生時代の遺構が存在するものと推測される。

D区は八田垣内遺跡・地藏堂遺跡を対象としている。八田垣内遺跡は、洪水で多くの遺構が遺失しているものの、古代以前の遺構面が断片的に残っているものと推察される。地藏堂遺跡では、遺物が地表に多く散布していることから遺構面が残存していると思われる。しかし堆積土層の観察と地元の証言から、近代の洪水で運ばれた土砂とそれを盛り上げることで現地形になったと判断した。地表に散布していた遺物は、雲出川の氾濫によって近隣からもたらされたと想定される。

(2) E区のまとめ

E区では、古墳時代と中世の2つの遺構面を確認できた。一方で、F区・G区では2面をとらえることができなかった。埋没地形の影響にもよるのだろうが、雲出川の氾濫によって2つの遺構面は断片的に残されているのだろう。なお、E区において中世墓は確認できなかったことから、範囲確認調査坑B43でとらえた中世墓群は小範囲でとどまると推測される。

E区で確認できた主な遺構として、上層では貯水施設と考えられるS Z35、溝のS D36・87のほか、南側で古墳時代の廃棄土坑と考えられるS K21～23・26等が確認できた。下層ではS H90・S H96の大型堅穴建物2棟、S H86・S H93・S H97等の堅穴建物4棟、土坑のS K85等の古墳時代の遺構、およびわずかながら古代の柱穴等が確認できた。遺物

として古墳時代中期から後期の土師器・須恵器が出土したほか、石製品の紡錘車も出土した。また、多くの砥石も出土している。F区の成果も考慮すれば、鉄器加工に携わっていた集団の存在がうかがえる。なお、後述するF区では古墳時代後期の遺構・遺物が目立つ。E区とF区においてわずかながら時期差が認められることから、遺跡範囲のなかで、少しずつ集落が移動しているものと推測される。

(3) F区のまとめ

F区では調査区北側において中世を中心とする土坑・小穴、東西方向の溝4条等が確認できた。中央付近では古墳時代後期の集落が展開し、7棟の堅穴建物が確認できた。このうちS H45では、鉄葬が2点、大型砥石が1点出土した。特にガラス質の鉄滓は、床面の焼土面で出土している。これらの点からS H45は鍛冶を行っていた可能性が高く、山室遺跡全体の評価に関わる特記事項といえる。このほか、弥生時代後期から古墳時代前期の土坑S K52とS K67、中世の大型掘立柱建物を想定できる柱穴群が確認できた。調査区の南側では、雲出川の旧支流にあたるNR41のほか、中世の溝が4条確認できた。

F区では遺構面の高さが一定でなく、北側でやや高い傾向にある。また基盤となる層も複数の層にわたっており、一定していない。雲出川による氾濫の激しさが想像される。

なお、既に上記したが、F区における堅穴建物は古墳時代後期を中心としており、E区が古墳時代中期後半から後期前半の遺構が中心となる点と異なる。山室遺跡では、ごく短い期間でも移り変わりをみせていたと推察される。

(4) G区のまとめ

G区では耕作土を除去すると、すぐに基盤となる層が現れ、同一面に弥生時代から現代までの遺構が形成されていた。この基盤は洪積台地を思わせる土質である。現在の地形からは読み取れないが、北側の台地から嘴状にその縁辺がのびており、この微高

地に集落が形成されていたと考えられる。この埋没地形は、雲出川の氾濫によって各所で分断されているのだろうが、かろうじてその一部がG区付近に残存していると推察される。なお、範囲確認調査の成果を考慮すれば、この埋没地形は調査区の北側で洪水による削り込みでいったん低くなるようである。したがって遺構も調査区北端でいったん途切れると推測される。このG区では、弥生時代後期の小穴1基、奈良時代の堅穴建物1棟のほか、多数の中世・近世の溝・土坑が確認できた。古代の集落が形成されていたことがE・F区ではとらえることができなかった特徴である。さらに中・近世の遺構・遺物が稠密であった点もE区・F区と異なる特記事項といえる。なお、当地およびその周辺では中世から近世への過渡期において標準となる土器資料に恵まれていなかった。この点からG区における出土品は、当該地域の土器編年に大きく寄与し得るものである。

(5) 小結

小結として、山室遺跡全体にかかわる事項についてまとめておく。範囲確認調査によって古代以前の遺構面と中世遺構面が想定された。そしてE・F区の調査において古墳時代を中心とする遺構面と中世の遺構面をとらえることができた。

さらに、平安時代の遺構・遺物が非常に乏しいことも明らかになった。表面採集や包含層からの出土品においてもこの傾向が認められることを考慮すれば、平安時代にも集落形成が絶えず行われていたとは考えにくく、むしろ空白期を想定するほうがふさわしい。すなわち、古墳時代後期を中心に集落が形成されたものの、平安時代には集落形成には適さない土地へと変貌し、集落は丘陵等にその場所を移していた可能性がある。その後、E区の第17層が堆積した後、中世の遺構が再び形成されたとみさせる。この推移は高橋学氏によって明らかにされた全国的な移り変わり⁽¹⁾とも合致すると評価できる。沖積地に形成された遺跡とその消長を考える上で、山室遺跡は好例となり得るのである。

上記の特徴のほかにも、個別的是であるが今後の検討につながる視点もとらえることができた。ここであわせて記しておきたい。まず、E区下層における多数の砥石出土と、F区SH45で鉄渾2点、大型

砥石1点の出土から、鍛冶を行っていた可能性が高い。県下における古墳時代の鍛冶関連遺構は、中期と思われる六太A遺跡や後期の高茶屋大垣内遺跡等にとどまる⁽²⁾。遺跡の時期・規模から鍛冶の広がりを探る上で大きな意義を持つ。

次に堅穴建物に2種類あることも判明した。F区SH44にみられるように壁周溝を有するタイプと、E区SH90、F区SH45のように壁が斜めに立ち上がり、壁周溝を有しないタイプである。前者の壁は垂直に立ち上がると想定され、一般的堅穴建物といえる。壁が垂直で壁周溝を有しないタイプを含めた3種の相違を今後探る必要がある。

また、F区の堅穴建物の新古間係から土師器の台付甕における口縁部形態の推移もとらえることができた。SH44とSH45の台付甕を比較すると、新しいSH44では台付甕の口縁部が直立傾向にあり、端面も明瞭なものへとまとまる。一方で、SH45ではそれ以前の特徴を残している。この点をとらえて当地域における台付甕の変遷と系統を詳細に整理することができらるだろう。

さらにG区において包丁が出土したことも特筆されよう。包丁は類例が乏しいものの、古代には正倉院の刀子、南北朝時代の「墓埴絵歌詞」にみえる包丁から、刀に類似したものを用いていたと考えられている。現在の包丁とは異なる形態をしている。しかし鉄砲・タバコがポルトガル人によって伝えられ、天正年間にタバコの葉を刻むタバコ包丁が堺でつくられるようになり、現代につながる包丁が発展していく。山室遺跡の包丁は、中世末から近世の初現的な事例であり、包丁の歴史を探る上で大きな意味をもつことだろう。

註

- (1) 高橋学「平野の微地形変化と開発」『講座文明と環境』6歴史と気候、朝倉書店、1995年。高橋学「古代の地形環境と土地開発・土地利用」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第7集、帝京大学山梨文化財研究所、1996年。
- (2) 三重県埋蔵文化財センター「高茶屋大垣内遺跡(第3・4次)発掘調査報告」2000年。三重県埋蔵文化財センター「六太A遺跡発掘調査報告」2002年。

2. 遺物のまとめ

今回の調査で出土した遺物の時期は、弥生時代中期から江戸時代初頭におよぶが、E・F区では古墳時代中・後期の遺物が卓越し、G区は中世後～末期の資料が多くみられた。弥生時代・古代の遺物量は多くないものの、範囲確認調査を含めると遺物散布域は広域に及んでいる。ここでは、遺跡の盛期である古墳時代と中世の遺物の様相について総括する。

(1) 古墳時代の遺物

a. 土器

古墳時代の遺物の大半は、5世紀末から6世紀前半に属するものである。土器類は上村編年のIV～V期、特にIV期の遺物が多い。中でもE区SK21～23の土器群は、質量ともに豊富であり、当該期のセットをよく示す資料であるといえよう。煮炊具には台付甕のほか、甕、大型鉢があり、供膳具・精製器種の碗形・有段高杯、小型壺、鉢、碗が伴う。

甕は宇田型甕を主体とし、僅かに宇字を伴うが、E区SH90では宇字の比率がやや高くなっており、組成や形態等、若干の変遷もうかがえる。

須恵器には甕の小片で、内面はナデ、外面に縦方向の縄文タタキが認められるものがある。韓式系土器の可能性があろう。ただし、こうした特殊な須恵器が多いとはいえない。

b. 石製品（砥石）

当該期の堅穴建物内からは大小の砥石が出土しており、前節では鍛冶との関連を想定している。このような状況から、本書では砥石の属性の一つとして、砥石目粒度の数値化を試みた。その結果、砥石目の粒度はいずれもJIS規格の#1000～2000（極細目）に相当することが判明した。伊勢湾西岸では、弥生時代後期以降に極細目の砥石利用が一般化し、利器の鉄器化を反映したものとみられるが⁽¹⁾、本遺跡でも同様の傾向が認められた。その一方で、粗目や中目の砥石は存在せず、鍛冶の作業進行に応じて様々な粒度の砥石が使い分けられている様子はない。このことから、これら砥石は主に日常的な鉄器の維持管理に利用されたものであろう。この点については、鍛冶関連遺跡出土砥石との比較検討が必要であり、今後データを蓄積していきたい。

ところで、本遺跡の砥石には、白色で縞目状を呈する凝灰岩、暗灰色の泥質ホルンフェルス、緑泥片岩などが用いられる。このうち、ホルンフェルスや凝灰岩の産地を限定することは困難だが、古墳時代から古代の津市高茶屋大垣内遺跡、雲出島貫遺跡などで出土例があり、雲出川水系を中心に利用されていたものであろう。一方、F区SH45では、中央構造線外帯産の緑泥片岩製大型砥石が出土しており、南勢方面からもたらされた可能性が高い。古墳時代以降の例では、四日市市北山A遺跡（飛鳥～奈良）⁽²⁾で緑泥片岩製砥石の利用が認められ、広域的な流通品の可能性がある。当該期の砥石流通については研究が皆無であり、山室遺跡の事例は重要である。

(2) 中世の遺物

G区の溝、土坑から中世末期の遺物が多く得られた。これらはやや時期幅があり、一括性の高い資料とはいえないが、個々の遺物には重要なものがある。

G区SK145、SD143では16世紀後半から末ごろの土師器羽釜（中北勢系）の好例がある。これらは、口縁部が短く直立し、口縁端部は段または面を持つ。内外とも調整はナデののち、羽付近までケズリを施すが、器壁は分厚い。羽は形態の退化が著しい。

なお、上記には、多くの常滑産陶器が伴い、調理具である鉢、貯蔵具の壺・甕のほか、近世の赤物に連なる日常雑器類が多く認められたことは特筆されよう。15世紀後半の鍋や羽釜がまとまって出土したG区SD141では、10型式の常滑壺・鉢とともに三足の火鉢が出土しており、こうした雑器類の消長を知る上でも参考にならう。雲出川周辺における当該期の資料はまだ蓄積が浅く、山室遺跡はこの一つとして貴重である。

註

- (1) 櫻井拓馬「鉄器加工痕を有する砥石～弥生時代後期以降の砥石の変化に関する予察～」『研究紀要』22、三重県埋蔵文化財センター、2013年。
- (2) 三重県埋蔵文化財センター「近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報」Ⅱ、2012年。

3. 山室遺跡をめぐる諸問題

(1) 渡来系遺物のもつ意味

a. 渡来系遺物の分布

山室遺跡E区において、外面に縄蓆文を持つ還元炎焼成の土器(245)が出土した。この土器は細片で全体の器形等が判然としないものの、調整の特徴から韓式系土器¹¹⁾の範疇に含まれる。この土器の存在から、山室遺跡は渡来人と関わり深い遺跡であったと評価できる。

この点をふまえて、雲出川下流域およびその周辺において渡来系遺物の集成を試みた(第45図、第2表)。おおまかに集成したに過ぎないため、今後も類別が増加するだろう。いずれにしても当地域に渡来系遺物が集中していることがわかる。5世紀だけでなく6世紀の事例も多いことが特徴といえる。さらに文献史料からも一定数の渡来系氏族が認められることから、雲出川下流域に渡来人が定着したと評価できるだろう。

これまでの畿内およびその近隣を対象とした渡来人研究によると、5世紀には渡来人と在来の人々が混在していることが多いのに対して、6世紀には集中的に定住しているとの指摘がある¹²⁾。これらの研究をふまえると、雲出川下流域は渡来人の集住例に当てはまる可能性が考えられよう。

なお、この集住の背景にはヤマト政権による集団編成が想定されている。この想定に従えば、集団編成の先駆的な例は5世紀にも存在するものの、6世紀以降に本格化するということだろう。さらに7世紀後半から8世紀における関東の渡来人についても、集住が想定されている。したがって、渡来人の集住が畿内および周辺地域で模索され、それが7世紀後半以降に東国で展開したととらえることもできる。

文献史学では、7世紀前後に近江で渡来人の移住による開発政策がとられ、その後は東国、東北へ同様の開発が展開していったと大津透氏は指摘する¹³⁾。渡来人の集住を指摘するとともに、ヤマト政権の政策内容にも迫っている。

こうした渡来人に関わる研究のうち集住のもつ意味を中心に論点をまとめた。雲出川下流域のケースは近江の事例に配慮しつつ、その特徴に迫る必要が

あるだろう。

いずれにしても渡来人の集住においては、ヤマト政権・在地首長・渡来人の三者関係を整理する必要がある。そこで以下では、雲出川下流域の首長系譜とその変動¹⁴⁾について概観しておきたい。

b. 首長系譜の変動

当地域では、雲出川右岸において古墳時代前期に西山1号墳・筒野1号墳→向山古墳・鎗山古墳という系譜がたどれる。西山1号墳・筒野1号墳は前期中葉、向山古墳・鎗山古墳は前期後葉と考えられる。左岸では前期後半から中期前葉と考えられる碧玉製合子出土の大塚山古墳が確認されている¹⁵⁾。

前期後半から中期前葉になると、雲出川と中村川にはさまれた丘陵に方墳の西野3号墳、円墳の片野池2号墳等が築かれるが、中期中葉以降に継続しない。後期には、雲出川下流域において主要な首長墓が確認できなくなる。なお、左岸には中期後半から後期の可能性をもつ善忠寺山1号墳¹⁶⁾がみられる。ただし、当墳は小規模墳であり、後続墳もみられないことから、継続的な首長墓の築造が行われたとはみせない。すなわち、当地域では古墳時代前期にみられた首長系譜は、中期以降途切れてしまうのである。この点を勘案すれば、有力な首長系譜はヤマト政権によって解体された可能性がある。

文献史料では当地に志志県主がみえる¹⁷⁾。これまでの研究をふまえて、県主は古墳時代前期から中期に活躍した在地首長だが、やがて解体される方向にあると理解しておこう。志志県主を前期の西山1号墳・筒野1号墳→向山古墳・鎗山古墳という系譜と比定できるか否かは今後の課題としても、文献史料からも古墳時代前期に活躍した有力な首長がやがて弱体化することがうかがえる。

上記から、当地では有力な首長は前期を中心に活躍したものの、やがて弱体化したと評価できる。この首長系譜の解体の一方で、当地に渡来人が数多く流入した。この点を重視すれば、首長を弱体化した地域にヤマト政権が渡来人を集住させたこととらえることができないだろうか。その具体的な過程は、大阪府石川流域において在地首長が解体され、ヤマト

政権による渡来人の集住が想定できた地域動向と類似するのだろうか⁽⁸⁾。

県下では、雲出川下流域と同様の傾向にある地域として安濃川流域のほか、早野浩二氏がミヤケを想定する鈴鹿川流域等⁽⁹⁾がその候補となる。これらの地域を含めた詳細な検討によって、当地域における渡来人の集住とその意義が明らかになることだろう。今後の課題としておきたい。

(2) 山室遺跡に居住した古代氏族

山室遺跡に居住した古代氏族を知る手がかりとして、韓式系土器と鍛冶関連資料があげられる。前者から渡来系氏族が想定でき、第2表の真城史氏が有力な候補となろう。真城史氏は、山室遺跡の所在する津市牧町が居住地と想定されている。

一方で、鍛冶関連資料から鉄器加工に優れた氏族が候補になる。その候補として物部氏⁽¹⁰⁾系の新家氏があげられる。この氏族の関与が指摘できれば、物部神社周辺を推定地とする新家屯倉との関係へと展開するかもしれない。ただし、手がかりは限られているため、山室遺跡に居住した氏族としてこれらの可能性をあげるにとどめておこう。

(3) おわりに

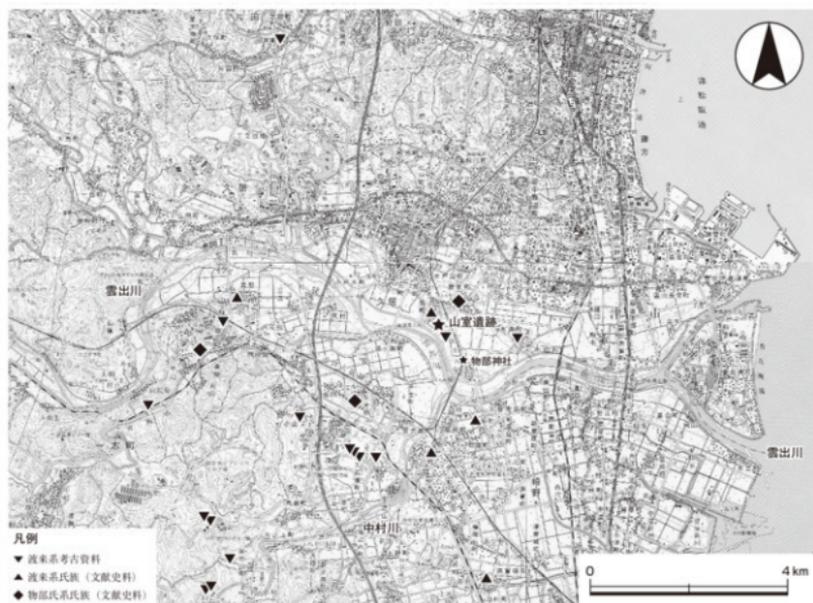
山室遺跡では、韓式系土器の出土を手がかりに、雲出川下流域に渡来人が多く住むことを指摘した。さらに、当地域ではヤマト政権による首長解体に伴って渡来人が集住した可能性がある。また、鍛冶関連資料から物部氏・新家氏との結びつきが指摘できれば、ヤマト政権の直轄地である新家屯倉⁽¹¹⁾との関係にも迫ることができる。今後の課題が多いものの、こうした展望が得られた山室遺跡は、当地域の歴史を紐解く上でかけがえのない遺跡と評価できるだろう。

註

- (1) 植野浩三「韓式系土器の名称と分類」『韓式系土器研究』1、韓式系土器研究会、1987年。今津啓子「渡来人の土器—朝鮮系軟式土器を中心として—」『ヤマト王権と交流の諸相』古代王権と交流5、名著出版、1994年。定森秀夫「陶質土器からみた近畿と朝鮮」『ヤマト王権と交流の諸相』古代王権と交流5、名著出版、1994年。
- (2) 水野正好「遺賢郡所在の漢人系倭化氏族とその墓制」『遺賢郡文化財調査報告書』第4冊、遺賢郡教育委員会、1969年。関川尚功「古墳時代の渡来人」『橿原考古学研

所論集』第九、吉川弘文館、1988年。花田勝広「渡来人の集落と墓制」『考古学研究』第39巻第2号、考古学研究会、1993年。酒井清治「関東の渡来人」『生産の考古学』倉田芳郎先生古希記念会編、同成社発行、1997年。

- (3) 大津通「近江と古代国家」『律令国家支配構造の研究』岩波書店、1993年所収。『日本書紀研究』第15冊、塙書房、1987年初出。
- (4) 都出比呂志「古墳時代首長系譜の継統と断絶」『待兼山論叢』第22号、大阪大学文学部、1988年。首長墓の動向については伊勢野久好氏による整理を参考にした（伊勢野久好「伊勢」『前方後円墳集』中部編、山川出版社、1992年）。なお、集落の動向については、川部清司氏、渡辺和仁・小原雄也両氏によるまとめを参照した（川部清司「伊勢湾西岸域における古墳時代中期集落の様相」『集落から探る古墳時代中期の地域社会』古代学研究会、2012年。渡辺和仁・小原雄也「伊賀地域における古墳時代中期の集落とその様相」『集落から探る古墳時代中期の地域社会』古代学研究会、2012年）。
- (5) 久居市史編纂委員会『久居市史』上巻、1972年。
- (6) 前掲註(5)。
- (7) 土田正昭「古代国家の政治構造」『日本古代国家成立史の研究』青木書店、1969年。鎌田元一「部・屯倉・評」『新版古代の日本』第1巻、角川書店、1993年。平野邦彦「ヤマト王権の成立と地域国家」『新版古代の日本』第1巻、角川書店、1993年。
- (8) 高松雅文「5～7世紀における石川流域の動向とヤマト政権」『ヒストリア』第212号、大阪歴史学会、2008年。
- (9) 早野浩二「ミヤケの地域的展開と渡来人」『考古学フォーラム』17、考古学フォーラム、2005年。
- (10) 埋蔵文化財天理調査団「布留遺跡3島（里中）地区発掘調査報告書」1995年。
- (11) 坂本太郎・家永三郎・井上光貴・大野晋校注『日本書紀』岩波書店、1993年。



第45図 山室遺跡周辺における渡来系遺物・氏族の分布

第2表 渡来系遺物・古代氏族の一覧

雲出川下流域・中村川流域の渡来系遺物

遺跡名	所在地	指標	出典
1 山室遺跡	津市牧町	縄文土器	本調査
2 木造赤坂遺跡	津市木造町	陶質土器(双耳壺)	1
3 まんじゅう山3号墳	松阪市磯野滝之川町上尾戸	鉄製具、釵子	2
4 まんじゅう山4号墳	松阪市磯野滝之川町上尾戸	釵子	2
5 上尾戸1号墳	松阪市磯野釜生田町上尾戸	竇窠状天井の横穴式石室	2
6 釜生田A-5号墳	松阪市磯野釜生田町ウツノ	竇窠状天井の横穴式石室	2
7 釜生田B-1号墳	松阪市磯野釜生田町ウツノ	竇窠状天井の横穴式石室	2
8 小谷10号墳	松阪市磯野天花寺町小谷	平底甕	2
9 小谷11号墳	松阪市磯野天花寺町小谷	平底甕	2
10 天保1号墳	松阪市磯野島田町上野垣内	釵子	2
11 小山古墳群	津市一志町小山	把手付鉢	3
12 上野遺跡・上野山古墳群	津市一志町高野	付付長頸甕	3
13 丸ヶ谷A-3号墳(旧称井間3号墳)	津市一志町井間	垂飾付耳飾	3
14 八乳合2号墳	津市片田井戸町	把手付鉢	3
15 天華寺麻寺	松阪市磯野天花寺町堀田	幅線文線舞丸瓦?	2
小谷13号墳	松阪市磯野天花寺町小谷	釵子	2

文献史料からみた渡来系氏族・物部系氏族

氏族名	所在地	備考	出典
1 真城史	津市牧町	渡来系(新羅系)	4
2 高野	津市一志町高野	渡来系(百濟系)	4
3 小川	松阪市磯野中川町付近	渡来系(百濟系)	4
4 野田	松阪市磯野野田町	渡来系	4
5 田村	松阪市磯野野田町	渡来系(倭漢氏系)	4
6 新家	津市新家町	物部系	4
7 安野	津市一志町片野	物部系	4
8 田尻	津市一志町田尻	物部系	4

※小谷13号墳出土の釵子は異説もあるため、ひとまず除外しておく。

※雲出川中・上流域にも渡来系氏族が多く分布するが、本報告では下流域を対象をとした。

出典(1)三重県埋蔵文化財センター「木造赤坂遺跡・池新田遺跡・井手ノ上遺跡発掘調査報告」2012年、(2)松阪市「磯野史」考古編 2006年、(3)三重県「三重県史」資料編考古1 2005年、(4)一志郡町村会「一志郡史」1965年

第3表 遺構一覧表

堅穴建物・土坑・溝等一覧

遺構番号	調査区	大地区	小地区	性格	形状	長軸×短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
SK21	E区	B	U39	土坑	円形	1.9×1.1	20	古墳中・後期	
SK22	E区	B	U39・U40	土坑	円形	1.9×1.5	24	古墳中・後期	
SK23	E区	B	U40	土坑	円形	3.4×2.6	28	古墳中・後期	
SK24	E区	B	U39・U40・V39・V40	土坑	円形	1.4×1.1	35	古墳中・後期	
SK25	E区	B	U40	土坑	円形	1.8以上×0.7以上	19	古墳中・後期	
SK26	E区	B	T39・U39	土坑	円形	1.4×1.3	44	古墳中・後期	
SK27	E区	B	V40・W40	土坑	不整形	1.2×1.0	15		
SZ28	E区	B	Q40-R40	不明	不整形	3.6×0.6	8	中世以降	餅作溝?
SZ29	E区	B	Q40-R40	不明	不整形	2.2×0.4	9	中世以降	餅作溝?
SZ30	E区	B	Q39-R39	不明	不整形	1.2×0.4	9	中世以降	
SZ31	E区	B	Q39・Q40	不明	不整形	2.4×0.5	7	中世以降	
SZ32	E区	B	P39	不明	円形	1.6以上×1.5以上	9	中世以降	
SZ33	E区	B	O39-O40-P40	不明	不整形	2.3×1.0	6	中世以降	
SZ34	E区	B	N39-O39	不明	不整形	1.1×0.1	7	中世以降	
SZ35	E区	B	N40	貯水施設	方形	1.7×1.6	20	鎌倉	
SD06	E区	B	L39-L40	溝		5.8以上×0.8	50	鎌倉	
SZ37	E区	B	N39	不明	不整形	1.2×0.2	7	中世以降	
SZ38	E区	B	O40	不明	不整形	2.3×0.2	9	中世以降	
NR41	F区	B	D22以南	田河道		42×40以上	20以上	古代～中世	
SD42	F区	B	M22-N22	溝		3.8以上×0.5	13	中世	
SD43	F区	B	P22以南	溝		3.8以上×1.4以上	70以上	中世	
SH44	F区	B	A22・B22	堅穴建物	方形	5.4×4.2以上	8	古墳後期	
SH45	F区	B	B22-C22	堅穴建物	方形	4.1×2.5以上	25	古墳後期	
SD46	F区	B	C22	溝		3.6以上×0.5	16	室町	
SD47	F区	B	C22・D22	溝		3.6以上×0.5	14	中世	
SH48	F区	A	Y22	堅穴建物	方形	3.2以上×1.4以上	8	古墳後期以前	SH48→SH49の先後関係
SH49	F区	A	X22・Y22	堅穴建物	方形	5.4×1.9以上	12	古墳後期	
SH50	F区	A	V22-W22	堅穴建物	方形	4.6以上×4.2以上	5	古墳後期	
SH51	F区	A	U22・V22	堅穴建物	方形	3.4以上×2.8以上	7	古墳後期	SH50→SH51の先後関係
SK32	F区	A	U22	土坑	方形	2.4×1.7以上	20	弥生終末期	
SK33	F区	A	V22-W22	土坑	円形	1.6×1.5	50		石蔵出土
SH54	F区	A	T22-U22	堅穴建物	方形	3.5以上×2.0以上		古墳後期	
SD55	F区	A	R22	溝		2.4×0.8	22	室町・現代	
SD56	F区	A	S22	溝		4.0以上×2.7	83	室町	
SD57	F区	A	Q22-R22	溝		4.0以上×1.2	22	鎌倉以前	土層断面より判断
SD58	F区	A	Q22	溝		4.0以上×1.8	48	室町	
SK39	F区	A	M22	土坑	方形	2.0×0.4以上	24	中世以降	
SK60	F区	A	L22	土坑	方形	2.9×0.1以上	36	中世以降	
SK61	F区	A	O22	土坑	円形	2.2×1.2以上	23	鎌倉	
SK62	F区	A	O22	土坑	円形	1.4×1.4	30	鎌倉	
SK63	F区	A	O22	土坑	円形	1.6×1.0	17	鎌倉	
SK64	F区	A	O22	土坑	不整形	1.1以上×0.8	31	中世以降	
SD65	F区	A	R22	溝	-	4.0以上×1.2	26	鎌倉以前	土層断面より判断
SK66	F区	A	S22	土坑	不整形	1.2×0.3	35		
SK67	F区	A	U22	土坑	不整形	2.2以上×2.0	40	弥生終末期～古墳前期	
SK68	F区	A	Y22	土坑	不整形	1.7×1.0	27		
SK69	F区	A	P22	土坑	不整形	1.1×0.7	41	中世?	
SK70	F区	A	O22-P22	土坑	不整形	0.7以上×0.6	41	中世?	
SK71	F区	A	P22	土坑	不整形	1.2×0.7以上	19	中世?	
SK72	F区	A	T22・U22	土坑	円形	1.2以上×1.2	18		SK72→SK32の先後関係
SK80	E区下層	B	F39	土坑	不整形	1.5×0.9	72		
SK81	E区下層	B	F39	土坑	不整形	0.9×0.7	19	古代	
SK82	E区下層	B	F39	柱穴か	方形	0.7×0.7	46	古代	
SK83	E区下層	B	F39	土坑	円形	0.8×0.8	62	中世	
SK84	E区下層	B	F39	土坑	不整形	0.8×0.5以上	14		
SK85	E区下層	B	F39	土坑	不整形	2.0以上×1.4	7	古墳後期	
SH86	E区下層	B	F39-N39-O40-O39-O40	堅穴建物	方形	4.4×4.4	15	古墳中・後期	
SD87	E区下層	B	F39	溝		2.2以上×0.8	40	鎌倉～室町	
SD88	E区下層	B	F39-L39-L40	溝				SD36に統合	
SK89	E区下層	B	F39-N39	土坑	不整形	1.1×1.1	48	古墳後期以降	SH86→SK89の先後関係
SH90	E区下層	B	F39-K39-K40L39-L40-M39-M40	堅穴建物	方形	7.4×3.7以上	54	古墳中・後期	
SK91	E区下層	B	F39	土坑	不整形	1.2×0.3	6		堅穴建物の崩壊遺構?
SK92	E区下層	B	F39	土坑	不整形	2.0以上×1.0	32	古墳中・後期	SK92→SH86の先後関係
SH93	E区下層	B	F39-M40・N40	堅穴建物	方形	4.2×2.6以上	11	古墳中・後期	SH93→SK93の先後関係
SK94	E区下層	B	F39	土坑	円形	1.3×1.1	42	古墳中・後期	SH97→SK94の先後関係
SH95	E区下層	B	F39	堅穴建物	方形	3.0以上×2.8以上	14	古墳後期	SH97→SH95の先後関係
SH96	E区下層	B	F39-K39・K40	堅穴建物	方形	6.8以上×2.2以上	14	古墳後期	SH96→SH95の先後関係
SH97	E区下層	B	F39-L40・M40	堅穴建物	方形	5.0以上×2.8以上	18	古墳中・後期	SH97→SH93の先後関係
SK98	E区下層	B	F39-M40・N40	土坑	不整形	2.0以上×2.0	42	古墳中・後期	SK98→SH93の先後関係
SK99	E区下層	B	F39	土坑	円形	0.7×0.6	17	中世	
SK100	E区下層	B	F39	土坑	円形	1.4×1.1	23	古墳後期	SH96→SK100の先後関係
SK101	E区下層	B	F39	土坑	円形	0.7×0.3	58	古墳中・後期	SK101→SH86の先後関係
SD110	G区	B	S11・S12	溝		2.0×1.9以上	55	室町	
SD111	G区	B	S11	溝		3.6以上×0.4	29		
SD112	G区	B	R11-S10・S11	溝		3.8以上×0.9	29	鎌倉	

SD113	G区	B	R10・S10	溝		14以上×0.7	32	中世	
SD114	G区	B	R10・S10	溝		10以上×0.8	20	中世	
SD115	G区	B	R10	溝		0.9以上×0.2	5		
SD116	G区	B	Q10・R10	溝		1.1×0.5	33		
SK117	G区	B	R9・R10	小穴	円形	1.1×0.8	16		
SK118	G区	B	Q9	柱穴か	方形	0.8×0.6	32	奈良	
SK119	G区	B	R10	土坑	円形	0.7×0.6	15		
SK120	G区	B	S11	土坑	円形	0.8×0.7	19		SD111～SK120の先後関係
SD121	G区	B	S12・T12	溝		3.6以上×2.0以上	92	室町	
SD122	G区	B	S11・S12・T12	溝		3.0×2.0以上	31		
SK123	G区	B	Q10	小穴	方形	0.7×0.6以上	31		
SD124	G区	B	N5・O5	溝		3.6以上×0.9	22		
SH125	G区	B	O6	竪穴建物	方形	2.7以上×1.9以上	16	奈良	
SD126	G区	B	M4・N4	溝		7.5以上×0.7	32	室町～江戸	
SZ127	G区	B	P7・P8・Q8・Q9・Q10・R9	洪水による崩り込み	不整形	1.87以上×3.0以上	65以上	昭和	昭和時代の洪水による崩り込み
SK128	G区	B	O5	土坑	円形	1.1×0.9	37	鎌倉	
SD129	G区	B	N5・O5	溝		1.4以上×0.8以上	23		SD129～SD124の先後関係
SD130	G区	B	M3	溝		1.3以上×0.3	22		
SK131	G区	B	J1	土坑	不整形	1.2×0.7	45	室町	
SZ132	G区	B	I1・I11	土坑	円形	2.0×1.1以上	15		
SZ133	G区	B	I1	土坑	方形	2.4×2.1以上	20	室町	SZ133～SZ132の先後関係
SK134	G区	B	I2	土坑	不整形	1.5×0.9	32	中世	
SK135	G区	B	H1	土坑	円形	0.8×0.6	27		
SK136	G区	B	F1	土坑	方形	1.3×1.2	18	鎌倉～室町	
SZ137	G区	B	M3・M4	土坑	円形	3.0×1.8以上	75		
SK138	G区	B	D2・E2	土坑	不整形				SK146に統合
SK139	G区	B	F1	土坑	不整形	1.8×1.6以上	37		幾土あり
SK140	G区	B	F2	土坑	不整形	1.7以上×1.7	42	室町	
SD141	G区	B	G1・G2	溝		3.5以上×2.6	90	室町	
SD142	G区	B	G1	溝		1.8以上×0.7	13	室町	
SD143	G区	B	J1・J2・K1・K2	溝		5.0×3.4以上	68	室町	
SK144	G区	B	L2	土坑	不整形	1.8×1.8	32	室町～江戸	飯丁出土
SK145	G区	B	L2	土坑	不整形	4.7×2.2以上	84	室町	
SK146	G区	B	D2	土坑	不整形	1.4×1.1以上	62		
SK147	G区	B	D1・D2	土坑	不整形	2.2×1.4	53	中世	
SK148	G区	B	D1	土坑	不整形	2.0×1.0	53		
SK149	G区	B	E1	土坑	円形	3.0×2.2	69	江戸	
SK150	G区	B	D2	土坑	不整形	2.1×0.5以上	39		
SK151	G区	B	C1・C2	土坑	不整形	3.1以上×2.8	139	室町	
SD152	G区	B	L2	溝		1.0以上×0.5	12		
SK153	G区	B	M3	土坑	不整形	2.4×1.2以上	38		SK153～SD126の先後関係
SK154	G区	B	P7	土坑	不整形	1.0以上×0.6以上	12		
SK155	G区	B	P8	土坑	円形	0.8×0.6	34	奈良	
SD156	G区	B	Q8・Q9	溝		3.0以上×0.8以上	25	飛鳥～奈良	

遺構番号39・40、73～79、102～10914欠番

柱穴・小穴一覧

遺構番号	調査区	大地区	小地区	性格	形状	長軸×短軸 (m)	深さ (cm)	時期	備考
n39Pt2	E区下層	B	n39	小穴	円形	0.6×0.4	18	古墳後期～古代	SH86より後出
n39Pt2	E区下層	B	n39	小穴	円形	0.2×0.2	8	古墳中・後期	
i39Pt1	E区	B	i39	小穴	円形	0.4×0.4	4	平安	
v39Pt3	E区	B	v39	小穴	円形	0.8×0.8	14	古墳中・後期	
v40Pt1	E区	B	v40	小穴	円形	0.5×0.4	5	古代	
v40Pt3	E区	B	v40	小穴	円形	0.3×0.3	4	古墳中・後期～飛鳥	
w40Pt7	E区	B	w40	柱穴	円形	0.4×0.4	16	古墳中期	
Az22Pt6	F区	A	i22	小穴	不整形	1.2×0.5	33	鎌倉	
Az22Pt9	F区	A	i22	小穴	円形	0.5×0.3	37	中世	
Az22Pt10	F区	A	i22	小穴	円形	0.4×0.4	62	鎌倉	
As22Pt1	F区	A	m22	小穴	円形	0.3×0.3	39	鎌倉	
As22Pt7	F区	A	n22	小穴	円形	0.4×0.3	21	中世	
As22Pt3	F区	A	o22	小穴	円形	0.8×0.5	27	鎌倉	
As22Pt7	F区	A	o22	小穴	円形	0.5×0.3	21	鎌倉～室町	
As22Pt1	F区	A	s23	小穴	円形	0.3×0.2	30	鎌倉	
As22Pt4	F区	A	t22	小穴	円形	0.4×0.3	25	古墳中・後期	
Aw22Pt1	F区	A	w22	柱穴	円形	1.1×0.9	27	中世	
Aw22Pt2	F区	A	w22	柱穴	円形	0.9×0.7	36	中世	
Aw22Pt3	F区	A	w22	柱穴	円形	0.8×0.7	31	中世	
Aw22Pt6	F区	A	w22	小穴	円形	0.5×0.4	27	鎌倉	
As22Pt1	F区	A	x22	柱穴	円形	1.0×0.8	20	中世	
c1Pt1	G区	B	c1	小穴	円形	0.6×0.6	45	鎌倉	
c1Pt6	G区	B	c1	小穴	円形	0.3×0.3	63	中世	
c1Pt11	G区	B	c1	小穴	円形	0.7×0.6	48	鎌倉	
q9Pt3	G区	B	q9	柱穴	方形	0.8×0.5以上	12	古代	
sl1Pt1	G区	B	sl1	小穴	円形	0.4×0.3	32	弥生後期	

第4表 遺物観察表
土器・瓦・土製品

NO	発掘層	種類(産地)	形状	地区	遺跡・部位	埋存度	口径 (cm)		特殊・文様の特長 ■ 黒胎(古代の緑胎・灰胎&黒胎)	胎土	構成	色調(内面)	特記事項	
							口蓋	高さ						
1	1234	土師器	高杯	東横A-1	11層部12	15.2	-	-	片 1277-01 片 1277-03	中々良	灰	12.5~14	内面放射状文	
2	1232	土師器	杯	東横A-1	11層部12	15.6	-	-	片 1277-05 片 1277-07	中々良	灰	12.5~14	内面放射状文	
3	1222	土師器	杯(浅)	東横A-6	表部3-12	-	10.2	-	片 1277-09 片 1277-10	中々良	灰	12.5~14		
4	1223	土製品	土師	東横A-6	11層部12	5.0	14	-	片 1277-11	中々良	灰	12.5~14	87g	
5	1274	土師器	高杯	東横B-22	埋部12	-	10.8	-	片 1277-12 片 1277-13	中々良	灰	12.5~14		
6	1304	衛生土器	短蓋筒	東横B-24	11層部12	10.1	-	-	片 1277-14 片 1277-15	中々良	灰	12.5~14		
7	1273	衛生土器	E-11型	東横B-24	11層部12	9.2	-	-	片 1277-16	中々良	灰	12.5~14		
8	1274	衛生土器	壺	東横B-24	小片	-	-	-	片 1277-17	中々良	灰	12.5~14	7と同一個体か	
9	1224	衛生土器	台付鉢	東横B-24	杯部下部12	-	-	-	片 1277-18 片 1277-19	中々良	灰	12.5~14		
10	1302	衛生土器	壺	東横B-24	埋部12	-	-	-	片 1277-20 片 1277-21	中々良	灰	12.5~14	外周放射状	
11	1225	土師器	罎	東横B-43	11層部小片	-	-	-	片 1277-22	中々良	灰	12.5~14		
12	1224	山草陶	罎	東横B-43	埋部4-12	-	44	-	片 1277-23	中々良	灰	12.5~14		
13	1263	陶器(常滑)	壺	東横B-43	11層部12	19.4	-	-	片 1277-24 片 1277-25	中々良	灰	12.5~14		
14	1254	陶器(常滑)	台付鉢	東横B-43	Px1	6-12	27.6	94	117	片 1277-26 片 1277-27	中々良	灰	12.5~14	
15	1243	陶器(古瀬戸)	円筒壺	東横B-43	Px1	11層部12	10.4	8.5	28.1	片 1277-28 片 1277-29	中々良	灰	12.5~14	
16	1275	衛生土器	壺	東横C-72	11層部12	15.2	-	-	片 1277-30	中々良	灰	12.5~14		
17	1277	衛生土器	鉢	東横C-72	11層部小片	-	-	-	片 1277-31	中々良	灰	12.5~14		
18	1224	衛生土器	壺	東横C-66	埋部のみ	-	-	-	片 1277-32	中々良	灰	12.5~14		
19	1276	衛生土器	E-17	東横C-72	埋部12	-	30	-	片 1277-33	中々良	灰	12.5~14		
20	1223	衛生土器	壺	東横C-71	11層部12	16.0	-	-	片 1277-34	中々良	灰	12.5~14		
21	1262	土師器	壺	東横C-72	11層部12	19.4	-	-	片 1277-35 片 1277-36	中々良	灰	12.5~14	外周放射状	
22	1264	衛生土器	東横C-72	小片	-	-	-	-	片 1277-37	中々良	灰	12.5~14		
23	1253	衛生土器	壺	東横C-72	埋部12	-	58	-	片 1277-38	中々良	灰	12.5~14	外周放射状	
24	1278	土師器	高杯	東横C-72	埋部12	-	16.8	-	片 1277-39	中々良	灰	12.5~14		
25	1292	衛生土器	東横C-75	Px2	6-12	16.2	10.8	15.7	片 1277-40 片 1277-41	中々良	灰	12.5~14		
26	1294	衛生土器	壺	東横C-75	Px1	11層部第一層部 6-12	13.0	-	-	片 1277-42 片 1277-43	中々良	灰	12.5~14	
27	1265	土師器	杯	東横D-116	11層部12	13.8	-	25	片 1277-44 片 1277-45	中々良	灰	12.5~14	内面放射状文	
28	1264	土師器	杯	東横D-127	11層部12	15.8	-	42	片 1277-46	中々良	灰	12.5~14	内面放射状文	
29	1264	土師器	罎	東横D-113	11層部12	12.0	-	-	片 1277-47 片 1277-48	中々良	灰	12.5~14		
30	1283	土師器	罎	東横D-126	4-12	16.4	-	30	片 1277-49 片 1277-50	中々良	灰	12.5~14		
31	1284	土製品	土師	東横D-125	12	5.1	19	-	片 1277-51	中々良	灰	12.5~14	150g	
32	1282	陶器	蓋	東横D-130	11層部12	3.3	19	-	片 1277-52	中々良	灰	12.5~14		
33	11-3	土師器	台付壺	E-80	S186	11層部12	14.8	-	片 1277-53	中々良	灰	12.5~14		
34	14-2	土師器	台付壺	E-80	S186	11層部12	14.0	-	片 1277-54 片 1277-55	中々良	灰	12.5~14		
35	11-3	土師器	台付壺	E-80	S186	11層部12	13.6	-	片 1277-56	中々良	灰	12.5~14		
36	14-1	土師器	台付壺	E-80	S186	11層部12	18.8	-	片 1277-57	中々良	灰	12.5~14	下部40mm以上	
37	11-4	土師器	台付壺	E-80	S186	11層部12	8.0	-	片 1277-58	中々良	灰	12.5~14		
38	15-2	土師器	台付壺	E-80	S186	11層部12	10.0	-	片 1277-59 片 1277-60	中々良	灰	12.5~14		
39	15-3	土師器	台付壺	E-80	S186	台部12	-	8.8	-	片 1277-61 片 1277-62	中々良	灰	12.5~14	
40	15-2	土師器	台付壺	E-80	S186	台部12	-	6.0	-	片 1277-63	中々良	灰	12.5~14	
41	15-1	土師器	台付壺	E-80	S186	台部12	-	6.0	-	片 1277-64 片 1277-65	中々良	灰	12.5~14	
42	15-1	土師器	壺	E-80	S186	埋部12	-	7.6	-	片 1277-66	中々良	灰	12.5~14	
43	15-6	須恵器	E-11型	E-80	S186	11層部12	19.6	-	-	片 1277-67 片 1277-68	中々良	灰	12.5~14	
44	11-2	須恵器	杯(深)	E-39	S180	9-12	12.3	-	38	片 1277-69 片 1277-70	中々良	灰	12.5~14	第8図層1層出土
45	15-5	須恵器	杯(深)	E-180	S180	11層部小片	-	-	-	片 1277-71 片 1277-72	中々良	灰	12.5~14	
46	15-7	須恵器	杯(浅)	E-39	S180	11層部12	10.8	-	-	片 1277-73 片 1277-74	中々良	灰	12.5~14	
47	15-8	須恵器	杯(浅)	E-40	S180	11層部12	14.4	-	-	片 1277-75 片 1277-76	中々良	灰	12.5~14	
48	11-2	土師器	壺	E-39	S180	11層部12	14.0	-	-	片 1277-77 片 1277-78	中々良	灰	12.5~14	
49	12-2	土師器	壺	E-39	S180	11層部12	15.1	-	-	片 1277-79 片 1277-80	中々良	灰	12.5~14	
50	11-3	土師器	台付壺	E-39	S180	11層部12	13.0	-	-	片 1277-81 片 1277-82	中々良	灰	12.5~14	
51	14-4	土師器	台付壺	E-39	S180	台部12	-	10.3	-	片 1277-83 片 1277-84	中々良	灰	12.5~14	
52	11-1	土師器	大型鉢	E	S180VY	11層部12	27.9	-	-	片 1277-85 片 1277-86	中々良	灰	12.5~14	
53	15-4	土師器	大型鉢	E	S180VY	底部のみ	-	-	-	片 1277-87	中々良	灰	12.5~14	
54	13-1	土師器	大型鉢	E	S180VY	11層部12	27.2	-	-	片 1277-88 片 1277-89	中々良	灰	12.5~14	
55	13-3	土師器	鉢	E	S180VY	11層部12	25.0	-	-	片 1277-90 片 1277-91	中々良	灰	12.5~14	10と同一個体か
56	12-1	土師器	鉢	E	S180VY	埋部12	-	8.5	-	片 1277-92	中々良	灰	12.5~14	
61	17-6	土師器	高杯	E-40	S185	11層部小片	-	-	-	片 1277-93	中々良	灰	12.5~14	
62	19-3	土師器	高杯	E-40	S185	埋部のみ	-	-	-	片 1277-94	中々良	灰	12.5~14	

63	47.0	現世部	杯(蓋)	E-429	S106	口縁部2/12	120	-	-	片-20711 ¹⁾ 片-20712 ¹⁾	密	貝	灰白	
64	47.1	現世部	杯(蓋)	E-429	S106	3/12	140	-	41	片-20711 ¹⁾ 片-20712 ¹⁾ 片-20713 ¹⁾	密	貝	灰白	
65	47.4	現世部	杯(身)	E-429	S106	口縁部小弁	116	-	-	片-20711 ¹⁾ 片-20712 ¹⁾ 片-20713 ¹⁾	密	貝	灰白	
66	47.2	上脚部	台付蓋	E-429	S106	台部1/12定弁	-	8.6	-	片-77-10 994 片-77-10 995	密	貝	辻灰+黄緑	
67	47.5	上脚部	台付蓋	E-440	S102	台部7/12	-	10.6	-	片-77-10 994 片-77-10 995	中々密	貝	浅黄緑	
68	43	上脚部	台付蓋	E-429	SK21	口縁部2/12	150	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
69	1.7	上脚部	台付蓋	E-429	SK21	口縁部5/12	189	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	黄緑	
70	3.1	上脚部	台付蓋	E-429	SK21	口縁部2/12	180	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	黄緑	
71	4.4	上脚部	蓋	E-15	SK21	口縁部4/12	172	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
72	1.6	上脚部	台付蓋	E-429	SK21	口縁部2/12	117	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	明赤黄	
73	30.3	上脚部	台付蓋	E-429	SK21	台部1/12定弁	-	11.0	-	片-77-10 994 片-77-10 995	粗	貝	辻灰+黄緑	
74	5.3	上脚部	台付蓋	E-15	SK21	台部6/12	-	11.0	-	片-77-10 994 片-77-10 995	密	貝	辻灰+黄緑	
75	4.5	上脚部	台付蓋	E-15	SK21	台部定弁	-	8.8	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
76	31.6	上脚部	台付蓋	E-15	SK21	台部3/12	-	8.0	-	片-77-10 994 片-77-10 995	中々密	貝	灰黄緑	
77	4.2	上脚部	高杯	E-429	SK21	口縁部5/12	132	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
78	29.2	上脚部	高杯	E-429	SK21	口縁部2/12	135	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
79	1.5	上脚部	高杯	E-429	SK21	口部10/12	140	9.0	13.2	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	黄緑	
80	4.1	上脚部	高杯	E-15	SK21	脚部10/12	-	-	-	片-77-10 994 片-77-10 995	密	貝	黄緑	
81	29.7	上脚部	高杯	E-15	SK21	脚部定弁	-	9.5	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	黄緑	
82	1.4	上脚部	高杯	E-429	SK21	脚部1/12定弁	-	9.9	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	明赤黄	
83	29.5	上脚部	高杯	E-429	SK21	口縁部1/12	194	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
84	1.1	上脚部	高杯	E-15	SK21	口縁部2/12	211	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	明赤黄	
85	5.1	上脚部	高杯	E-15	SK21	口縁部2/12	216	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
86	5.2	上脚部	高杯	E-429	SK21	脚部1/12定弁	-	13.8	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	浅黄緑	
87	1.2	上脚部	瓶	E-15	SK21	6/12	116	5.7	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	明赤黄	
88	3.2	上脚部	大形埴	E-429	SK21	口縁部4/12	318	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	浅黄緑	
89	16.1	上脚部	大形埴	E-40	SK25	口縁部5/12	308	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	黄緑	
90	16.2	上脚部	大口埴	E-40	SK25	口縁部2/12	180	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	浅黄緑	
91	20.1	上脚部	台付蓋	E	SK26	口縁部1/12	168	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	淡黄	
92	21.2	上脚部	高杯	E-40	SK26	8/12	114	11.4	15.2	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
94	14.2	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	口縁部5/12	156	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
95	3.2	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	口縁部1/12	165	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
96	10.1	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	口縁部2/12	172	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	灰白	外縁黄緑
97	53.1	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	6/12	166	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
98	14.1	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	口縁部2/12	144	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	粗	貝	辻灰+黄緑	外縁黄緑
99	10.2	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	口縁部5/12	138	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
100	9.1	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	口縁部5/12	143	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	黄緑	
101	11.2	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	口縁部2/12	160	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	粗	貝	辻灰+黄緑	内外縁黄緑
102	11.0	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	口縁部1/12	140	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	辻灰+黄緑	
103	11.1	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	口縁部5/12	116	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	辻灰+黄緑	
104	29.6	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	口縁部1/12	92	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	粗	貝	辻灰+黄緑	
105	15.5	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	台部定弁	-	9.7	-	片-77-10 994 片-77-10 995	中々密	貝	辻灰+黄緑	
106	9.2	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	台部定弁	-	10.0	-	片-77-10 994 片-77-10 995	中々密	貝	辻灰+黄緑	
107	14.5	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	台部7/12	-	10.0	-	片-77-10 994 片-77-10 995	中々密	貝	灰黄	
108	10.3	上脚部	台付蓋	E-40	SK22	台部定弁	-	8.6	-	片-77-10 994 片-77-10 995	中々密	貝	灰黄	
109	29.3	上脚部	高杯	E	SK22	口縁部1/12	120	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	明赤黄	
110	15.1	上脚部	高杯	E-40	SK22	口縁部5/12	146	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	黄緑	
111	14.3	上脚部	高杯	E-40	SK22	口縁部5/12	150	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	黄緑	
112	15.4	上脚部	高杯	E-40	SK22	脚部1/12定弁	142	-	-	片-77-10 994 片-77-10 995	中々密	貝	赤黄	
113	1.3	上脚部	高杯	E-40	SK22	6/12	114	9.2	11.4	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	明赤黄	
114	13.2	上脚部	高杯	E-40	SK22	口縁部3/12	208	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	辻灰+黄緑	
115	15.2	上脚部	高杯	E-40	SK22	脚部2/12	218	-	-	片-77-10 994 片-77-10 995	密	貝	黄緑	
116	2.3	上脚部	高杯	E-40	SK22	口縁部1/12	213	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	辻灰+黄緑	
117	12.4	上脚部	高杯	E-40	SK22	脚部10/12	-	11.8	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	密	貝	黄緑	
118	10.4	上脚部	高杯	E-40	SK22	脚部1/12定弁	-	9.7	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	明赤黄	
119	11.7	上脚部	高杯	E-40	SK22	脚部定弁	-	10.0	-	片-77-10 994 片-77-10 995	密	貝	黄緑	
120	11.6	上脚部	高杯	E-40	SK22	脚部1/12定弁	-	9.8	-	片-77-10 994 片-77-10 995	中々密	貝	明赤黄	
121	8.1	上脚部	瓶	E-40	SK22	瓶部6/12	-	10.6	-	片-77-10 994 片-77-10 995	中々密	貝	灰白	瓶口L5+出
122	15.6	上脚部	瓶	E-40	SK22	把手のみ	-	-	-	片-77-10 994 片-77-10 995	中々密	貝	浅黄緑	中央部の組合瓶
124	27.4	上脚部	台付蓋	E-40	SK23	口縁部2/12	150	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	
125	30.4	上脚部	台付蓋	E-40	SK23	口縁部4/12	154	-	-	片-2171 ¹⁾ 片-2172 ¹⁾ 片-2173 ¹⁾	中々密	貝	辻灰+黄緑	外縁黄緑

126	34.1	土師部	台付裏	E-00	SK23	118003-12	15.2	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	
127	34.2	土師部	台付裏	E-00	SK23	118002-12	16.4	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	土師+貴部
128	20.6	土師部	台付裏	E-00	SK23	118001-12	18.4	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	土師+貴部
129	16.3	土師部	台付裏	E-00	SK23	118001-12	36.0	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	土師+貴部
130	17.5	土師部	台付裏	E-00	SK23	118001/1255 Y	13.8	-	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	外側掘付者
131	25.2	土師部	裏	E-00	SK23	118001-12	18.0	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	土師+貴部
132	26.5	土師部	台付裏	E-00	SK23	台部6-12	-	10.0	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	土師+貴部
133	23.1	土師部	台付裏	E-00	SK23	台部10-12	-	9.0	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	部	員	部	
134	23.2	土師部	台付裏	E-00	SK23	台部4-12	-	9.6	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	部	員	部	土師+貴部
135	30.5	土師部	台付裏	E-00	SK23	台部10-12	-	11.3	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	部
136	32.2	土師部	台付裏	E-00	SK23	台部10-12	-	9.6	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	部	員	部	土師+貴部
137	23.4	土師部	台付裏	E-00	SK23	台部10-12	-	9.6	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	部	員	部	部
138	26.6	土師部	台付裏	E-00	SK23	台部10-12	-	8.6	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	部
139	28.1	土師部	高杯	E-00	SK23	118002-12	20.0	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	
140	24.7	土師部	高杯	E-00	SK23	118006-12	20.0	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	
141	26.3	土師部	高杯	E-00	SK23	118001-12	22.8	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
142	23.7	土師部	高杯	E-00	SK23	118002-12	15.6	-	-	調整不明	部	員	部	
143	27.4	土師部	高杯	E-00	SK23	118003-12	14.0	-	-	調整不明	部	員	部	
144	24.6	土師部	高杯	E-00	SK23	118001-12	10.8	-	-	調整不明	部	員	部	部
145	44.3	土師部	高杯	E-00	SK23	10-12	14.2	9.0	11.0	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
146	24.4	土師部	高杯	E-00	SK23	118002-12	-	9.2	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	土師+貴部
147	26.7	土師部	高杯	E-00	SK23	118001-12	-	8.8	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	部	員	部	部
148	24.4	土師部	高杯	E-00	SK23	118001-12	-	9.0	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	部
149	33.6	土師部	高杯	E-00	SK23	118001-12	-	9.5	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	部
150	24.5	土師部	高杯	E-00	SK23	118001-12	-	9.4	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	部	員	部	部
151	17.7	土師部	井	E-00	SK22	118001-12	8.4	-	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	土師+貴部
152	27.2	土師部	井	E-00	SK23	6-12	10.3	-	4.7	調整不明	中+委	員	部	
153	24.2	土師部	井	E-00	SK23	118003-12	12.0	-	-	調整不明	部	員	部	部
154	23.6	土師部	直口壺	E-00	SK23	118003-12	-	-	-	内:227.77,227.81 外:調整不明	部	員	部	
155	25.3	土師部	大型鉢	E-00	SK23	118001-12	-	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	部
156	28.2	土師部	井	E-00	SK23	118001-12	27.0	-	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	土師+貴部 外側掘付者
157	23.1	土師部	大型鉢	E-00	SK23	118001-12	23.6	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	部
158	23.5	須恵部	高杯	E-00	SK23	118001-12	14.8	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	
160	32.1	土師部	台付裏	E-00	SK24	10-12	15.0	8.8	28.7	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	部:土師+貴部 部:土師+貴部
161	19.2	土師部	台付裏	E-00	SK05	118004-12	15.2	-	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	部	員	部	土師+貴部
162	19.1	土師部	台付裏	E-00	SK05	118002-12	15.2	-	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	部	員	部	部
163	6.1	土師部	台付裏	E-00	SK05	118001-12	16.4	-	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	部	員	部	外側掘付者 部:土師+貴部
164	7.1	土師部	台付裏	E-00	SK05	118004-12	-	-	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	部	員	部	土師+貴部 内側掘付者
165	17.2	土師部	台付裏	E-00	SK05	118001-12	-	10.3	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	土師+貴部
166	26.3	土師部	高杯	E-00	SK05	118005-12	14.2	-	-	調整不明	部	員	部	部
167	18.2	土師部	高杯	E-00	SK05	118003-12	14.6	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
168	17.3	土師部	高杯	E-00	SK05	118004-12	13.4	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
169	19.3	土師部	高杯	E-00	SK05	118001-12	14.0	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	
170	21.3	土師部	高杯	E-00	SK05	7-12	14.6	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	部
171	9.3	土師部	高杯	E-00	SK05	7-12	15.2	10.0	12.2	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	部
172	24	土師部	高杯	E-00	SK05	118004-12	-	10.7	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	部
173	17.1	土師部	高杯	E-00	SK05	118006-12	-	9.3	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
174	18.3	土師部	高杯	E-00	SK05	118005-12	-	9.4	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
175	18.5	土師部	高杯	E-00	SK05	118001-12	-	9.0	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
176	18.1	土師部	井	E-00	SK05	118006-12	12.9	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	土師+貴部
177	17.5	土師部	直口壺	E-00	SK05	10-12	9.8	-	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
178	17.4	土師部	直口壺	E-00	SK05	118003-12	-	-	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
179	20.4	土師部	裏	E-00	SK04	118001-12	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	部	員	部	部
180	20.5	土師部	台付裏	E-00	SK08	台部10-12	-	7.2	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	79-7部
181	35.2	土師部	直口壺	E-00	P62	118001/1255 Y	14.2	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
182	14.1	土師部	高杯	E-00	P63	118003-12	-	13.6	-	内:227.77,227.81 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	
183	31.2	須恵部	井(深)	E-00	P67	118001-12	13.9	-	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	部
184	31.5	土師部	井	E-00	P61	5-12	14.4	-	3.3	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	
185	34.2	土師部	裏	E-00	P61	6-12	16.8	-	14.6	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	土師+貴部
187	36.3	山形部	裏	E-00	SK08	118004-12	-	6.0	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	部	員	部	
188	35.1	山形部	裏	E-00	SK08	118003-12	-	7.4	-	内:227.77 外:227.77,227.81,28	中+委	員	部	部

189	57.1	上脚部	高杯	E-40	SD06	1脚部2/12	140	-	-	内:SD11 ⁺ 外:SD11 ⁺	密	直	脚	
190	46.3	上脚部	低	E-40	SD06	1脚部2/12	100	-	18	内:SD11 ⁺ 外:SD11 ⁺ 144	密	直	浅脚部	
191	56.1	上脚部	低	E-40	SD06	6/12	116	-	28	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	浅脚部	
192	56.4	上脚部	低	E-40	SD06	1脚部3/12	80	-	08	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	浅脚部	
193	57.2	上脚部	上脚	E-40	SD06		3.2	-	-	内:SD11 ⁺ 外:SD11 ⁺	密	直	1.2A+黄橙	5kg
194	48.1	脚部 (古瀬川)	兼	E-40	SD06	1脚部2/12	418	-	-	内:SD11 ⁺ 外:SD11 ⁺	密	直	脚高	
196	54.5	山手胸	胸	E-m29	SE07	1脚部小巾	-	-	-	内:SD11 ⁺ 外:SD11 ⁺	密	直	脚高	
197	54.1	上脚部	兼	E-m29	SE07	7/12	180	-	13.5	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	1.2A+黄橙	内内脚兼付着
198	48.2	上脚部	兼	E-m29	SE07	1脚部3/12	290	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	浅脚部	内内脚兼付着
199	46.2	上脚部	低	E-m29	SE07	完形	76	-	10	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	浅脚部	
200	49.4	上脚部	低	E-m29	SE07	1脚部2/12	68	-	11	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	浅脚部	
201	54.4	上脚部	低	E-m29	SE07	1脚部3/12	100	-	19	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚高	
202	57.5	上脚部	低	E	SE25	6/12	76	-	1.5	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚高	
203	56.6	上脚部	低	E	SE25	1脚部4/12	68	-	08	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚高	
204	56.9	上脚部	低	E	SE25	1脚部6/12	104	-	22	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚高	
205	56.5	上脚部	低	E-m40	SE25	1脚部4/12	110	-	23	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚高	
206	56.2	上脚部	低	E	SE25	11/12	110	-	27	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚高	
207	57.0	上脚部	低	E-m40	SE25	7/12	114	-	2.5	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚高	
208	57.4	上脚部	低	E-m40	SE25	1脚部6/12	114	-	20	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚高	
209	56.10	山手胸	胸	E-m40	SE25	完形6/12	-	50	-	内:SD11 ⁺ 外:SD11 ⁺ 兼付PP, 志留肌	密	直	脚高	
210	49.2	山手胸	胸	E-m29	SE25	完形9/12	-	68	-	内:SD11 ⁺ 外:SD11 ⁺ 兼付PP, 志留肌	密	直	脚高	内内脚兼付着
211	57.6	脚部 (古瀬川)	併用	E-m40	SE25	1脚部3/12	136	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	浅脚部	
214	34.3	上脚部	台付兼	E-m40		1脚部2/12	152	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	1.2A+黄橙	
215	31.3	上脚部	台付兼	E-m29	PS	1脚部6/12	140	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚高	
216	29.1	上脚部	台付兼	E-m40		1脚部2/12	154	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	1.2A+黄橙	内内脚兼付着
217	37.1	上脚部	台付兼	E-m40		1脚部1/12	184	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	1.2A+黄橙	内内脚兼付着
218	40.3	上脚部	台付兼	E-m40		1脚部2/12	115	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	1.2A+黄橙	
219	34.5	上脚部	台付兼	E-m40		1脚部2/12	120	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	1.2A+黄橙	
220	28.8	上脚部	台付兼	E-m40		台付部6/12	-	-	-	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	1.2A+黄橙	
221	32.1	上脚部	台付兼	E-m29		台付部12	-	8.6	-	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚	
222	37.2	上脚部	台付兼	E-m40		台付部完形	-	8.4	-	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	1.2A+黄橙	
223	34.4	上脚部	兼	E-m40		1脚部2/12	144	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚	
224	29.2	上脚部	兼	E-m29	SK32	1脚部3/12	168	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚高	赤影
225	38.9	上脚部	兼付兼	E-m40		1脚部1/12	205	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	浅脚部	
226	35.6	上脚部	兼	E	包含替	1脚部2/12	66	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚高	
227	29.4	上脚部	兼	E-m29		1脚部2/12	103	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	浅脚部	
228	39.7	上脚部	胸	E-m40		6/12	126	-	51	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚	
229	35.4	上脚部	兼	E-m40	包含替	6/12	28	-	23	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚	赤ム大
230	31.4	上脚部	兼付兼	E-m29		1脚部2/12	180	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	浅脚部	
231	35.7	上脚部	兼	E-m40	包含替	兼部3/12	-	6.4	-	内:PP-11 ⁺ 外:SD11 ⁺	密	直	1.2A+黄橙	赤影
232	33.2	上脚部	高杯	E-m40		1脚部1/12	160	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚	
233	39.5	上脚部	低	E-m40		1脚部2/12	140	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚	
234	37.6	上脚部	高杯	E-m40		1脚部3/12	144	-	-	内:PP-11 ⁺ 外:SD11 ⁺	密	直	脚	
235	29.1	上脚部	高杯	E-m29		1脚部2/12	145	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	1.2A+黄橙	
236	33.5	上脚部	高杯	E-m40		1脚部2/12	200	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚	
237	38.7	上脚部	高杯	E-m40		兼付部4/12	-	-	-	内:PP-11 ⁺ 外:兼付部完形	密	直	明木胸	濃乳1×市
238	38.5	上脚部	高杯	E-m40		兼部6/12	-	9.0	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	明木胸	
239	32.6	上脚部	高杯	E-m40		兼部10/12	-	86	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	明木胸	
240	32.5	上脚部	高杯	E-m40		兼部2/12	-	96	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚	
241	37.6	上脚部	兼	E-m40		兼付部6/12	-	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	1.2A+黄橙	
242	33.6	上脚部	上脚	E-m29			3.60	1.5	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	1.2A+黄橙	6kg
243	28.4	脚部	高杯	E-m40		1脚部2/12	180	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚	
244	38.3	脚部	併 (兼)	E-m40		1脚部1/12	184	-	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚	
245	36.4	脚部	兼	E-m40		兼部小巾	-	-	-	内:PP-11 ⁺ 外:兼部完形	密	直	脚	
246	35.5	脚部	台付兼?	E-m29	PS3	兼部1/12	-	15.8	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚高	
247	36.5	脚部	併	E-m40		兼部完形	-	9.0	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚	
248	43.2	脚部	兼	E-m40		兼部6/12	-	6.8	-	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	脚高	
249	39.3	兼付上脚	併 (兼)	E-m40		1脚部1/12	262	26.0	52	内:SD11 ⁺ 144 外:SD11 ⁺ 144	密	直	1.2A+赤脚	
250	36.2	上脚部	低	E-m29	包含替	1脚部2/12	94	-	20	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚高	赤ムA9
251	56.6	上脚部	低	E-m40	SD06	1脚部3/12	108	-	21	内:PP-20 94 外:PP-20 94	密	直	脚高	
252	39.4	上脚部	低	E-m40		1脚部3/12	130	-	-	内:PP-11 ⁺ 外:PP-11 ⁺	密	直	脚高	

203	27.4	山茶靴	靴	鞋	样土中	3-12	14.6	58	58	内:2077-19 外:2077-19 鞋:2077-19	女中童	鞋	灰白	
203	77.5	男生土部	襪	F+u22	SK52	11個組/12	16.4	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
202	71.4	男生土部	襪	F+u22	SK52	11個組小片	--	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
202	71.2	男生土部	襪	F+u22	SK52	11個組/12	17.8	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
204	71.1	男生土部	襪	F+u22	SK52	11個組/12	16.0	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
203	70.7	男生土部	襪	F+u22	SK52	11個組/12	20.2	--	--	内:1277-19 外:1277-19 襪:1277-19	男	鞋	12.5A+鞋	
206	70.5	男生土部	襪	F+u22	SK52	11個組小片	--	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
202	77.7	男生土部	襪	F+u22	SK52	11個組小片	--	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
209	76.2	男生土部	襪	F+u22	SK52	11個組10-12	16.4	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
200	80.1	男生土部	台付襪	F+u22	SK52	11個組/12	15.5	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
219	89.2	男生土部	襪	F+u22	SK52	底面定弁	--	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	男	鞋	12.5A+鞋	底面厚さ3×厚(規定)
271	70.1	男生土部	台付襪	F+u22	SK52	台組5-12	--	7.4	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
272	70.2	男生土部	台付襪	F+u22	SK52	台組3-12	--	9.6	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
273	79.2	男生土部	台付襪	F+u22	SK52	台面定弁	--	8.2	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
274	79.3	男生土部	台付襪	F+u22	SK52	台組5-12	--	8.6	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
275	77.2	男生土部	台付襪	F+u22	SK52	台組9-12	--	8.8	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
276	80.1	男生土部	袜	F+u22	SK52	6-12	10.4	10	8.8	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	底面大
277	81.1	男生土部	高杯	F+u22	SK52	脚部11号定弁	23.3	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	底面大
279	79.4	男生土部	高杯	F+u22	SK52	脚部底面	--	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	男	鞋	12.5A+鞋	底面2×底面
279	82.3	男生土部	高杯	F+u22	SK52	脚部11号定弁	--	12.4	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	1号底孔
280	79.1	男生土部	高杯	F+u22	SK52	脚部3-12	--	13.0	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	1号底孔
281	77.1	男生土部	高杯	F+u22	SK52	脚部底面	--	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	男	鞋	12.5A+鞋	1号底孔
282	77.4	男生土部	高杯	F+u22	SK52	杯-脚部6-12	--	--	--	内:1877-19 外:1877-19 襪:1877-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	1号底孔
282	79.3	男生土部	高杯	F+u22	SK52	6-12	11.0	9.0	14.0	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	1号底孔
284	82.1	男生土部	高杯	F+u22	SK52	6-12	13.8	12.0	19.7	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	1号底孔
285	79.4	男生土部	手缝形土部	F+u22	SK52	保型2-12	--	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
286	80.2	男生土部	鞋	F+u22	SK52	11個組/12	13.7	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
287	80.3	男生土部	鞋	F+u22	SK52	底面定弁	--	4.5	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
288	71.3	男生土部	鞋	F+u22	SK52	11個組小片	--	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
289	77.6	男生土部	鞋	F+u22	SK52	11個組/12	17.2	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
290	80.2	男生土部	鞋	F+u22	SK52	底面定弁	--	8.3	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
291	80.4	男生土部	鞋	F+u22	SK52	底面定弁	--	5.8	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
292	89.3	男生土部	鞋	F+u22	SK52	底面6-12	--	6.6	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
290	78.1	男生土部	鞋	F+u22	SK52	9-12	--	5.0	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
295	82.2	土脚部	鞋台	F+u22	SK07	11号定弁	9.1	10.6	9.6	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	1号底孔
296	88.3	土脚部	台付襪	F+u22	SK07	11個組5-12	14.8	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
297	86.1	土脚部	台付襪	F+u22	SK07	台組10-12	--	9.6	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
298	88.2	土脚部	台付襪	F+u22	SK07	--	--	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	男	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
299	85.1	土脚部	台付襪	F+u22	SK07	11/12	15.0	9.2	25.4	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
300	76.1	土脚部	台付襪	F	SH84	11個組/12	14.2	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
301	80.1	土脚部	台付襪	F+u22	SH84	6-12	17.7	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
302	73.1	土脚部	台付襪	F	SH84	11個組/12	14.4	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
303	73.2	土脚部	襪	F+u22	SH84	11個組/12	14.0	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
304	72.7	土脚部	台付襪	F	SH84	台面定弁	--	9.4	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	男	鞋	12.5A+鞋	
305	75.1	土脚部	高脚襪	F+u22	SH84	6-12	18.6	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
306	74.3	土脚部	大帮襪	F+u22	SH84	11個組/12	20.0	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	男	鞋	12.5A+鞋	
307	72.2	短足部	杯(高)	F+u22	SH84	11個組/12	12.4	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
308	83.2	短足部	杯(高)	F+u22	SH84	11号定弁	12.0	4.4	6.3	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
309	88.1	短足部	杯(高)	F+u22	SH84	11号定弁	12.3	4.3	6.3	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	
310	83.1	短足部	杯(高)	F+u22	SH89	9-12	11.4	--	4.5	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
311	72.1	短足部	杯(高)	F+u22	SH84	3-12	15.2	--	5.8	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
312	74.2	土脚部	襪	F+u22	SH84	11個組/12	20.0	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
313	73.3	短足部	杯(高)	F+u22	SH80	11個組/12	12.4	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
314	73.4	土脚部	襪	F+u22	SH80	11個組小片	--	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
313	74.1	土脚部	底孔部	F+u22	SH80	11個組/12	21.2	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
318	85.1	土脚部	襪	F+u22	SH85	11個組/12	15.9	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
317	86.2	土脚部	台付襪	F+u22	SH85	11個組/12	17.3	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
318	84.1	土脚部	台付襪	F+u22	SH85	10-12	16.8	8.3	18.3	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	外側保護套
319	73.3	土脚部	台付襪	F	SH85	11個組/12	12.0	--	--	内:2077-19 外:2077-19 襪:2077-19	男	鞋	12.5A+鞋	
320	83.3	土脚部	袜	F+u22	SH85	定弁	10.2	--	8.3	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	女中童	鞋	12.5A+鞋	底面大
321	72.4	土脚部	高杯	F	SH85	脚部底面	--	--	--	内:177-19 外:177-19 襪:177-19	男	鞋	12.5A+鞋	

322	72.0	上脚部	台付裏	F+22	SH45	台部のみ	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
323	72.6	上脚部	台付裏	F+22	SH45	台部分布	-	9.0	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
324	96.4	上脚部	台付裏	F+22	F914	1脚部2/3	18.0	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
328	83.2	上脚部	併	F+22	SD43	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	内装敷設済
327	83.1	両部部	併 (兼)	F+22	SD43	両部3/12	-	10.0	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
328	83.4	両部部	併	F+22	SD43	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
329	87.5	上脚部	併	F+22	SK01	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
330	87.2	山形脚	併	F+22	SK01	両部5/12	-	6.4	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
331	87.1	山形脚	併	F+22	SK01	両部分布	-	7.0	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
332	87.4	山形脚	併	F+22	SK02	両部3/12	-	6.8	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
333	87.3	山形脚	併	F+22	SK03	両部分布	-	6.2	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
335	83.3	上脚部	併	F+22	SD46	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	外装敷設済
336	83.6	上脚部	併	F+22	SD47	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	外装敷設済
337	85.0	上脚部	併	F+22	SD56	11/12	7.8	-	2.6	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
338	85.6	上脚部	併	F+22	SD56	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	外装敷設済
339	85.3	上脚部	併	F+22	SD56	脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	外装敷設済
340	85.7	白組	併	F+22	SD56	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
341	83.5	両部部	併	F+22	SD56	両部1/12	-	5.0	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
342	86.3	両部部 (空溜)	併	F+22	SD56	両部7/12	-	10.8	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	内装敷設による補修
344	86.4	両部部 (空溜)	併	F+22	SD56	1脚部3/12	31.0	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
343	84.5	両部部 (空溜)	併	F+22	SD58	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
346	84.1	両部部	併	F+22	SD58	両部5/12	-	6.0	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
347	83.7	白組	併	F+22	SD58	両部1/12	-	5.9	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
348	84.4	上脚部	併	F+22	SD58	1脚部2/12	24.6	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	外装敷設済
349	95.8	上脚部	併	F+22	P61	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
350	95.6	上脚部	併	F+22	P610	1脚部1/12	7.2	-	1.7	片-FP 2C 99%	併	良	併	
351	95.5	上脚部	併	F+22	P66	1脚部1/12	8.4	-	2.0	片-FP 2C 99%	併	良	併	
352	96.2	山形脚	併	F+22	P66	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
353	95.4	山形脚	併	F+22	P63	両部3/12	-	8.0	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
354	94.8	山形脚	併	F+22	P61	両部3/12	16.0	7.2	5.6	片-FP 2C 99%	併	良	併	
355	95.1	両部部	併	F+22	P63	1脚部2/12	24.0	12.7	8.7	片-FP 2C 99%	併	良	併	
357	95.3	上脚部	併	F+22	P67	3/12	8.0	-	1.7	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
358	92.1	上脚部	併	F+22	P67	7/12	13.8	-	3.0	片-FP 2C 99%	併	良	併	
359	93.3	上脚部	併	F+22	P67	1脚部2/12	22.8	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	外装敷設済
360	93.1	上脚部	併	F+22	P67	1脚部3/12	33.0	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	外装敷設済
361	73.5	両部部	併	F+22	SH45	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
362	84.2	両部部	併	F+22	SD56	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	外装敷設済
363	86.1	両部部	併	F+22	SD56	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	外装敷設済
364	96.1	両部部	併	F+22	F61	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
365	83.9	両部部	併	F+22	SD65	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
366	83.8	両部部	併	F+22	SD56	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
367	85.2	両部部	併	F+22	SD56	両部9/12	-	5.9	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	外装敷設済
368	86.6	両部部	併	F+22	SD56	両部4/12	-	4.1	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
369	88.1	両部部	併	F+22	SD56	6/12	17.4	5.8	22.5	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	両部穿孔1ヶ所 (補修済)
370	86.5	上脚部	併	F+22	SD56	脚部2/12	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
371	73.6	両部部	併	F+22	SH44	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
372	97.1	両部部	併	F+22	SH42	両部2/12	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
373	97.6	両部部	併	F+22	SH42	両部3/12	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
374	96.1	両部部	併	F+22	併上中	併部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
375	81.2	上脚部	併	F+22	併上中	併部3/12	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
376	86.6	両部部	併	F+22	併上中	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
377	86.3	両部部	併	F+22	併上中	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	外装敷設済
378	94.6	両部部	併	F+22	併上中	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
379	97.7	両部部	併	F+22	併上中	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
380	94.4	両部部	併	F+22	併上中	1脚部小巾	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	外装敷設済
381	81.3	両部部	併	F+22	併上中	併部分布	-	2.4	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
382	84.7	両部部	併	F+22	併上中	併部3/12	-	5.2	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	
383	86.4	上脚部	併	F+22	併上中	併部2/12	14.0	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
384	86.8	上脚部	併	F+22	併上中	併部2/12	14.0	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	
385	82.7	上脚部	併	F+22	併上中	併部2/12	12.0	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	併	外装敷設済
386	86.5	両部部	併	F+22	併上中	併部1/12	-	-	-	片-FP 2C 99%	併	良	に、おし	

387	96.9	衛生士部	高杉	F	排土中	柳井部のみ	-	-	-	内 171 外 181	柳井部直設支	普	員	程	港川1段1+河川下段2+河川
388	97.9	土師部	高杉	F	排土中	柳井部のみ	-	-	-	内 77 外 124		中卒	員	工2+程	3方溝川
389	98.1	陶器	体	F&22		1100部/12	30.0	-	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
390	97.8	緑地陶器	シフト F	排土中	鹿部3-12	-	23	-	-	内 1000 外 1000		普	員	技資	
391	97.3	緑地陶器	陶 F	排土中	鹿部2-12	-	78	-	-	内 1000 外 1000		普	員	技資	
392	94.1	土師部	員	F&22		5-12	8.0	-	1.2	内 77, 20 94 外 100, 20 94		普	員	技資	
393	92.6	土師部	員	F&22		定存	7.4	-	1.5	内 77, 20 94 外 100, 20 94		普	員	技資	
394	94.3	土師部	員	F&22		1100部小片	-	-	-	内 10000 外 10000		普	員	工2+資額	内函販付者
395	96.3	土師部	引取	F&22		1100部小片	-	-	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
396	94.2	土師部	茶湯	F&22		1100部/12	12.0	-	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
397	96.7	土師部	茶湯	F	排土中	柳井部のみ	-	-	-	内 77, 20 94 外 100, 20 94		普	員	程	
398	92.4	山形焼	陶	F&22		5-12	8.0	44	26	内 10000 外 10000		普	員	技資	
399	92.5	山形焼	陶	F&22		5-12	15.2	60	50	内 10000 外 10000		普	員	技資	
400	97.4	山形焼	陶	F&22		鹿部定存	-	7.0	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
401	92.3	山形焼	陶	F&22		鹿部/12	-	7.2	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
402	97.2	山形焼	陶	F&22		1100部/12	13.9	-	-	内 10000 外 10000		中卒	員	技資	
403	92.2	山形焼	陶	F&22		鹿部/12	-	5.4	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
404	92.1	山形焼	陶	F	排土中	鹿部/12	-	6.2	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
405	97.5	山形焼	陶	F&22		鹿部定存	-	6.5	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
406	97.3	山形焼	陶	F&22		鹿部/12	-	6.0	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
407	98.2	土製品	土師 F	排土中	定存		6.7	1.2	-	内 77, 20 94 外 100, 20 94		中卒	員	程	82g
408	98.1	土製品	土師 F	排土中			3.5	0.9	-	内 77, 20 94 外 100, 20 94		普	員	工2+資額	22g
409	81.4	土製品	土師 F	排土中	定存		3.2	1.6	-	内 77, 20 94 外 100, 20 94		普	員	工2+程	68g
410	98.2	土製品	土師 F	排土中			3.7	1.2	-	内 77, 20 94 外 100, 20 94		普	員	工2+資額	44g
411	130.3	衛生士部	高杉	G+1	P&1	柳井部のみ	-	-	-	内 100, 12 94 外 100, 12 94		普	員	程	3方溝川
412	130.5	衛生士部	高杉	G+1	P&1	柳井部のみ	-	-	-	内 100, 12 94 外 100, 12 94		普	員	工2+程	3方溝川
413	130.4	衛生士部	高杉	G+1	P&1	柳井部のみ	-	-	-	内 77, 20 94 外 100, 12 94		普	員	程	3方溝川
414	131.2	衛生士部	徳	G+1	P&1	鹿部3-12	-	-	-	内 77, 20 94 外 100, 12 94		中卒	員	工2+程	
415	131.3	土師部	徳	G+1	P&1	鹿部定存	-	4.2	-	内 10000 外 10000		中卒	員	程	
416	97.1	鹿部部	併 (兼)	G+7	SH25	1100部小片	-	-	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
417	97.5	土師部	併	G+7	SH25	5-12	9.8	-	3.0	内 77 外 77		普	員	技資	
418	97.2	土師部	員	G+7	SH25	1100部小片	-	-	-	内 10000 外 10000		普	員	程	内函販付者
419	99.2	土師部	兼	G+66	SH25	1100部定存	17.2	-	-	内 10000 外 10000		普	員	程	
420	118.2	土師部	兼	G+9	SK18	小片	-	-	-	内 10000 外 10000		中卒	員	技資	
421	131.1	土師部	高杉	G+9	SK18	柳井部のみ	-	-	-	内 77 外 77		中卒	員	程	
422	96.8	土師部	併	G+6	SK15	1100部/12	20.0	-	2.0	内 10000 外 10000		普	員	程	内函販付者
423	120.7	土師部	併	G+9	SD36	1100部/12	13.4	-	3.3	内 10000 外 10000		普	員	程	内函販付者
424	120.6	土師部	併	G+9	SD36	1100部小片	-	-	-	内 10000 外 10000		中卒	員	工2+資額	
425	121.2	土師部	兼	G+9	SD36	1100部/12	12.5	-	-	内 77, 20 94 外 100, 20 94		普	員	工2+程	
426	121.4	土師部	兼	G+9	SD36	1100部/12	12.0	-	-	内 10000 外 10000		中卒	員	工2+程	
427	114.1	土師部	兼	G+9	SD36	1100部/12	19.6	-	-	内 10000 外 10000		中卒	員	程	
428	115.1	土師部	兼	G+9	SD36	1100部/12	-	-	-	内 10000 外 10000		普	員	工2+資額	
429	118.5	土師部	兼	G+65	SK28	1100部/12	6.3	-	1.3	内 10000 外 10000		中卒	員	技資	
430	118.7	山形焼	陶	G+65	SK28	1100部小片	-	-	-	内 10000 外 10000		中卒	員	技資	
431	118.3	陶器(兼付共産)	G+63	SK31	90/12	90/12	90/12	5.1	1.9	内 10000 外 10000		普	員	技資	
432	116.7	土師部	兼	G+63	SK31	1100部/12	34.8	-	-	内 10000 外 10000		中卒	員	技資	内函販付者
433	118.8	土師部	兼	G+62	SK34	1100部小片	-	-	-	内 77 外 77		中卒	員	技資	
434	116.2	土師部	引取	G+63	SK36	1100部小片	-	-	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	内函販付者
435	116.3	山形焼	陶	G+63	SK36	鹿部/12	-	7.4	-	内 10000 外 10000		中卒	員	技資	
436	116.4	土師部	兼	G+63	SK39	1100部/12	8.0	-	1.8	内 10000 外 10000		中卒	員	程	
437	117.2	土師部	兼	G+63	SK39	1100部/12	30.5	-	-	内 10000 外 10000		中卒	員	技資	内函販付者
438	116.5	土師部	兼	G+63	SK40	1100部/12	7.9	-	1.3	内 10000 外 10000		普	員	技資	
439	118.1	土師部	併	G+63	SK40	90/12	8.8	-	2.2	内 77, 20 94 外 100, 20 94		中卒	員	技資	
440	117.1	土師部	兼	G+63	SK40	1100部小片	-	-	-	内 10000 外 10000		中卒	員	工2+程	内函販付者
441	116.6	土師部	兼	G+63	SK40	1100部小片	-	-	-	内 77 外 77		中卒	員	工2+資額	内函販付者
444	91.2	陶器(兼付共産)	G+62	SK44	1100部/12	12.6	6.6	2.5	1.0	内 10000 外 10000		普	員	技資	内函販付者
445	97.9	土師部	併	G+2	SK46	1100部/12	9.6	-	1.7	内 77, 20 94 外 100, 20 94		普	員	工2+程	
446	92.3	土師部	併	G+1	SK47	1100部小片	-	-	-	内 77 外 77		普	員	技資	
447	91.3	引取	G+1	SK48	鹿部/12	-	6.0	-	-	内 10000 外 10000		普	員	技資	
448	95.2	土師部	併	G+1	SK48	1100部/12	11.4	-	-	内 77, 20 94 外 100, 20 94		普	員	工2+程	
449	145.5	土師部	引取	G+1	SK49	1100部小片	-	-	-	内 77, 20 94 外 100, 20 94		普	員	工2+資額	内函販付者

450	1435	陶器(瀬戸美濃)	皿	G-e1	SK39	口縁部1/2	126	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
451	1423	陶器(瀬戸美濃)	丸筒	G-e1	SK39	口縁部1/2	114	-	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	良	汎用	
452	1425	陶器(瀬戸美濃)	小杯	G-e1	SK39	底部完全	-	3.7	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	密	汎用	
453	1451	陶器(瀬戸美濃)	碟鉢	G-e1	SK39	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	
454	1452	陶器(瀬戸美濃)	碟鉢	G-e1	SK39	碟鉢小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	内筒使用による密成
455	1462	陶器(常滑)	鉢	G-e1	SK39	口縁部1/2	156	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
456	1461	陶器(常滑)	鉢	G-e1	SK39	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
457	1454	陶器(常滑)	鉢	G-e1	SK39	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
458	1453	陶器(常滑)	鉢	G-e1	SK39	底部A/2	167	132	6.2	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	
459	1421	陶器(常滑)	大鉢	G-e1	SK39	底部1/2	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	良	密	3足、内筒に密付着
460	1422	陶器(常滑)	密	G-e1	SK39	口縁部1/2	135	-	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	良	汎用	
461	1465	陶器(常滑)	鉢	G-e1	SK39	底部1/2	-	17.2	-	内 底 底:PP 底:PP	密	不	汎用	内筒使用による密成
462	874	土師器	皿	G-02	SK35	3/2	8.0	-	1.3	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
463	1432	土師器	引蓋	G-02	SK35	口縁部1/2	25.9	-	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	密	汎用	
464	911	土師器	引蓋	G-02	SK35	口縁部A/2	15.0	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	外筒密付着
465	891	土師器	引蓋	G-22	SK35	口縁部1/2	28.0	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	外筒密付着 構成部品品1.8mm
466	1434	土師器	引蓋	G-02	SK35	口縁部1/2	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	密	汎用	外筒密付着
467	1424	陶器(瀬戸美濃)	大目茶碗	G-02	SK35	口縁部1/2	11.8	-	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	密	汎用	
468	1433	陶器(常滑)	鉢	G-02	SK35	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	良	汎用	内筒使用による密成
469	878	陶器(常滑)	密	G-02	SK35	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
470	881	瓦	軒平瓦	G-02	SK35	-	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
471	907	土師器	皿	G-e1	SK35	6/12	7.8	-	0.8	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
472	903	土師器	皿	G-e1	SK35	5/12	8.0	-	1.0	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
473	904	土師器	皿	G-e1	SK35	口縁部3/2	8.8	-	1.5	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	
474	1467	土師器	皿	G-e1	SK35	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
475	901	土師器	皿	G-e1	SK35	小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
476	1466	土師器	皿	G-e1	SK35	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
477	902	土師器	皿	G-e1	SK35	口縁部3/2	8.8	-	2.0	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
478	1321	土師器	皿	G-e2	SK35	口縁部1/2	12.7	-	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	密	汎用	
479	909	山系陶	碗	G-e1	SK35	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	密着
480	906	山系陶	碗	G-e1	SK35	口縁部1/2	12.0	6.6	5.2	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
481	1464	陶器(瀬戸美濃)	大目茶碗	G-e1	SK35	口縁部1/2	11.6	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	
482	1465	陶器(瀬戸美濃)	大目茶碗	G-e1	SK35	口縁部1/2	13.2	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	PP-7系
483	905	青磁	小杯	G-e1	SK35	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	PP-7系	
484	1005	山系陶	碗	G-e1	SD32	底部10/2	-	5.8	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	密	汎用	
485	928	山系陶	碗	G-e1	SD32	底部完全	-	6.4	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
486	921	山系陶	碗	G-e1	SD32	底部5/2	-	7.2	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
487	965	陶器	鉢	G-e1	SD32	2/2	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	内外筒密付着
488	945	土師器	鍋	G-e1	SD30	口縁部1/2	30.0	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	外筒密付着
489	926	土師器	土師	G-10	SD34	法字完全	5.6	1.1	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	5足
490	1414	土師器	鍋	G-e2	SD21	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	内外筒密付着
491	1412	土師器	引蓋	G-02	SD21	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	外筒密付着
492	1405	陶器(瀬戸美濃)	香炉	G-02	SD21	底部2/2	14.0	10.0	5.0	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	
493	1404	陶器(常滑)	鉢	G-02	SD21	口縁部1/2	21.8	-	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	良	密	
494	929	土師器	皿	G-e5	SD24	6/12	10.6	-	1.9	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
495	923	土師器	皿	G-h0	SD26	法字完全	8.0	-	1.4	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	密付着
496	9910	土師器	皿	G-h0	SD26	10/12	7.9	-	1.5	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	密付着
497	925	土師器	皿	G-h0	SD26	完全	8.3	-	1.4	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	密付着
498	999	土師器	皿	G-h0	SD26	口縁部6/2	7.8	-	1.4	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
499	922	土師器	皿	G-h0	SD26	5/12	7.9	-	1.3	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	
500	994	陶器(瀬戸美濃)	大目茶碗	G-h0	SD26	底部完全	-	4.4	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	密	
501	1283	陶器(瀬戸美濃)	鉢	G-h0	SD26	底部1/2以下	-	12.8	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
502	1388	土師器	引蓋	G-g1	SD34	口縁部1/2	38.5	-	-	内 底 底:PP 底:PP	中々	密	汎用	外筒密付着
503	1053	土師器	皿	G-g1	SD34	小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
504	1052	土師器	皿	G-g1	SD34	口縁部1/2	8.8	-	2.1	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
505	1023	土師器	茶碗	G-hg1	SD34	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	外筒密付着 構成部品品1.8mm
506	1041	土師器	引蓋	G-hg1	SD34	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
507	1021	土師器	引蓋	G-hg1	SD34	口縁部小巾	-	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	
508	1034	土師器	引蓋	G-hg1	SD34	口縁部1/2	26.0	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	外筒密付着
509	1121	土師器	引蓋	G-g1	SD34	口縁部1/2	22.4	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	外筒密付着
510	1025	土師器	引蓋	G-hg1	SD34	口縁部1/2	22.0	-	-	内 底 底:PP 底:PP	密	良	汎用	外筒密付着 構成部品品品2.8mm

572	87.6	上脚部	付作業	G-02	SK45	1脚部2/32	142	-	-	内: 20F ¹ , 裏F ¹ 外: 20F ¹	密	良	1.2A1・密	
573	87.3	上脚部	付作業	G-02	SK45	1脚部小巾	-	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	
574	124.1	上脚部	密	G-g1	SD42	7/32	7.5	4.2	8.8	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	
576	134.7	上脚部	付作業	G	練上巾	1脚部2/32	-	9.8	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	1.2A1・密	
577	133.5	上脚部	練	G-h1	包合層	1脚部2/32	5.6	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	1.2A1・密	
579	134.5	上脚部	密	G-h1	包合層	底部2/32	-	7.0	-	鋼製本脚	粗	良	密	
579	137.1	上脚部	大型練	G-06	包合層	1脚部小巾	-	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	1.2A1・密	
580	136.5	上脚部	練	G	包合層	1脚部小巾	-	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	1.2A1・密	
581	134.1	上脚部	高巾	G-h1	包合層	練上巾2/32	-	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	
582	133.7	上脚部	練	-	練上巾	把手のみ	-	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	1.2A1・密	
583	135.0	上脚部	密	G-06	包合層	1脚部2/32	20.0	-	25	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	1.2A1・密	
584	137.2	密室部	密	G-b1	包合層	小巾	-	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	密室部材料が滑る
585	136.4	密室部	高巾	G-p7	包合層	練部6/32	-	11.6	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	
586	135.5	上脚部	密	G-b1	包合層	実厚	7.6	-	1.1	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	1.2A1・密	
587	135.6	上脚部	密	G-b1	包合層	1脚部5/32	8.8	-	2.1	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	1.2A1・密	
588	135.4	上脚部	密	G-06	包合層	1脚部2/32	9.2	-	1.7	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	
589	134.2	上脚部	密	G-h1	包合層	1脚部2/32	8.4	-	1.9	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	
590	135.9	上脚部	密	G-04	包合層	1脚部4/32	11.6	-	1.8	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	1.2A1・密	
591	135.7	上脚部	密	G-b1	包合層	1脚部6/32	11.2	-	2.5	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	1.2A1・密	
592	135.8	上脚部	密	G-04	包合層	1脚部2/32	12.0	-	2.1	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	
593	133.8	上脚部	練	G-h1	包合層	1脚部2/32	23.7	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	外部摩擦音
594	134.9	上脚部	練	G-h1	包合層	1脚部2/32	33.2	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	1.2A1・密	外部摩擦音
595	134.6	上脚部	引室	G-h1	包合層	1脚部小巾	-	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	1.2A1・密	
596	133.3	上脚部	引室	G	練上巾	1脚部小巾	-	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	密室部摩擦音2 + 密外部摩擦音
597	137.4	山手胸	胸	G-h1	包合層	1脚部2/32	15.0	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	
598	135.1	山手胸	胸	G	包合層	底部6/32	-	7.2	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	
599	135.2	山手胸	胸	G-M2	包合層	底部2/32	-	6.6	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	
600	133.1	山手胸	密	G-h1	包合層	7/32	9.6	5.0	3.1	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	
601	133.3	山手胸	密	G-M2	包合層	8/32	8.8	1.8	4.0	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	
602	133.6	胸部 (胸/F美透)	密	G	練上巾	6/32	8.2	2.0	4.5	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	底部外部に輪付
603	144.1	胸部 (胸/F美透)	密	G-h1	包合層	底部4/32	-	6.9	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	
604	144.3	胸部 (胸/F美透)	大巾胸胸	G-h1	包合層	底部2/32	-	4.6	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	
605	144.7	胸部 (胸/F美透)	密	G-04	包合層	6/32	12.0	8.4	3.5	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	内面ハナ文字線3 + 内
606	139.2	胸部 (実透)	密	G-h1	包合層	9/32	11.7	6.3	2.9	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	内面ハナ文字線3 + 内 裏面外部に輪付
607	144.6	胸部 (胸/F美透)	練	G-M2	包合層	底部2/32	-	13.8	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	
608	143.1	胸部 (胸/F美透)	練	G-h1	包合層	底部2/32	-	17.8	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	
609	144.2	胸部 (胸/F美透)	密	G-h1	包合層	1脚部2/32	6.4	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	密	良	密	
610	136.2	胸部	練	G-04	包合層	底部1/32	-	12.0	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	内面使用による磨減
611	144.4	胸部 (実透)	密	G-h1	包合層	1脚部1/32	15.2	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	
612	134.8	胸部 (実透)	練	G-h1	包合層	1脚部小巾	-	-	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	密	
613	144.5	胸部 (実透)	練	G-h1	包合層	底部2/32	-	11.8	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	1.2A1・密	内面使用による磨減
614	139.1	胸部 (実透)	練	G-h1	包合層	底部2/32	-	12.8	-	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	良	1.2A1・密	内面使用による磨減
615	138.1	胸部 (実透)	練	G-h1	包合層	1脚部1/32	35.0	14.4	13.9	内: 20F ¹ , 外: 20F ¹ 外: 20F ¹ , 裏: 鋼引線固定	中巾密	不良	表面磨	歪み大

鉄製品

NO	実測番号	種類	用途	適用・層位	寸法 (mm)		特記事項
					長さ	厚さ	
44	1003 - 7	刀子	E-00	S186	7.3	1.9	0.6
186	1003 - 8	刀子	E-00	P62	4.2	1.4	0.3
212	1001 - 6	釘	E-00	S235	9.2	0.9	0.7
213	1001 - 5	釘	E-00	S235	9.0	0.9	0.9
256	1001 - 1	鋼片鋼	E-04	-	11.2	2.2	0.3
257	1001 - 4	釘	E-00	F72	1.9	0.3	0.3
258	1001 - 2	釘	E-00	鋼板1 + 鋼板長工用鋼	3.3	0.6	0.4
259	1001 - 01	釘	E-00	F72	3.7	0.9	0.6
260	1002 - 02	釘	E-00	F71	3.9	0.4	0.7
334	1002 - 03	釘?	F-A-02	SK71	3.8	0.7	0.9
343	1002 - 04	釘	F-A-02	SD56	4.7	0.4	0.6
356	1001 - 10	釘	F-02	P19	4.4	0.7	0.5
443	1001 - 11	刀子	G-D-02	SK144	9.6	1.4	0.4
442	1002 - 01	釘?	G-D-02	SK144	20.9	4.5	0.5

石製品

NO	実測番号	種類	用途	適用・層位	寸法 (mm)		重量 (g)	石材	特記事項
					長さ	厚さ			
42	454	砥石	E-00	S186	4.2	3.0	2.5	41.8	砥石目 # 2000
46	591	砥石	E-00	S186	11.6	6.3	28	267.8	砥石目 # 2000
60	563	砥石	E-00	S180	7.2	5.3	39	129.3	砥石目 # 2000
93	214	磨石	E-00	SK26	6.4	4.1	5.7	207.6	磨石
123	584	砥石	E-00	SK22	10.1	3.1	29	117.5	44-7-01 砥石目 # 2000
139	584	砥石	E-00	SK23	4.2	4.2	12	154.6	磨石
195	461	砥石	E-00	S187	13.5	4.6	46	427.8	砥石目 # 600
254	364	磨石	E-00	SK16	8.1	7.2	2.7	197.4	山手胸
255	593	砥石	E-00	S187	8.5	4.4	39	174.5	44-7-01 砥石目 # 2000
294	585	砥石	F-00	SK33	1.5	1.5	0.5	0.0	0.0
325	592	砥石	F-00	S185	29.6	8.8	35	1246.8	砥石目 # 2000
375	963	175-G-1	G-M2	SK144	9.4	5.3	1.6	96.0	44-7-01 砥石目 # 2000

写真図版



F区全景（北から）



E区上層全景 (北から)



SK21~23・26 出土状況 (南東から)



S K 21~23・26 上層出土状況1 (南西から)



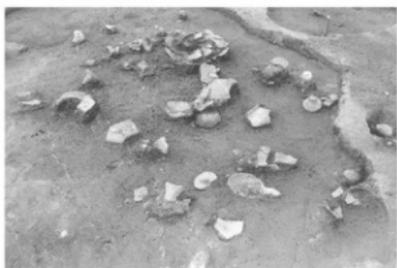
S K 21~23・26 上層出土状況2 (南西から)



S K 21~23・26 上層甗出土状況 (北から)



S K 21~23・26 下層出土状況1 (南西から)



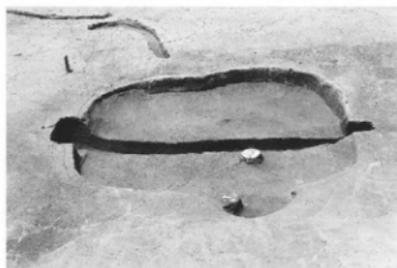
S K 21~23・26 下層出土状況2 (東から)



S K 21~23・26 下層出土状況3 (北から)



S K 21~23・26 下層紡錘車出土状況 (南から)



S Z 35 (東から)



E区下層全景 (北から)



SH 86 (南東から)



SH 86 出土状況 (南西から)



SH 90 (北西から)



SH 90 カマド (西から)



SH 96 カマド (北西から)



SH 95 とSH 96 (東から)



SH 93 とSK 85 (西から)



SK 85 (北から)



SK 85 出土状況 (西から)



F区全景 (南東から)



S K 60 付近 (北東から)



S D 56 ~ 58・65 付近 (北東から)



S H 50 付近 (北東から)



S D 42・43 付近 (北東から)



SH 44・SH 45 (北から)



SH 44・SH 45 (南から)



SH 44 出土状況 (南西から)



SH 44 Bb22 Pit 2 出土状況 (南西から)



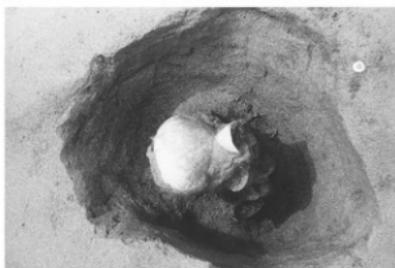
SH 45 出土状況 (南東から)



SH 45 出土状況 (北から)



SK 52・SK 67 (南東から)



SK 67 出土状況 (北から)



SK 52 出土状況 (南東から)



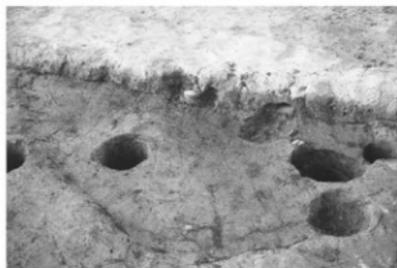
SK 52 出土状況 (東から)



G区全景 (北から)



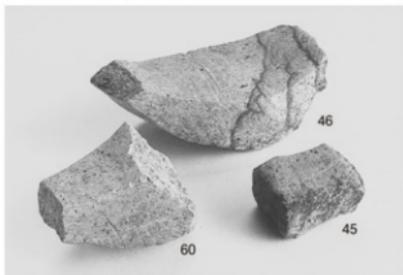
雨のG区 (東から)



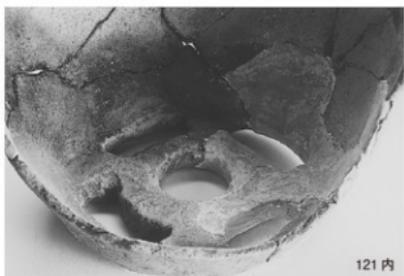
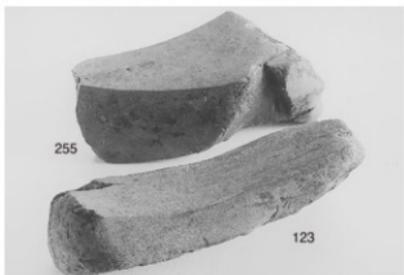
SH 125 (南から)



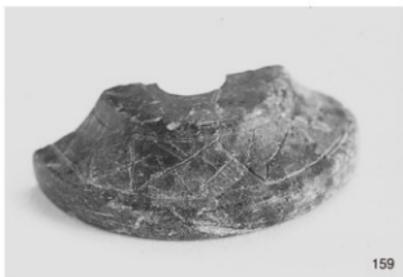
遺物 14・15・25・26・30・32・34



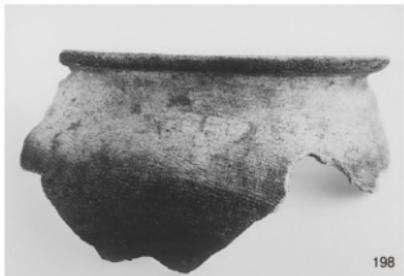
遺物 36・41・45・46・60・66・67・79・87・89



遺物 92・97・113・121・122・123・145・152・255



遺物 159・160・163・165・170・171・177



遺物 184・185・191・195・197・198・199・206



遺物 176・202・207・210・228・243・245・254



遺物 268・270・272・274・275・277・279・280



遺物 276・282・283・284・287・293・294



遺物 295・296・299・301・305・306



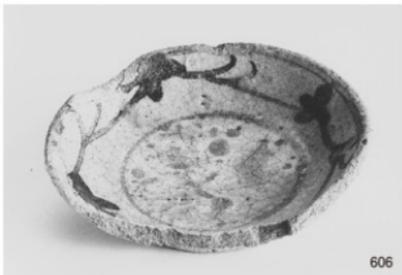
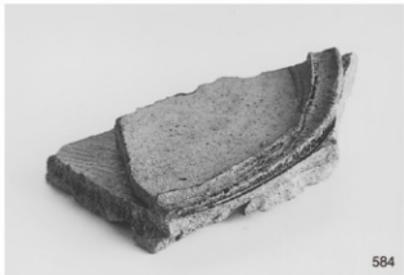
遺物 308・309・310・318・320・325・S H 45 出土鉄滓



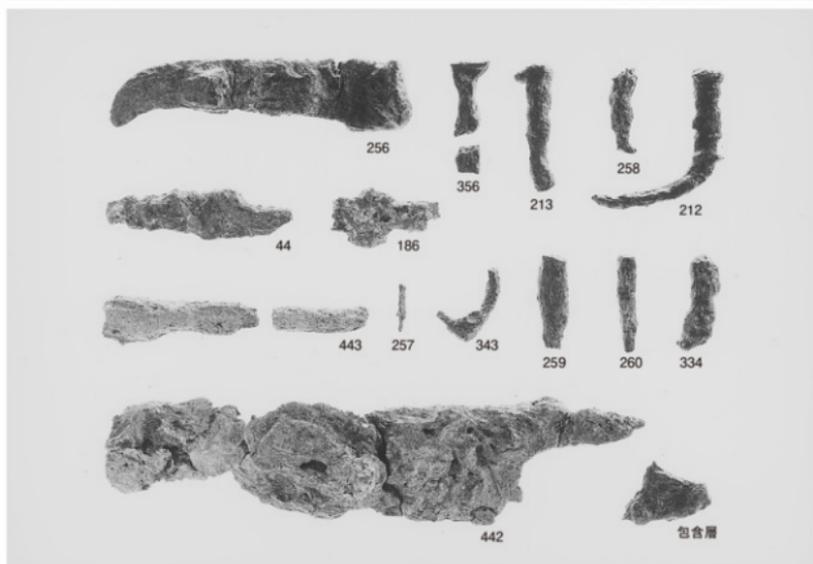
遺物 346・369・419・444・464・495・497



遺物 511・516・523・526・530・535・537



遺物 552・553・554・557・575・584・585・606



土錘、鉄製品

報告書抄録

ふりがな	やまむろいせき(だいにじ)はくつちようさほうこく							
書名	山室遺跡(第2次)発掘調査報告							
副書名								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	337							
編著者名	櫻井拓馬・高松雅文・中井良和							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596-52-1732							
発行年月日	西暦2013(平成25)年3月15日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
山室遺跡	津市牧町・新家町	24201	b 207	34° 39′ 38″	136° 28′ 36″	20110517 ～ 20110916	1,188	高度水利機能確保基盤整備事業 (桃園西部)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
集落跡	弥生時代～室町時代	竪穴建物・土坑・溝 中世墓		弥生土器・土師器 須恵器・陶磁器				
要約	<p>本遺跡は雲出川下流左岸の沖積平野に位置する。範囲確認調査では、蔵骨器を有する中世墓群を確認した。また、弥生時代中期の土器が出土したことから、当該期から山室遺跡が形成されたと推察される。</p> <p>E区では、古墳時代中期から後期にかけての廃棄土坑、竪穴建物6棟を検出した。土師器・須恵器のほか、砥石・紡錘車・韓式系土器も出土した。</p> <p>F区では弥生時代後期から古墳時代前期の土坑2基、古墳時代後期の竪穴建物7棟、中世の大型掘立柱建物を想定できる柱穴群が確認できた。竪穴建物のSH45では鉄滓2点、大型砥石1点が出土しており、鍛冶を行っていた可能性が高い。E区において砥石が多く出土したことからあわせて、山室遺跡の評価に関わる特記事項である。</p> <p>G区では奈良時代の竪穴建物1棟のほか、多数の中世・近世の溝・土坑が確認できた。中・近世の遺構・遺物が稠密であった点がG区の特徴である。G区出土の包丁は近世の初現的な事例であり、包丁の歴史を探る上で大きな意味をもつ。</p>							

三重県埋蔵文化財調査報告337

山室遺跡（第2次）発掘調査報告

2013年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 文化印刷
